

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2023年5月1日現在)

静岡県立大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向	3	40
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	44
基礎資料 5	教員・職員の数	5	45
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	46
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	47
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	58
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	59
基礎資料10	学生の健康管理	6	214
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	215
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	218
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	219

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料 1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的性と科目の順次性（学年・学期進行による学習順序）がわかるような図を示してください。

領域	担当アカリ(参考)	コマ数	1年生	2年生	3年生	4年生	5-6年生
薬学準備教育			11+2 教養科目 英語 数学 I 物理学 情報科学 基礎化学	9+1 教養科目 英語 研究室訪問	10+3 薬学英語 生物統計学		
1 基本事項 社会と薬学	A: 基本事項 B: 薬学と社会	3.5	教養科目 英語 命と倫理 薬学概論	9+2 教養科目 英語 研究室訪問	7.5+12.5 薬学と社会 I 薬学と社会 II	臨床医学総論 医療と工学 I 薬学と社会 II	赤色科目: 必修科目 青色科目: 選択科目 下線科目: 1単位
2 物理・分析化学	C1: 物質の物理的性質 C2: 化学物質の分析	6.5	(物理学) 物理化学 I 分析化学 I (基礎化学)	物理化学 III 生物物理化学 有機化学 II 有機化学 III 生薬学	薬品製造論 有機合成論 医薬化学 微生物薬品学	医薬情報学 II 薬学と社会 I 薬学と社会 II	
3 化学	C3: 化学物質の性質と反応 C4: 生体分子・医薬品の化学による理解 C5: 自然が生み出す薬物	10	分析化学 I (基礎化学) 無機化学	有機化学 I 有機化学 II 有機化学 III 生薬学	薬品製造論 有機合成論 医薬化学 微生物薬品学	医薬製造開発論	
4 生物学・生化学 生体防御・衛生薬学	C6: 生命現象の基礎 C8: 生体防御と微生物 D1: 健康 D2: 環境	12.5	生物化学 I 生物化学 II	生物化学 III 生物化学 IV 微生物学 衛生薬学 I 衛生薬学 II 放射化学 免疫学	糖鎖生物学 遺伝子工学 創薬科学		
5 生理・病態 薬理・治療	C7: 人体の成り立ちと生体機能の調節 E1: 薬の作用と体の変化 E2: 薬理・病態・薬物治療	17	公衆衛生学 機能形態生理学 I 機能形態生理学 II	機能形態生理学 I 機能形態生理学 II 薬理学 I 薬理学 II 衛生薬学 I 衛生薬学 II 毒性学	疾患学 I 疾患学 II 薬理学 III 薬物療法 I 薬物療法 II 漢方薬学 臨床検査学	症候学 疾患学 III 薬理学 IV 防生理学 薬物療法学 III	
6 薬剤・製剤	E4: 薬の生体内運命 E5: 製剤化のサイエンス	4.5	薬理学 I 製剤学	薬理学 I 製剤学	創薬工学	臨床薬物動態学	
7 医薬品情報 実務系	E3: 薬物治療に役立つ情報 F: 薬学臨床	3	医薬品情報学 I 薬学臨床	医薬品情報学 I 薬学臨床	医薬品情報学 I 薬学臨床	医薬品情報学 II 薬学臨床	
卒業研究 総合薬学演習	G: 薬学研究				総合薬学研究	総合薬学演習	

学習科目・身体運動科学、臨床検査総論、医用工学概論、臨床生理学、動物学、イングリッシュ・サートナプレゼンテーション、臨床薬学演習、精進救命連携演習については上記のマップに表示していない。
1) 医療とコミュニケーション学

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選))をつける。実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することができます。

	敵 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A. 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論 科学演習 早期体験学習				薬局実務実習 病院実務実習	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	命と倫理 薬学概論				薬局実務実習 病院実務実習	
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	命と倫理 薬学概論					
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	命と倫理 薬学概論					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論 早期体験学習			調剤学		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			調剤学		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			調剤学		
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学概論					
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	薬学概論 早期体験学習 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	医療とコミュニケーション シヨソソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習

2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅰ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学概論 自身体験学習 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学概論 早期体験学習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学概論 早期体験学習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史の流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論	薬学概論
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学概論	薬学概論	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	薬学概論	薬学概論	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	命と倫理 薬学概論	命と倫理 薬学概論	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ	薬学と社会Ⅰ
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習	医療とコミュニケーション シヨソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学概論	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学概論	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習	医療とコミュニケーション シヨソ学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ 遺伝子診断学	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ 遺伝子診断学	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学概論	臨床薬学演習	医薬品情報学Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
(3) 情報関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。			医療とコミュニケーション シヨソ学	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。			医療とコミュニケーション シヨソ学	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。			医療とコミュニケーション シヨソ学	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習

4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。					医療とコミュニケーション学	
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
【②】患者・生活者と薬剤師						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学概論				医療とコミュニケーション学	薬局実務実習 病院実務実習
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)					実務事前実習 医療とコミュニケーション学	
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学概論				調剤学	
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	薬学概論				調剤学	
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	薬学概論				調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)						薬局実務実習 病院実務実習
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)						薬局実務実習 病院実務実習
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①】学習の在り方						
1) 医療の「健康・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学的進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学概論 薬学概論 臨床薬学演習 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	薬学概論 科学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	薬学概論 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習
【②】薬学教育の概要						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論					薬局実務実習 病院実務実習
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学概論 早期体験学習					
【③】生涯学習						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論					薬局実務実習 病院実務実習
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学概論					薬局実務実習 病院実務実習
【④】次世代を担う人材の育成						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。					薬学と社会Ⅰ	
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)					薬学と社会Ⅰ	

3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)						薬局実務実習 病院実務実習
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)						薬局実務実習 病院実務実習
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)						薬局実務実習 病院実務実習
【②薬剤師と医薬品等に係る法規制】						
【①薬剤師の社会的立場づけと責任に係る法規制】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
7) 個人情報取扱いについて概説できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規制】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品)の定義について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ			薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規制について概説できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ			薬学と社会Ⅱ	病院実務実習
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ			薬学と社会Ⅱ	病院実務実習
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規制について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ			薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ			薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規制について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅱ			薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅱ			薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	薬学概論					薬局実務実習 病院実務実習
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規制について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ			薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
10) 健康被害救済制度について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅱ			調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。	薬学概論	医薬品情報学Ⅱ 薬学と社会Ⅰ				
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規制】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物の乱用防止規制について概説できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	薬学概論				薬学と社会Ⅱ 調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
【③社会保険制度と医療経済】						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保険制度の枠組みと特徴について説明できる。	薬学概論	薬学と社会Ⅰ			調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
2) 医療保険制度について説明できる。	薬学概論	薬学と社会Ⅰ			調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
3) 療養担当規則について説明できる。	薬学概論	薬学と社会Ⅰ			調剤学	薬局実務実習 病院実務実習

4) 公費負担医療制度について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
5) 介護保険制度について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
6) 薬師基準制度について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
【②医薬品と医療の経済性】				
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習 病院実務実習
2) 国民医療費の動向について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I		
(4) 地域における薬局と薬剤師				
【①地域における薬局の役割】				
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I	調剤学	薬局実務実習
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
【②地域における保健・医療・福祉の連携体制と薬剤師】				
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	薬学概論	薬学と社会 I		薬局実務実習
C. 薬学基礎				
G1. 物質の物理的性質				
(1) 物質の構造				
【①化学結合】				
1) 化学結合の様式について説明できる。	無機化学 基礎化学 物理化学 II			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	無機化学 基礎化学 物理化学 II			
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	無機化学 基礎化学 物理化学 II			
【②分子間相互作用】				
1) ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学 I 物理化学 I 物理化学 II	生物物理化学		
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I 物理化学 II	生物物理化学		
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I 物理化学 II	生物物理化学		
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I 物理化学 II	生物物理化学		
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I 物理化学 II	物理化学 III 生物物理化学		
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I	物理化学 III 生物物理化学		
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学 I 物理化学 I	物理化学 III 生物物理化学		

【①反応速度】		基礎化学	物理化学Ⅲ 物理化学Ⅲ 物理系薬学実習Ⅲ		
1) 反応次数と速度定数について説明できる。					
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)					
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。					
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)					
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。					
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。					
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。					
02 化学物質の分析					
(1) 分析の基礎					
【①分析の基本】					
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ	物理系薬学実習Ⅰ 生物系薬学実習Ⅰ		
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ	物理系薬学実習Ⅰ 生物系薬学実習Ⅰ		
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅱ	物理系薬学実習	薬品分析化学	
(2) 溶液中の化学平衡					
【①酸・塩基平衡】					
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。		分析化学Ⅰ 基礎化学 生物化学Ⅰ	物理化学Ⅲ 物理系薬学実習		
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ	物理化学Ⅲ 物理系薬学実習		
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		分析化学Ⅰ	物理化学Ⅲ 物理系薬学実習		
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。		分析化学Ⅰ 生物化学Ⅰ	物理化学Ⅲ 物理系薬学実習		
【②各種の化学平衡】					
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析化学Ⅰ 無機化学	物理系薬学実習		
2) 沈殿平衡について説明できる。		分析化学Ⅰ			
3) 酸化還元平衡について説明できる。		分析化学Ⅰ			
4) 分配平衡について説明できる。		分析化学Ⅰ			
(3) 化学物質の定性分析・定量分析					
【①定性分析】					
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		無機化学		薬品分析化学	
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。				薬品分析化学	
【②定量分析(容量分析・重量分析)】					
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。		生物化学Ⅰ 分析化学Ⅱ	物理系薬学実習		
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ	物理系薬学実習		
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ			
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅱ	物理系薬学実習		
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		分析化学Ⅱ	物理系薬学実習		
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			物理系薬学実習		
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅱ		薬品分析化学	
(4) 機器を用いる分析法					
【①分光分析法】					
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ 分析化学Ⅱ			
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ 分析化学Ⅱ			
3) 赤外吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ 分析化学Ⅱ			
4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分光分析法およびIP質量分析法の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ		薬品分析化学	
5) 旋光測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ			
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学Ⅱ			
【②核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法】					
1) 核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		物理化学Ⅱ	化学系薬学実習Ⅱ		

【③質量分析法】					薬品分析化学	
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。						
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。				生物物理化学		
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。				物理化学II		
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。				物理化学III		
2) 熱差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。				物理化学III		
【⑥分離分析法】						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。				物理系薬学実習II	薬品分析化学	
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。				化学系薬学実習I	薬品分析化学	
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。				化学系薬学実習II	薬品分析化学	
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。				生物系薬学実習I	薬品分析化学	
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)				物理系薬学実習II	薬品分析化学	
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。				物理系薬学実習II	薬品分析化学	
【③臨床現場で用いる分析技術】						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。				薬品分析化学	薬品分析化学	
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				薬品分析化学	薬品分析化学	
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。				薬品分析化学	薬品分析化学	
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。				臨床検査学	臨床検査学	
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。				薬品分析化学	薬品分析化学	
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。				臨床検査学	臨床検査学	
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。				臨床検査学	臨床検査学	
【③ 化学物質の性質と反応】						
【(1) 化学物質の基本的性質】						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。				基礎化学	有機化学II	
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。				基礎化学	有機化学II	
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。				基礎化学	有機化学III	
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。				基礎化学	有機化学IV	
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。				基礎化学	有機化学II	
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。				基礎化学	有機化学II	
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。				有機化学I	有機化学III	
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。				有機化学I	有機化学II	
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)				基礎化学	有機化学II	
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。				基礎化学	有機化学II	
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。				基礎化学	有機化学III	
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。				基礎化学	有機化学IV	
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。				基礎化学	有機化学IV	

5) 絶対配座の表示法を説明し、キラリル化合物の構造を書くことができる。(知識・技能)	基礎化学 有機化学 I		
6) 旋光性-旋光性二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	基礎化学		
7) フレイシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	基礎化学		
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	基礎化学		
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応			
【①アルカン】			
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	基礎化学		
2) アルカンの構造異性を図示することができる。(技能)	基礎化学		
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	基礎化学		
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	基礎化学		
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	基礎化学		
【②アルケン・アルキン】			
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II	
2) アルケンの代表的な酸化・還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II	
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II	
【③芳香族化合物】			
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	有機化学 II	有機化学 II	
2) 芳香族性の概念を説明できる。	有機化学 II	有機化学 II	
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	有機化学 II	有機化学 II	
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	有機化学 IV	有機化学 IV	
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	有機化学 IV	有機化学 IV	
(3) 官能基の性質と反応			
【④醇類】			
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎化学 有機化学 I	有機化学 III	
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	基礎化学	化学系実習 I 化学系実習 II	
【⑤有機ハロゲン化合物】			
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎化学 有機化学 I		
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	基礎化学 有機化学 I		
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学 I		
【⑥アルコール・フェノール・エーテル】			
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎化学 有機化学 I		
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 I		
【⑦アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】			
1) アルデヒドおよびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	
【⑧アミン】			
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 III	
【⑨電子効果】			
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機化学 IV	
【⑩酸中性・塩基性】			
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸中性を比較して説明できる。		有機化学 III	
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。		有機化学 III	
(4) 化学物質の構造決定			
【①核磁気共鳴 (NMR)】			
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		生薬学 化学系実習 II	
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。	有機化学 I	生薬学 化学系実習 II	
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。	有機化学 I	生薬学 化学系実習 II	
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。	有機化学 I	生薬学 化学系実習 II	

5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)	有機化学 I	生薬学 化学系薬学実習 II	
【②赤外線吸収 (IR)】			
1) IR スペクトルより得られる情報を鑑別できる。	有機化学 I	生薬学	
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	有機化学 I	生薬学	
【③質量分析】			
1) マススペクトルより得られる情報を鑑別できる。	有機化学 I	生薬学	
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)	有機化学 I	生薬学	
3) ピークの種類 (基連ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。	有機化学 I	生薬学	
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)	有機化学 I	生薬学	
【④総合演習】			
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)	生薬学 化学系薬学実習 I 化学系薬学実習 II		
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質			
【①無機化合物・錯体】			
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	無機化学		
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学		
3) 活性酸素と遷移酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学		
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	無機化学		
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	無機化学		
04 生体分子・医薬品の化学による理解			
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質			
【①医薬品の標的となる生体分子の化学構造】			
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、スクレオチドなど) の構造に基づき化学的性質を説明できる。	生物化学 I 生物化学 II	生物化学 III 生物物理化学 有機化学 IV	創薬科学
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生物化学 I 生物化学 II	生物化学 III 生物化学 IV 生物物理化学 有機化学 IV	創薬科学
【②生体内で機能する小分子】			
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	生物化学 II	創薬科学	
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。	創薬科学	創薬科学	
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	無機化学		
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	無機化学		
(2) 生体内での機能するリン、窒素化合物			
【①生体内で機能するリン、窒素化合物】			
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。	有機化学 IV	有機化学 IV	創薬科学
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。	生物化学 III	生物化学 III	創薬科学
【②酵素阻害剤と作用様式】			
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	創薬科学 医薬化学 (選)	創薬科学 医薬化学 (選)	
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	創薬科学 医薬化学 (選)	創薬科学 医薬化学 (選)	
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	創薬科学 医薬化学 (選)	創薬科学 医薬化学 (選)	
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】			
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) の相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)	
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)	
【④生体内で起こる有機反応】			
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。	創薬科学	創薬科学	
2) 薬物代謝の反応 (炭がんに性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。	創薬科学 毒理学	創薬科学	
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用			
【①医薬品と生体分子の相互作用】			
1) 医薬品と生体分子との相互作用を用いた化学的観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。	創薬科学 創薬科学 (選)	創薬科学 創薬科学 (選)	

1) 多様な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	生物化学Ⅲ			
【②タンパク質の成熟と分解】				
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。	生物化学Ⅳ			
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	生物化学Ⅳ			
【③酵素】				
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生物化学Ⅳ 生物物理化学 生物系薬学実習Ⅰ			
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物化学Ⅲ			
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生物化学Ⅳ			
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)	生物系薬学実習Ⅰ			
【④酵素以外のタンパク質】				
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生物化学Ⅱ 機能形態生理学Ⅰ			
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。	生物化学Ⅲ 衛生薬学Ⅰ 機能形態生理学Ⅱ			
【⑤生命情報を担う遺伝子】				
【①概論】				
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子工学 (選)		
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子工学 (選)		
【②遺伝情報を担う分子】				
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子診断学		
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子診断学		
3) RNAの種類 (mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	生物化学Ⅳ			
【③遺伝子の複製】				
1) DNAの複製の過程について説明できる。	生物化学Ⅳ			
【④転写・翻訳の過程と調節】				
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	生物化学Ⅳ			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	生物化学Ⅳ			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	生物化学Ⅳ			
4) RNAのプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。	生物化学Ⅳ			
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生物化学Ⅳ			
【⑤遺伝子の変異・修復】				
1) DNAの変異と修復について説明できる。	生物化学Ⅳ			
【⑥組換えDNA】				
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子工学 (選)		
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入、次殖動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。	生物化学Ⅳ	遺伝子工学 (選)		
【⑦生体エネルギーと生命活動を支える代謝系】				
【①概論】				
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生物化学Ⅲ			
【②ATPの産生と糖質代謝】				
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生物化学Ⅲ			
2) ケン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生物化学Ⅲ			
3) 電子伝達系 (酸化リジン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生物化学Ⅲ			
4) クリコゲンの代謝について説明できる。	生物化学Ⅲ			
5) 糖新生について説明できる。	生物化学Ⅲ			
【③脂質代謝】				
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。	生物化学Ⅲ			
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。	生物化学Ⅲ 機能形態生理学Ⅲ			
【④核酸状態と適食状態】				
1) 肌細胞状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	生物化学Ⅲ			
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生物化学Ⅲ 機能形態生理学Ⅲ			

2) 血管系について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学II 免疫学		
3) リンパ管系について概説できる。			
【⑧呼吸器系】			
1) 肺、気管支について概説できる。	機能形態生理学II 薬物療法学I		
【⑨消化器系】			
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態生理学III 薬物療法学II		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態生理学III 薬物療法学II		
【⑩泌尿器系】			
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態生理学II		
【⑪生殖器系】			
1) 生殖器系について概説できる。	機能形態生理学III		
【⑫内分泌系】			
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学III		
【⑬感覚器系】			
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態生理学III		
【⑭血液・造血器系】			
1) 血液・造血器系について概説できる。	機能形態生理学II 薬物療法学I		
(2) 生体機能の調節			
【①神経による調節機構】			
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生物化学II 機能形態生理学I		
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	生物化学II 機能形態生理学II		
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態生理学III		
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態生理学I 筋生理学(選)		
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】			
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学III		
【③オートクオイドによる調節機構】			
1) 代表的なオートクオイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学III		
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】			
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	免疫学		
【⑤血圧の調節機構】			
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態生理学II		
【⑥血量の調節機構】			
1) 血量の調節機構について概説できる。	機能形態生理学III		
【⑦体液の調節】			
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学III		
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態生理学II 機能形態生理学III		
【⑧体温の調節】			
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態生理学III		
【⑨血液凝固・線溶系】			
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態生理学II		
【⑩性周期の調節】			
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態生理学III 筋生理学(選)		
08 生体防御と微生物			
(1) 身体をまもる			
【① 生体防御反応】			
1) 食物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	免疫学		
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。	免疫学		
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	免疫学		
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	免疫学		
【②免疫を担当する組織・細胞】			
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	免疫学		
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	免疫学		
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	免疫学		
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】			

1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	免疫学	
2) Ⅱc 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	免疫学	
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。	免疫学	
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	免疫学 生物系薬学実習 I	
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	免疫学	
(2) 免疫系の制御とその破壊・免疫系の応用		
【① 免疫応答の制御と破壊】		
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	免疫学	
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	免疫学	薬物療法学 I
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	免疫学	
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	免疫学	
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	免疫学	
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	免疫学	
【② 免疫反応の利用】		
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキシイド、混合ワクチンなど）について説明できる。	免疫学	
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。	免疫学	
3) 血清療法と抗体医薬品について概説できる。	免疫学	
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）	免疫学 生物系薬学実習 I	医療系・生物系薬学実習
(3) 微生物の基本		
【① 総論】		
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	微生物学	
【② 細菌】		
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	微生物学	
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	微生物学	
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。	微生物学	
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。	微生物学	
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。	微生物学	
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。	微生物学	
【③ ウイルス】		
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	微生物学	
【④ 真菌・原虫・螺旋菌】		
1) 真菌の性状を概説できる。	微生物学	
2) 原虫および螺旋菌の性状を概説できる。	微生物学	
【⑤ 消毒と滅菌】		
1) 滅菌、消毒および殺菌、静置の概念を説明できる。	微生物学	
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。	微生物学	
【⑥ 検出方法】		
1) グラム染色を実施できる。（技能）	生物系薬学実習 I	
2) 無菌操作を実施できる。（技能）	生物系薬学実習 I	
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）	生物系薬学実習 I	
(4) 病原体としての微生物		
【① 感染症の成立と共生】		
1) 感染症の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。	微生物学	
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。	微生物学	
【② 代表的な病原体】		
1) DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。	微生物学	
2) RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。	微生物学	
3) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレシウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。	微生物学	
4) グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クラレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。	微生物学	
5) グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。	微生物学	

6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について解説できる。			微生物学
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて解説できる。			微生物学
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など) について解説できる。			微生物学
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腫トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、蟯虫、アニサキス、エキノコックスなど) について解説できる。			微生物学
D 衛生薬学			
D1 健康			
(1) 社会・集団と健康			
【①健康と疾病の概念】			
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学
【②疾病統計】			
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を解説できる。			公衆衛生学
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。			公衆衛生学
【③疫学】			
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。			公衆衛生学
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。			公衆衛生学
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			公衆衛生学
(2) 疾病の予防			
【①疾病の予防とは】			
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			衛生薬学 I
2) 健康増進政策 (健康日本 2.1 など) について解説できる。			衛生薬学 I
【②感染症とその予防】			
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			微生物学
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			微生物学
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			免疫学
【③生活習慣病とその予防】			
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			衛生薬学 I
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			衛生薬学 I
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)			衛生薬学 I
【④母子保健】			
1) 新生児マスタスクリーニングの意義を列挙し、その予防策について説明できる。			微生物学
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防策について説明できる。			微生物学
【⑤労働衛生】			
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。			毒理学
2) 労働衛生管理について説明できる。			毒理学
(3) 栄養と健康			
【①栄養】			
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			衛生薬学 I
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを解説できる。			衛生薬学 I
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。			衛生薬学 I
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。			衛生薬学 I
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			衛生薬学 I
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			衛生薬学 I
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生薬学 I
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生薬学 I
【②食品機能と食品衛生】			
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生薬学 II
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学 II 生物系薬学実習 I
3) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。			衛生薬学 II
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生薬学 II
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生薬学 II
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生薬学 II
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生薬学 II
【③食中毒と食品汚染】			

1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学 衛生薬学Ⅱ		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	衛生薬学Ⅱ		
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	衛生薬学Ⅱ		
D2 環境			
(1) 化学物質・放射線の生体への影響			
【①】化学物質の毒性			
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		毒性学	
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。		毒性学	
3) 重金属（Pb、Cd、Hg）、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		毒性学	
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		毒性学	
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）		毒性学	
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		毒性学	
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。		毒性学	
【②】化学物質の安全性評価と適正使用			
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）		毒性学	
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		毒性学	
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な重-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。	衛生薬学Ⅱ	毒性学	
4) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。	衛生薬学Ⅱ	毒性学	
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。		毒性学 薬品製造論（選）	
【③】化学物質による発がん			
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。	生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。		毒性学	
【④】放射線の生体への影響			
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	放射化学 生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
2) 代表的な放射線性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。	放射化学 生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。	放射化学 生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。	放射化学 生物系薬学実習Ⅰ	毒性学	
(2) 生活環境と健康			
【①】地球環境と生態系			
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	公衆衛生学		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	公衆衛生学		
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。	公衆衛生学		
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	公衆衛生学		
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）	公衆衛生学		
【②】環境健全と法的規制			
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	公衆衛生学		
2) 環境基本法の理念を説明できる。	公衆衛生学		
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚染、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。	公衆衛生学	薬品製造論（選） 薬品製造論（選）	
【③】水環境			
1) 風水の種類の挙げ、特徴を説明できる。	公衆衛生学		
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。	公衆衛生学		
3) 水運水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）	生物系薬学実習Ⅰ		
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	公衆衛生学		
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	生物系薬学実習Ⅰ		
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題を挙げ、対策を説明できる。	公衆衛生学		
【④】大気環境			
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	公衆衛生学		
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）	生物系薬学実習Ⅰ		
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。	公衆衛生学		
【⑤】室内環境			
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	公衆衛生学		

2) 室内環境と健康との関係について説明できる。	公衆衛生学						
【⑥臨床薬物】							
1) 医薬物の種類と処理方法を列挙できる。	公衆衛生学					薬品製造論 (選)	
2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	公衆衛生学					薬品製造論 (選)	
3) マニフェスト制度について説明できる。	公衆衛生学						
E 医薬薬学							
E1 薬の作用と体の変化							
(1) 薬の作用							
【①薬の作用】							
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。	薬理学 I 薬理学 II	創薬科学 医薬化学 (選) 医薬品安全性学					
2) アゴニスト (作用薬、作動薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)					
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)					
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは阻断された場合の生理反応を説明できる。	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(08(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)	生物化学 II	創薬科学 医薬化学 (選)					
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4 (1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)	薬理学 I 薬物動態学 I	創薬科学 薬物動態学 II 医薬化学 (選) 医薬品安全性学				臨床薬物動態学	
7) 薬物の選択 (標的を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。	薬理学 I	医薬品安全性学					
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4 (1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)	薬理学 I	医薬品安全性学					
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。	薬理学 I	医薬品安全性学				薬物療法学 II	
【②動物実験】							
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	生物系薬学実習 I 生物系薬学実習 II	医療系・生物系薬学実習 薬利系薬学実習					
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	生物系薬学実習 I 生物系薬学実習 II	医療系・生物系薬学実習 薬利系薬学実習					
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		医療系・生物系薬学実習 薬利系薬学実習					
【③日本薬局方】							
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。	生物系薬学実習 I 生物系薬学実習 II						
(2) 身体の病的変化を知る							
【①症状】							
1) 以下の症状・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、貧血、発熱、けいれん、意識障害、失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満、やせ、発汗、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心臓亢進、動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳、痰、血痰、咯血、めまい、頭痛、運動麻痺、不随意運動、筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、下血、腹部膨満 (腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛、関節腫脹、腰痛、記憶障害、知覚異常 (しびれを含む)、神経痛、視力障害、聴力障害	臨床薬学演習 臨床薬学演習	薬物療法学 I 薬物療法学 II 臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習				臨床医学総論 (選) 症候学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
【②病態・臨床検査】							
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習				臨床医学総論 (選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習				臨床医学総論 (選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床検査学 医療系・生物系薬学実習 臨床薬学演習				臨床医学総論 (選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習

4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	免疫学 臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	微生物学 臨床薬学演習	臨床検査学 臨床薬学演習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床検査学演習 実務事前実習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	薬療法Ⅰ 薬物療法Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習	薬療法Ⅰ 薬物療法Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床医学総論(選) 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	臨床薬学演習	薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 臨床薬学演習	薬療法Ⅰ 薬物療法Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	臨床薬学演習	薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 臨床薬学演習	薬療法Ⅰ 薬物療法Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害	臨床薬学演習	薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 臨床薬学演習	薬療法Ⅰ 薬物療法Ⅱ 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	臨床薬学演習	薬理学 臨床薬学演習	医薬品安全性学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ	疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ	疾患学Ⅲ		臨床薬学演習
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			疾患学Ⅰ 医薬品・生物系薬学実習			臨床薬学演習
【②体性神経系に作用する薬・筋の薬類の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅱ 薬物療法Ⅱ			臨床薬学演習
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅱ 医薬品安全性学 医薬品・生物系薬学実習			臨床薬学演習
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)						臨床薬学演習

4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Duchenne-Barré (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複)					疾患学 II	筋生理学 (連)	
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】							
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用 (WHO 三段階除痛ラダーを含む) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
3) 中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
4) 統合失調症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
5) うつ病、躁うつ病 (双極性障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
6) 不安神経症 (パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞、脳血栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討論する。(態度)					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複)、多発性硬化症、Marco lepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症					薬理学 III 薬物療法学 III	疾患学 III 薬物療法学 III	
【④化学構造と薬効】							
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。					薬理学 III 疾患学 II		
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬							
【①抗炎症薬】							
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	薬理学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	薬理学 I 薬物療法学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	薬理学 I 薬物療法学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。					薬理学 I		
3) 創傷治療の過程について説明できる。					薬理学 I		
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】							
1) アレルギー疾患 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	薬理学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	薬理学 I 薬物療法学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	薬理学 I 薬物療法学 I	疾患学 I 薬物療法学 I	
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					薬理学 I		
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)					薬理学 I		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス・ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹					薬理学 I		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬理学 I		
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 帯状疱疹、水痘症、光線過敏症、ペーネエット病					薬理学 I		

7)	以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ハセトウ病(重症)、橋本病(重症)、悪性貧血(重症)、1型糖尿病(重症)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重症)、シェーグレン症候群				薬理学 I 薬物療法学 II		
8)	以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーゼス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ	薬理学 I			薬物療法学 I		
9)	臓器移植(腎臓、肝臓、膵臓、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物療法学 III		薬物療法学 III
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】							
1)	関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 I			疾患学 I 薬理学 III 薬物療法学 I		
2)	骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 I			疾患学 I 薬理学 III 薬物療法学 I		
3)	変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患学 I 薬理学 III 薬物療法学 I		
4)	カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 I			薬理学 III 薬物療法学 I 疾患学 II		
【④化学療法と薬物】							
1)	免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬理学 I			疾患学 I		
【⑤循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系・生殖器系の疾患と薬】							
【①循環器系の薬、病態、治療】							
1)	以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室ブロック(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群	薬理学 II			疾患学 I 薬物療法学 I		
2)	急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II			疾患学 I 薬物療法学 I		
3)	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II			疾患学 I 薬物療法学 I		
4)	以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	薬理学 II			疾患学 I 薬物療法学 I		
5)	以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASD)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患				疾患学 I		
6)	循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				医療系・生物系薬学実習		
【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】							
1)	止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学 II			薬物療法学 I		
2)	抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学 II			薬物療法学 I		
3)	以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血	薬理学 II			薬物療法学 I 医療系・生物系薬学実習		
4)	機序性血癌内臓固症候群(IIIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II			薬物療法学 I		
5)	以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重症)、悪性リンパ腫(重症)				薬物療法学 I		
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、治療】							
1)	利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学 II			疾患学 II 薬物療法学 II		
2)	急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II			疾患学 II 薬物療法学 II		
3)	フロロ一ゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学 II			疾患学 II 薬物療法学 II		

4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腫瘍	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II	薬物療法学III	
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II	疾患学III 薬物療法学III	
【④】化学構造と薬物				
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬理学II	疾患学I		
(4) 呼吸器系・消化器系の薬物と薬効				
【①】呼吸器系疾患の薬、病態、治療				
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学I	疾患学I 薬物療法学I		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		疾患学I 薬物療法学I		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学I	疾患学I 薬物療法学I		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		疾患学I 薬物療法学I		
【②】消化器系疾患の薬、病態、治療				
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎	薬理学I 薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学I 薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学I 薬理学II	疾患学II 薬物療法学II		
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学II	疾患学II		
【③】化学構造と薬物				
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬理学II	疾患学I 疾患学II		
(5) 代謝系・内分泌系の薬物と薬効				
【①】代謝系疾患の薬、病態、治療				
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学III 疾患学II 薬物療法学II		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学III 疾患学II 薬物療法学II		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学III 疾患学II 薬物療法学II		
【②】内分泌系疾患の薬、病態、治療				
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学III 疾患学II		

2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾患学Ⅱ 薬物療法Ⅱ		
3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾患学Ⅱ 薬物療法Ⅱ		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ 疾患学Ⅱ 薬物療法Ⅱ		
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲狀腺機能亢進症 (低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内腫症 (重複)、アジソン病 (重複))			疾患学Ⅱ		
【③】化学構造と薬効					
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学Ⅲ 疾患学Ⅱ		
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬					
【①】順疾患の薬、病態、治療					
1) 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
2) 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
【②】耳鼻咽喉科疾患の薬、病態、治療					
1) めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症、花粉症、アレルギー性鼻炎 (重複)、喉頭蓋炎、咽頭炎、扁桃炎 (重複)、喉頭蓋炎			疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
【③】皮膚疾患の薬、病態、治療					
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
(E2) (2) 【②】免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照					
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
(E2) (7) 【⑤】真菌感染症の薬、病態、治療】参照					
3) 癬癩について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹 (重複)、蕁麻疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾燥 (重複)、接触性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複)			疾患学Ⅲ 薬物療法Ⅲ		
【④】化学構造と薬効					
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅱ	疾患学Ⅰ		
(7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬					
【①】抗菌薬					
1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床応用を説明できる。 β-ラクタム系、アミノグリコシド系、マクロライド系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (S1合剤を含む)、その他の抗菌薬			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
2) 細菌感染症に関連する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ		
【②】抗真菌薬の薬、病態、治療					
1) 主要な抗真菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
【③】細菌感染症の薬、病態、治療					
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (おたげ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			疾患学Ⅰ 薬物療法Ⅰ		

2)	以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ		
3)	以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				薬物療法学Ⅲ	
4)	以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			疾患学Ⅱ 薬物療法学Ⅱ		
5)	以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			疾患学Ⅱ	薬物療法学Ⅲ	
6)	脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅱ		
7)	以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病			疾患学Ⅰ	疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ	
8)	感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ		
9)	以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ		
10)	以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1)	ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
2)	サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
3)	インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ 薬物療法学Ⅰ 薬理学Ⅳ		
4)	ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、慢性肝炎、肝硬化、肝細胞がん）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）			疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ 薬物療法学Ⅱ		
5)	後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患学Ⅰ 薬物療法学Ⅰ 薬理学Ⅳ		
6)	以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病			疾患学Ⅰ		
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1)	抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患学Ⅰ 薬理学Ⅳ		
2)	以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			疾患学Ⅰ	薬物療法学Ⅲ	
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1)	以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
2)	以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）、薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、鉤虫症、アニサキス症			疾患学Ⅱ 薬理学Ⅳ		
【⑦悪性腫瘍】						
1)	腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。			疾患学Ⅰ	疾患学Ⅲ 薬物療法学Ⅲ	

2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の位置（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因				疾患学 I 臨床検査学	疾患学 III 薬物療法学 III	
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				創薬科学 疾患学 I 薬理学 I 薬理学 II 薬理学 III 薬理学 IV	疾患学 III 薬物療法学 III	
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬				創薬科学 疾患学 I 薬理学 IV	疾患学 III 薬物療法学 III	
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				疾患学 I 薬理学 IV	疾患学 III 薬物療法学 III	
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。				疾患学 I	疾患学 III 薬物療法学 III	
4) 代表的ながん化学療法剤（FOLFFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				疾患学 I	疾患学 III 薬物療法学 III	
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病（ALL）				疾患学 I 薬物療法学 I	薬物療法学 III 薬物療法学 III	
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学 I 薬物療法学 I	薬物療法学 III 薬物療法学 III	
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学 I	疾患学 III 薬物療法学 III	
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌				疾患学 II 薬物療法学 II	薬物療法学 III 薬物療法学 III	
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学 I 薬物療法学 I	薬物療法学 III 薬物療法学 III	
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				薬物療法学 II	疾患学 III 薬物療法学 III	
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				疾患学 II 薬物療法学 II	疾患学 III 薬物療法学 III	
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学 II 薬物療法学 II	疾患学 III 薬物療法学 III	
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				疾患学 II 薬物療法学 II	疾患学 III 薬物療法学 III	
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。				疾患学 I	疾患学 III 薬物療法学 III	
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				薬物療法学 I	薬物療法学 III	
【⑩化学療法と薬物】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関与する疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				疾患学 I 薬理学 IV	疾患学 III	
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【⑪細胞医薬品】						
1) 細胞医薬品の特色と有用性を説明できる。	生物化学 II			創薬科学 疾患学 I 疾患学 II		
2) 代表的な細胞医薬品を列挙できる。	生物化学 II			創薬科学 疾患学 I 疾患学 II		
3) 細胞医薬品の安全性について概説できる。				疾患学 I 疾患学 II		
【⑫遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）				創薬科学 疾患学 I 疾患学 II		
【⑬細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）					疾患学 III	

5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPPS、RMP など）とレギュラトリサイエンスについて概説できる。					医薬品情報学 I		
【②情報源】							
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。					医薬品情報学 I		
2) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料について説明できる。					医薬品情報学 I		
3) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。					医薬品情報学 I		
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能、用法、用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。					医薬品情報学 I		
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能、用法、用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。					医薬品情報学 I		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。					医薬品情報学 I		
【③収集・評価・加工・提供・管理】							
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬理機序、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を収集、取集できる。（技能）	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
2) MEDLINEなどの医学、薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。（技能）	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法及び注意点を列挙できる。（知的所有権、著作権など）について説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習	臨床薬学演習
【④EBM (Evidence-based Medicine)】							
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
2) 代表的な臨床研究方法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3）(1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
【⑤生物統計】							
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。	統計学				生物統計学（選）		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	統計学				生物統計学（選）		
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。	統計学				生物統計学（選）		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	統計学				生物統計学（選）		
5) 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）	統計学				生物統計学（選）		
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。	統計学				医薬品情報学 III		
7) 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。	統計学				医薬品情報学 III		
【⑥臨床研究デザインと解析】							
1) 臨床研究（治療を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。					医薬品情報学 III	医薬品情報学 III	
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究など）について概説できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。					医薬品情報学 III	医薬品情報学 III	
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。					医薬品情報学 III	医薬品情報学 III	
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。					医薬品情報学 III	医薬品情報学 III	
7) 統計解析時の注意点について概説できる。					医薬品情報学 III	医薬品情報学 III	
8) 介入研究の効果指標（車のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）					医薬品情報学 I	医薬品情報学 III	
【⑦医薬品の比較・評価】							
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。					医薬品情報学 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）							薬局実務実習 病院実務実習
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）							薬局実務実習 病院実務実習
【⑧患者情報】							
【⑨情報と情報源】							

1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				医薬品情報学 I	調剤学	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
【②収集・評価・管理】							
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				実務事前実習	調剤学 実務事前実習	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。				実務事前実習	調剤学 実務事前実習	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について解説できる。				実務事前実習	調剤学 実務事前実習	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A. ②) 【③患者の権利】参照)				実務事前実習	調剤学 実務事前実習	薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
(3) 個別化医療							
【①遺伝的要因】							
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	遺伝子診断学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的要因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	遺伝子診断学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
3) 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	遺伝子診断学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
【②年齢的要因】							
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
【③臓器機能低下】							
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
【④その他の要因】							
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生種・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	医薬品安全性学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	臨床薬学演習	薬物動態学 I 臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
【⑤個別化医療の計画・立案】							
1) 個別の患者情報 (遺伝的要因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	創薬科学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬物動態学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 薬局実務実習 病院実務実習	臨床薬学演習

E4 薬の生体内運命			
(1) 薬物の体内動態			
【①生体膜透過】			
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	創制工学 (選)	
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。	薬物動態学 I		
【②吸収】			
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	創制工学 (選)	
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	創制工学 (選)	
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II 創制工学 (選) 薬利系薬学実習	
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II 創制工学 (選)	
5) 初回通過効果について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II 創制工学 (選)	
【③分布】			
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。	薬物動態学 I		
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II	
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。	薬物動態学 I	薬物動態学 II 薬利系薬学実習	
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I		
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I		
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II	
【④代謝】			
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起る組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I		
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。	薬物動態学 I	遺伝子診断学	
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。	薬物動態学 I		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	創薬科学 医薬化学 (選) 創制工学 (選) 遺伝子診断学	
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。	薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II 遺伝子診断学	
【⑤排泄】			
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	薬理学 薬物動態学 I		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。	薬物動態学 I	薬物動態学 II	
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	薬物動態学 I	薬物動態学 II	
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	薬物動態学 I		
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬物動態学 I	薬物動態学 II	
(2) 薬物動態の解析			
【①薬物運命論】			
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。	薬物動態学 I	薬物動態学 II 薬利系薬学実習 実務事前実習	実務事前実習
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。 (知識、技能)		薬物動態学 II 薬利系薬学実習 実務事前実習	臨床薬物動態学 実務事前実習
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。 (知識、技能)	薬利系薬学実習	薬物動態学 II 実務事前実習	臨床薬物動態学 実務事前実習
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。		薬物動態学 II 薬利系薬学実習 実務事前実習	実務事前実習

5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。		薬物動態学 I	薬物動態学 II 実務事前実習 II 薬物動態学 II 実務事前実習 II	実務事前実習 実務事前実習	
6) 薬物動態学一薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。					
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】					
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。		薬理学 薬物動態学 I	薬物動態学 II 実務事前実習 II 薬物動態学 II 薬利系薬学実習 II 実務事前実習 II	調理学 臨床薬物動態学 実務事前実習 II 調理学 臨床薬物動態学 実務事前実習 II	
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。					
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)					
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。					
E5 製剤化のサイエンス					
(1) 製剤の性質					
【①固形材料】					
1) 粉体の性質について説明できる。		製剤学	薬利系薬学実習		
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		製剤学			
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。		製剤学			
(02) (2) 【①酸・塩基平衡】 1. 及び 【②各種の化学平衡】 2. 参照					
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。		製剤学			
5) 固形材料の溶解度と溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学			
【②半固形・液状材料】					
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。		物理化学 III 物理化学 III 製剤学			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。					
【③分散系材料】					
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。		製剤学			
(02) (2) 【②各種の化学平衡】 4. 参照					
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。		製剤学			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。		製剤学			
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学			
【④薬物及び製剤材料の物性】					
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		製剤学			
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。		物理化学 III 製剤学	薬利系薬学実習		
(01) (3) 【①反応速度】 1. ~7. 参照					
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		製剤学			
(2) 製剤設計					
【①代表的な製剤】					
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。		製剤学			
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学			
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。		製剤学			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学			
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。		製剤学			
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透折に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。		製剤学			
【②製剤化と製剤試験法】					
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。		製剤学	医薬品情報学 I 薬利系薬学実習		
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。		製剤学	薬利系薬学実習		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		製剤学	医薬品情報学 I 薬利系薬学実習		
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。		製剤学			
【③生物学的同等性】					
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。		製剤学 薬物動態学 I	創剤工学 (選) 医薬品情報学 I		

(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)			
【①DDSの必要性】			
1) DDSの概念と有用性について説明できる。	創制工学 (選)		
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (フロトラックについては、E4(1)【④代講】4.も参照)	創制工学		
【②コントロールリリース (放出制御)】			
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。	創制工学 (選)		
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。	創制工学 (選)		
3) コントロールリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	創制工学 (選)		
【③ターゲットティング (標的指向性)】			
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。	創制工学 (選)		
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲットング技術を列挙し、その特性について説明できる。	創制工学 (選)		
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	創制工学 (選)		
【④吸収改善】			
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。	創制工学 (選)		
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。	創制工学 (選)		
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。	創制工学 (選)		
F 薬学臨床			
前：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項			
【①薬学臨床の基礎】			
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項			
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見出し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)			薬局実務実習
2) 地域の保健・福祉を見出した具体的な課題に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)			薬局実務実習
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)			精神救命連携演習
【②臨床における心構え】 [A.(1)。(2)参照]			
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	実務事前実習		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	実務事前実習		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	実務事前実習		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)			薬局実務実習 病院実務実習
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)			薬局実務実習 病院実務実習
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)			薬局実務実習 病院実務実習
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)			薬局実務実習 病院実務実習
【③臨床実習の基礎】			
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	調剤学 実務事前実習		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	調剤学 実務事前実習		
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	調剤学 実務事前実習		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	調剤学 実務事前実習		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B.(3)①参照]	薬学と社会I 実務事前実習		
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。	調剤学		病院実務実習
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。	調剤学		病院実務実習
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わる事ができる。(態度)			病院実務実習
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。			病院実務実習
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。			病院実務実習
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。			病院実務実習
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。			病院実務実習
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。			薬局実務実習 病院実務実習

1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
3) 前) 代表的なインジメント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体的な対策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
4) 前) 感染予防の基本的考え方やその方法が説明できる。					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）					調剤学	調剤学 薬局実務実習 病院実務実習	
9) 調剤ミスを防止するための工夫されている事項を具体的に説明できる。					調剤学	調剤学 薬局実務実習 病院実務実習	
10) 施設内のインジメント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体的な対策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）					調剤学	調剤学 薬局実務実習 病院実務実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）						調剤学	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）						調剤学	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）						調剤学	
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）						調剤学	
【①】薬物療法の実践							
【①】患者情報の把握							
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。					医薬品情報学 I 実務事前実習	調剤学 実務事前実習	
2) 前) 患者および種々の情報源（診療記録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度） 〔E3 (2) ①参照〕					医薬品情報学 I 実務事前実習	実務事前実習	
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。					実務事前実習	症候学 調剤学 実務事前実習	
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）					実務事前実習	実務事前実習	
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）					医薬品情報学 I	調剤学	
6) 患者・薬局および種々の情報源（診療記録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）						薬局実務実習 病院実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）						薬局実務実習 病院実務実習	
【②】医薬品情報の収集と活用 〔E3 (1) 参照〕							
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）					医薬品情報学 I 実務事前実習	実務事前実習	
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）					医薬品情報学 I	薬局実務実習 病院実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）					医薬品情報学 I	薬局実務実習 病院実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）					医薬品情報学 I	薬局実務実習 病院実務実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）					医薬品情報学 I	薬局実務実習 病院実務実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）					医薬品情報学 I	調剤学	
【③】処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）							
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特徴（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬物の選択や用法・用量設定を立案できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	調剤学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	臨床薬学演習	調剤学 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習

4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や薬理的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
11) 入院患者の特参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】							
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の方法を提案できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
11) 報告に必要な要素(SWH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習
12) 患者の薬物治療上の問題を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)	臨床薬学演習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習 実務事前実習	臨床薬学演習

13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)							薬局実務実習 病院実務実習
【4】チーム医療への参画 [A (4) 参照]							
【①医療機関におけるチーム医療】							
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。						症候学 調剤学 実務事前実習	精回救命連携演習
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。						症候学 調剤学 実務事前実習	精回救命連携演習
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。						症候学 調剤学 実務事前実習	精回救命連携演習
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
9) 病院内の多様な医療チーム(ICU、NICU、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
【②地域におけるチーム医療】							
1) 前) 地域の保健・医療・福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。						薬学と社会 I 実務事前実習	精回救命連携演習
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)						薬学と社会 I 実務事前実習	精回救命連携演習
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)							精回救命連携演習 薬局実務実習
【5】地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]							
【①在宅医療・介護への参画】							
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。						薬学と社会 I	
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。						薬学と社会 I	
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。						薬学と社会 I	
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅薬管理指導業務)を体験する。(知識・態度)							薬局実務実習
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)							薬局実務実習
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)							薬局実務実習
【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】							
1) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。						薬学と社会 I	
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。							薬局実務実習
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)							薬局実務実習
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)							薬局実務実習
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E 2 (9) 参照]							
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)							
2) 前) 代表的な症状(頭痛・腰痛・発熱等)を示す薬局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)							
3) 前) 代表的な症状に対する薬局薬剤師(漢方薬剤師含む)な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)							

4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)					症候学 実務事前実習	
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)						薬局実務実習
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)						薬局実務実習
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)						薬局実務実習
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)						薬局実務実習
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)						薬局実務実習
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。					薬学と社会 I	精神救命連携演習 精神救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。						精神救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)						精神救命連携演習 薬局実務実習 病院実務実習
6 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
2) 研究には自立性と独創性が求められることを知る。	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
(2) 研究に必要な法規制と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	薬学概論				総合薬学研究 薬学と社会 II	総合薬学研究
3) 正確性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。(態度 A-(2)-④-3再掲)	薬学概論				総合薬学研究	総合薬学研究
(3) 研究の要諦						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価ができる。(知識・技能)					総合薬学研究 総合薬学演習	総合薬学研究 総合薬学演習
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)					総合薬学研究	総合薬学研究
3) 研究計画に沿って、意図的に研究を実施できる。(技能・態度)					総合薬学研究	総合薬学研究
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)					総合薬学研究	総合薬学研究
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)					総合薬学研究 総合薬学演習	総合薬学研究 総合薬学演習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)					総合薬学研究	総合薬学研究

(基礎資料 3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		80	80	80	80	80	80
入学時の学生数 ²⁾		82	87	93	81	85	98
在籍学生数 ³⁾		82	94	90	73	78	86
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者	0	7	7	7	8	2
	休学による者	0	0	2	0	0	0
編入学などによる在籍者数		0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾		82	87	81	66	70	84
ストレート在籍率(%) ⁶⁾		100.0%	100.0%	87.1%	81.5%	82.4%	85.7%
過年度在籍率(%) ⁷⁾		0.0%	7.4%	10.0%	9.6%	10.3%	2.3%

[注]

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記入してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記入してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記入してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記入してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - { (過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数) } を記入してください。 $F = B - (C+D+E)$ となります。
- 6) F/A の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 7) $(C+D)/B$ の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	85	81	93	87	82
	休学者数 ²⁾	0	1	0	0	0
	退学者数 ²⁾	5	0	9	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率(%) ³⁾	94.1%	98.8%	90.3%	100.0%	100.0%
2年次	在籍者数 ¹⁾	94	88	88	96	94
	休学者数 ²⁾	1	2	2	0	0
	退学者数 ²⁾	1	0	6	4	1
	留年者数 ²⁾	6	6	12	9	6
	進級率(%) ³⁾	91.5%	90.9%	77.3%	86.5%	92.6%
3年次	在籍者数 ¹⁾	82	86	80	75	90
	休学者数 ²⁾	2	0	0	2	3
	退学者数 ²⁾	0	0	2	0	1
	留年者数 ²⁾	0	0	1	2	4
	進級率(%) ³⁾	97.6%	100.0%	96.3%	94.7%	91.1%
4年次	在籍者数 ¹⁾	80	83	87	78	73
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	1
	留年者数 ²⁾	1	0	1	1	1
	進級率(%) ³⁾	98.8%	100.0%	98.9%	98.7%	97.3%
5年次	在籍者数 ¹⁾	81	79	83	86	78
	休学者数 ²⁾	0	0	0	1	0
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	留年者数 ²⁾	2	0	0	0	4
	進級率(%) ³⁾	97.5%	100.0%	100.0%	98.8%	94.9%

1) 各年度の5月1日における各学年の在籍者数を記入してください。ただし、2023年度のデータは、草案提出時には空欄でかまいません。調書提出時に、その時点でのデータを記入して提出してください。

2) 各年度末に在学年から上級学年に進級出来なかった学生数を、休学、退学、留年に分けて記入してください。

3) 各年度の各学年について、{(在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数)} / 在籍者数の値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A	81	80	80	83	86
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B	81	79	80	82	86
卒業率(%) ²⁾ B/A	100.0%	98.8%	100.0%	98.8%	100.0%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年	81	78	77	80
	7年		1	2	1
	8年			1	1
	9年以上				
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D	81	81	81	82	98
ストレート卒業率(%) ⁵⁾ C/D	100.0%	96.3%	95.1%	97.6%	85.7%

- 1) 年度途中に卒業した学生(秋卒者など)の数は除いてください。
- 2) B/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。
- 3) Bの人数(編入学者があれば除く)の卒業までに要した³⁾在学期間別の内訳を記入してください。
- 4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記入してください。
- 5) C/Dの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

(基礎資料 3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	80	80	80	80	80	80	
実入学者数 ¹⁾	98	85	81	93	87	82	
入学定員充足率(%) ²⁾	122.5%	106.3%	101.3%	116.3%	108.8%	102.5%	109.6%
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0

1) 各年度の5月1日において1年次に在籍していた新入生数を記入してください。

2) 各年度のB/Aの値を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。

3) 各年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記入してください。

4) 編入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。

5) 人数は整数(端数は四捨五入)で、入学定員充足率については% (小数点以下第1位まで表示)で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類	2019年度入試 (2018年度実施)		2020年度入試 (2019年度実施)		2021年度入試 (2020年度実施)		2022年度入試 (2021年度実施)		2023年度入試 (2022年度実施)		2024年度入試 (2023年度実施)		募集定員数に対する 入学定員の比率 (6年間の平均)		
			受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数		受験者数	合格者数
薬	薬	一般入試	受験者数	471	256	562	345	517	345								
			合格者数	83	88	86	80	80	80								
			入学者数(A)	53	56	56	55	47	55								
			募集定員数(B)	54	54	54	54	54	54								
			充足率(A/B)(%)	98.1%	103.7%	103.7%	101.9%	87.0%	101.9%								
学	学	大学入学共通テストを免除する学校推薦型選抜	受験者数	46	50	47	51	50	51								
			合格者数	13	16	21	18	19	18								
			入学者数(A)	13	16	21	18	19	18								
			募集定員数(B)	13	13	13	13	13	13								
			充足率(A/B)(%)	100.0%	123.1%	161.5%	138.5%	146.2%	138.5%								
科	科	大学入学共通テストを課す学校推薦型選抜	受験者数	18	9	16	14	16	14								
			合格者数	18	9	16	14	16	14								
			入学者数(A)	18	9	16	14	16	14								
			募集定員数(B)	13	13	13	13	13	13								
			充足率(A/B)(%)	138.5%	69.2%	123.1%	107.7%	123.1%	107.7%								
部	部	帰国生徒選抜	受験者数	0	0	1	1	1	1								
			合格者数	0	0	0	0	1	0								
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0								
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名								
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—								
部	部	私費外国人選抜	受験者数	4	0	0	1	0	1								
			合格者数	1	0	0	1	0	1								
			入学者数(A)	1	0	0	0	0	0								
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名								
			充足率(A/B)(%)	—	—	—	—	—	—								
部	部	学 科 計	受験者数	568	322	645	425	612	425								
			合格者数	115	113	123	113	116	113								
			入学者数(A)	85	81	93	87	82	87								
			募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80								
			充足率(A/B)(%)	106.3%	101.3%	116.3%	108.8%	102.5%	108.8%								
														107.3%			

- 〔注〕
- 1 入試の種類は例示です。受審大学の実態に即した名称を記入してください。
 - 2 6年制課程が複数学科あるが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に連記して「学科計」欄を「学部計」としてください。
 - 3 6年制課程が複数学科あり入試を学科別に行っている場合は、学科毎に欄を設けた上で、末欄に「学部合計」欄も設けてください。
 - 4 4年制学科を併設するが入試は学部一括で行っている場合は、「学科名」欄に4年制学科名も記入し、「学科計」欄を「学部計」とした上で、欄外に『（備考）〇年次選抜時に6年制学科と4年制学科に分割する。なお、課学科（6年制）の定員は△△△名である。』という「注」を記載してください。
 - 5 「入試の種類」が対象年度の間に変更されている場合は、すべての種類を記入した上で、対応のない年度の欄に斜線を記入してください。
 - 6 「入学者数(A)」には、各年度の5月1日に在籍した新入学者を構成する入試の種類ごとの入学定員を記入してください。
 - 7 「募集定員数(B)」には、各年度の募集定員を構成する入試の種類ごとの入学定員を記入してください。
 - 8 充足率は募集定員に対する入学者の割合(A/B)を%で記入してください(小数点以下第1位まで表示)。ただし、募集定員が「若干名」の場合は「—」とします。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
20名	19名	16名	23名	78名	32名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
4名	3名	3名	1名	11名	5名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数で、別表2の数は含めない。

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1.以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
0名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
13名	0名	0名	13名

自己点検・評価を実施した年度の実績を延べ人数ではなく正味の数で記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

事務職員	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
4(1)名	1名	0名	5(1)名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	4名	名	1名	0名	5名	6.4%
50代	9名	5名	2名	2名	18名	23.1%
40代	7名	11名	8名	3名	29名	37.2%
30代	名	3名	5名	15名	23名	29.5%
20代	0名	0名	0名	3名	3名	3.8%
合計	20名	19名	16名	23名	78名	

専任教員の定年年齢：(65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	19名	18名	14名	18名	69名	88.5%
女性	1名	1名	2名	5名	9名	11.5%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
薬学科 (兼薬科学科)	教授						創薬科学		10.50	0.35
							創薬探索学特論	院	4.50	0.15
							化学系薬学実習II	◎	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		16.50	0.55
薬学科 (兼薬科学科)	教授						生物化学I		12.00	0.40
							生物化学II		9.00	0.30
							生物学入門		1.50	0.05
							放射化学		9.00	0.30
							薬理学IV		6.00	0.20
							臨床検査学		1.50	0.05
							生物系薬学実習II	◎	27.00	0.90
							医薬生命化学特論	院	4.50	0.15
							薬物送達学特論	院	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		75.00	2.50
薬学科 (兼薬科学科)	教授						薬理学II		12.00	0.40
							薬理学III		22.50	0.75
							生物統計学		12.00	0.40
							薬学概論		4.50	0.15
							薬理学特論・分子薬理学特論	院	1.50	0.05
							創薬育薬基礎特論	院	1.50	0.05
							医療・生物系薬学実習	◎	9.00	0.30
							授業担当時間の合計		63.00	2.10
							薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)		
臨床薬物動態学		4.50	0.15							
調剤学		6.00	0.20							
遺伝子診断学		6.00	0.20							
薬物治療学特論	院	1.50	0.05							
臨床薬理学	看護	9.00	0.30							
薬剤発達史入門	教養	3.00	0.10							
授業担当時間の合計		42.00	1.40							
薬学科 (兼薬科学科)	講師						情報科学		12.00	0.40
							医薬品情報学II		12.00	0.40
							科学演習		36.00	1.20
							事前実習		36.00	1.20
							薬剤学		1.50	0.05
							薬剤学特論	院	1.50	0.05
							創薬育薬基礎特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		100.50	3.35
薬学科 (兼薬科学科)	准教授						科学演習	◎	3.00	0.10
							化学系薬学実習I	◎	24.00	0.80
							授業担当時間の合計		27.00	0.90
薬学科 (兼薬科学科)	准教授 (実務)						静岡の健康長寿を支える取り組みと人々		3.00	0.10
							遺伝子診断学		5.00	0.17
							薬物療法学III		9.50	0.32
							臨床薬物動態学		6.50	0.22
							病院実務実習	◎	795.00	26.50
							薬物治療学特論	院	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		820.50	27.35
薬学科 (兼薬科学科)	講師						無機化学		22.50	0.75
							化学系薬学実習II	◎	22.50	0.75
							薬化学特論	院	3.00	0.10
							授業担当時間の合計		58.00	1.60

薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	薬物治療学特論	院	1.50	0.05
		医療とコミュニケーション学		7.50	0.25
		症候学		1.50	0.05
		臨床薬学演習(4年生)		91.50	3.05
		臨床薬学演習(2022年度開始)		15.00	0.50
		臨床薬学演習(2023年度開始)		15.00	0.50
		実務事前実習(4年生)	◎	259.50	8.65
		薬剤系薬学実習	◎	18.00	0.60
		実務事前実習(3年生)	◎	18.00	0.60
		授業担当時間の合計			427.50
薬学科 (兼薬科学科)	講師	薬学英語		3.00	0.10
		国家試験対策講義		1.50	0.05
		病院実務実習		795.00	26.50
		授業担当時間の合計			799.50
薬学科 (兼薬科学科)	教授	微生物学		12.00	0.40
		免疫学		15.00	0.50
		薬理学IV		10.50	0.35
		遺伝子工学		10.50	0.35
		免疫微生物学特論	院	6.00	0.20
		生物系薬学実習II	◎	54.00	1.80
		授業担当時間の合計			108.00
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	有機合成論		10.50	0.35
		化学系薬学実習I	◎	36.00	1.20
		科学演習	◎	4.50	0.15
		実務事前実習	◎	13.50	0.45
		医薬品創製化学特論	院	9.00	0.30
		授業担当時間の合計			73.50
薬学科 (兼薬科学科)	助教	化学入門		7.50	0.25
		化学系薬学実習II	◎	36.00	1.20
		薬品製造論		3.00	0.10
		科学演習	◎	9.00	0.30
		生活の化学		45.00	1.50
		授業担当時間の合計			100.50
薬学科 (兼薬科学科)	講師 (実務)	病院実務実習	◎	440.00	14.70
		薬局実務実習	◎	20.00	0.67
		授業担当時間の合計			460.00
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	免疫学		6.00	0.20
		免疫微生物学特論	院	1.50	0.05
		生物系薬学実習II	◎	54.00	1.80
		科学演習	◎	4.50	0.15
		実務事前実習	◎	18.00	0.60
授業担当時間の合計			84.00	2.80	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	創薬科学		10.50	0.35
		創薬探索学特論	院	1.50	0.05
		化学系薬学実習	◎	36.00	1.20
授業担当時間の合計			48.00	1.60	
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬剤学		3.00	0.10
		薬物動態学I		18.00	0.60
		薬物動態学II		19.50	0.65
		薬剤発達史入門		3.00	0.10
		薬剤系薬学実習	◎	36.00	1.20
		薬剤学特論	院	3.00	0.10
		薬物動態学特論	院	3.00	0.10
		薬物動態学特論II	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計			70.50

薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	薬剤発達史入門		4.50	0.15
		薬学概論		1.50	0.05
		保健医療福祉論		1.50	0.05
		医薬品安全性学		10.50	0.35
		薬学と社会I		7.50	0.25
		薬学と社会II		7.50	0.25
		医薬品情報学I		10.50	0.35
		調剤学		13.50	0.45
		臨床医学総論		1.50	0.05
		総合薬学演習		60.00	2.00
		医療薬学特別演習		45.00	1.50
		先端薬科学特別演習		45.00	1.50
		薬学セミナー		45.00	1.50
		早期体験学習	◎	1.50	0.05
		病院実務実習	◎	110.00	3.67
		薬局実務実習	◎	110.00	3.67
		薬物治療学特論	院	1.50	0.05
授業担当時間の合計			476.50	15.88	
薬学科 (兼薬科学科)	准教授 (実務)	薬物治療学特論	院	1.50	0.05
		医療とコミュニケーション学		1.50	0.05
		症候学		3.00	0.10
		静岡救命連携演習		37.50	1.25
		臨床薬学演習(4年生)		91.50	3.05
		臨床薬学演習(2022年度開始)		15.00	0.50
		臨床薬学演習(2023年度開始)		15.00	0.50
		実務事前実習(4年生)	◎	259.50	8.65
		薬剤系薬学実習	◎	18.00	0.60
		実務事前実習(3年生)	◎	18.00	0.60
		授業担当時間の合計			460.50
薬学科 (兼薬科学科)	講師	疾患学II		6.00	0.20
		疾患学III		3.00	0.10
		身体運動科学		1.50	0.05
		生物医療系薬学実習	◎	45.00	1.50
		静岡救命連携演習	◎	18.00	0.60
		分子病態学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計			75.00
薬学科 (兼薬科学科)	講師	薬理学II		10.50	0.35
		薬学概論		3.00	0.10
		科学演習		4.50	0.15
		医療系薬学実習		18.00	0.60
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		実務事前実習		9.00	0.30
授業担当時間の合計			48.00	1.60	
薬学科 (兼薬科学科)	助教 (実務)	臨床薬学演習(4年生)		91.50	3.05
		臨床薬学演習(2022年度開始)		15.00	0.50
		臨床薬学演習(2023年度開始)		15.00	0.50
		実務事前実習(4年生)	◎	259.50	8.65
		薬剤系薬学実習	◎	18.00	0.60
		実務事前実習(3年生)	◎	18.00	0.60
授業担当時間の合計			417.00	13.90	
薬学科 (兼薬科学科)	講師	微生物薬品学		10.50	0.35
		化学系薬学実習II	◎	36.00	1.20
		実務事前実習	◎	13.50	0.45
		科学演習	◎	4.50	0.15
授業担当時間の合計			64.50	2.15	
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬理学I		22.50	0.75
		医療系・生物系薬学実習	◎	18.00	0.60
		科学演習	◎	9.00	0.30
		実務事前実習	◎	13.50	0.45
		国試対策講義		3.00	0.10
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		分子薬理学特論	院	3.00	0.10
授業担当時間の合計			72.00	2.40	
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	身体運動科学		90.00	3.00
		ライフスポーツ		22.50	0.75
		身体運動科学A		13.50	0.45
		身体運動科学B		3.00	0.10
授業担当時間の合計			129.00	4.30	

薬学科 (兼薬科学科)	助教	生物系薬学実習 I	◎	27.00	0.90
		糖鎖生物学		3.00	0.10
		医用工学実習	◎	9.00	0.30
		糖鎖生化学特論		1.50	0.05
		生化学特論		1.50	0.05
		授業担当時間の合計		42.00	1.40
薬学科 (兼薬科学科)	教授	薬物療法学 I		19.50	0.65
		薬物療法学 II		15.00	0.50
		臨床検査学		15.00	0.50
		筋生理学		4.50	0.15
		薬剤発達史入門		3.00	0.10
		生体情報分子解析学特論	院	7.50	0.25
		薬学概論		0.75	0.03
		静岡の防災と医療 (しずおか学)			0.00
		静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 (しずおか学)			0.00
		臨床検査総論			0.00
		医療系・生物系薬学実習	◎	27.00	0.90
		先端医療薬学特論	院	7.50	0.25
		医用工学実習	◎		0.00
		授業担当時間の合計		99.75	3.33
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	生物化学 I		10.50	0.35
		生物学入門		1.50	0.05
		放射科学		3.00	0.10
		薬物送達学特論	院	1.50	0.05
		科学演習	◎	6.00	0.20
		生物系薬学実習 II	◎	24.00	0.80
		授業担当時間の合計		46.50	1.55
薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬物療法学 I		1.50	0.05
		薬物療法学 II		1.50	0.05
		臨床検査学		1.50	0.05
		静岡の防災と医療 (しずおか学)			0.00
		生体情報分子解析学特論	院	6.00	0.20
		医療系・生物系薬学実習	◎	36.00	1.20
		医用工学実習	◎	18.00	0.60
		実務事前実習	◎	16.00	0.53
		授業担当時間の合計		80.50	2.68
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	医薬化学		10.50	0.35
		薬学英語		3.00	0.10
		薬学概論		1.50	0.05
		化学系薬学実習	◎	36.00	1.20
		事前実務実習	◎	9.00	0.30
		科学演習	◎	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		64.50	2.15
薬学科 (兼薬科学科)	教授	物理化学 III		18.00	0.60
		製剤学		16.50	0.55
		創剤工学		9.00	0.30
		医薬品製造開発論		7.50	0.25
		くらしと化学		13.50	0.45
		自然科学概論		6.00	0.20
		SDGs概論		1.50	0.05
		薬剤系薬学実習 (物理薬剤学)	◎	37.50	1.25
		創剤工学特論	院	6.00	0.20
		薬物放出制御学特論	院	6.00	0.20
		授業担当時間の合計		121.50	4.05
薬学科 (兼薬科学科)	助教	化学系薬学実習	◎	36.00	1.20
授業担当時間の合計		36.00	1.20		

薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬物療法学I		6.00	0.20	
		薬物療法学II		10.50	0.35	
		臨床検査学		9.00	0.30	
		筋生理学		1.50	0.05	
		生体情報分子解析学特論	院	7.50	0.25	
		静岡の防災と医療（しずおか学）			0.00	
		静岡の健康長寿を支える取り組みと人々（しずおか学）			0.00	
		医療系・生物系薬学実習	◎	36.00	1.20	
		医用工学実習	◎	9.00	0.30	
		実務事前実習	◎	11.00	0.37	
		授業担当時間の合計			90.50	3.02
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬剤学		3.00	0.10	
		薬物動態学 I		4.50	0.15	
		薬物動態学 II		3.00	0.10	
		薬剤系薬学実習	◎	18.00	0.60	
		実務事前実習	◎	27.00	0.90	
		薬物動態学特論	院	3.00	0.10	
		薬物動態学特論 II	院	3.00	0.10	
		薬剤学特論	院	3.00	0.10	
		授業担当時間の合計			64.50	2.15
		薬学科 (兼薬科学科)	准教授	生薬学特論	院	10.50
生薬学				12.00	0.40	
化学系薬学実習II(Aクラス)	◎			18.00	0.60	
化学系薬学実習II(Bクラス)	◎			18.00	0.60	
科学演習	◎			4.50	0.15	
授業担当時間の合計				63.00	2.10	
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	創薬探索学特論	院	3.00	0.10	
		化学系薬学実習II	◎	0.00	0.00	
		授業担当時間の合計			3.00	0.10
薬学科 (兼薬科学科)	講師	衛生薬学II		16.50	0.55	
		生物系薬学実習II	◎	45.00	1.50	
		科学演習	◎	3.50	0.12	
		生物学入門		1.50	0.05	
		衛生分子毒性学特論	院	3.00	0.10	
		毒性学・薬物代謝学特論	院	3.00	0.10	
		授業担当時間の合計			72.50	2.42
		薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬物療法学I		1.50
薬物療法学II				1.50	0.05	
臨床検査学				1.50	0.05	
静岡の防災と医療（しずおか学）				0.00	0.00	
生体情報分子解析学特論	院			6.00	0.20	
医療系・生物系薬学実習	◎			36.00	1.20	
医用工学実習	◎			18.00	0.60	
実務事前実習	◎			15.00	0.50	
授業担当時間の合計				79.50	2.65	
薬学科 (兼薬科学科)	助教			自然科学概論		1.50
		実務事前実習	◎	6.00	0.20	
		物理系薬学実習	◎	58.50	1.95	
		薬品分析化学		10.50	0.35	
		医薬品製造開発論		1.50	0.05	
		薬品分析学特論・病態分子分析学特論	院	3.00	0.10	
		授業担当時間の合計			81.00	2.70
薬学科 (兼薬科学科)	助教	生物系薬学実習I	◎	54.00	1.80	
		統合生理学特論	院	1.50	0.05	
		実務事前実習	◎	9.00	0.30	
		科学演習	◎	4.50	0.15	
		授業担当時間の合計			69.00	2.30
薬学科 (兼薬科学科)	講師	疾患学I		3.00	0.10	
		医療系・生物系薬学実習	◎	18.00	0.60	
		静岡救命連携演習		52.50	1.75	
		分子病態学特論	院	3.00	0.10	
		先端医療薬学特論	院	3.00	0.10	
授業担当時間の合計			79.50	2.65		

薬学科 (兼薬科学科)	准教授	生物化学III		6.00	0.20		
		生物化学IV		6.00	0.20		
		微生物学		6.00	0.20		
		薬理学IV		6.00	0.20		
		生化学特論	院	3.00	0.10		
		糖鎖生化学特論	院	3.00	0.10		
		生物系薬学実習I	◎	27.00	0.90		
		医用工学実習	◎	9.00	0.30		
		実務事前実習	◎	13.50	0.45		
		CBT対策補講		1.50	0.05		
授業担当時間の合計				81.00	2.70		
薬学科 (兼薬科学科)	教授	化学系薬学実習II	◎	9.00	0.30		
		有機化学III		0.00	0.00		
		有機化学IV		0.00	0.00		
		授業担当時間の合計				9.00	0.30
薬学科 (兼薬科学科)	教授	生物化学III		10.50	0.35		
		生物化学IV		10.50	0.35		
		糖鎖生物学		7.50	0.25		
		生物学入門		1.50	0.05		
		薬学概論		1.50	0.05		
		生化学特論	院	3.00	0.10		
		糖鎖生化学特論	院	3.00	0.10		
		生物系薬学実習	◎	4.50	0.15		
		医用工学実習	◎	4.50	0.15		
		授業担当時間の合計				46.50	1.55
		病院実務実習	◎	795.00	26.50		
静岡救命連携演習(防災演習)	◎	15.00	0.50				
授業担当時間の合計				810.00	27.00		
薬学科 (兼薬科学科)	講師 (実務)	実務事前実習	◎	9.00	0.30		
		授業担当時間の合計				9.00	0.30
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	物理化学III		4.50	0.15		
		製剤学		6.00	0.20		
		創剤工学		3.00	0.10		
		薬剤系薬学実習	◎	45.00	1.50		
		医用工学実習	◎	18.00	0.60		
		創剤工学特論	院	3.00	0.10		
		薬剤学特論	院	3.00	0.10		
		薬物放出制御学特論	院	3.00	0.10		
		授業担当時間の合計				85.50	2.85
		薬学科 (兼薬科学科)	講師	分析化学I		22.50	0.75
分析化学II				22.50	0.75		
薬品分析化学				12.00	0.40		
自然科学概論				3.00	0.10		
医薬品製造開発論				3.00	0.10		
物理系薬学実習				54.00	1.80		
薬品分析学特論	院			6.00	0.20		
病態分子分析学特論	院			6.00	0.20		
授業担当時間の合計					129.00	4.30	
薬学科 (兼薬科学科)	教授	免疫微生物学特論	院	1.50	0.05		
		生物系薬学実習II	◎	54.00	1.80		
		科学演習	◎	4.50	0.15		
		実務事前実習	◎	18.00	0.60		
		授業担当時間の合計				78.00	2.60
薬学科 (兼薬科学科)	助教	物理化学I		22.50	0.75		
		物理化学II		22.50	0.75		
		自然科学概論		4.50	0.15		
		科学演習		24.00	0.80		
		薬品物理化学特論	院	6.00	0.20		
		授業担当時間の合計				79.50	2.65

薬学科 (兼薬科学科)	教授	基礎化学		22.50	0.75
		有機化学 I		22.50	0.75
		化学入門		7.50	0.25
		医薬化学		1.50	0.05
		化学系薬学実習 I	◎	27.00	0.90
		医薬品創製化学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		82.50	2.75
薬学科 (兼薬科学科)	助教	医療系・生物系薬学実習	◎	18.00	0.60
		分子病態学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		19.5	0.65
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	物理系薬学実習	◎	40.50	1.35
		医用工学実習	◎	9.00	0.30
		科学演習	◎	0.00	0.00
		実務事前実習	◎	13.50	0.45
		自然科学概論		3.00	0.10
		生物物理化学		12.00	0.40
		薬品物理化学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		81.00	2.70
薬学科 (兼薬科学科)	教授	機能形態生理学I		22.50	0.75
		機能形態生理学II		22.50	0.75
		機能形態生理学III		22.50	0.75
		筋生理学		4.50	0.15
		生物系薬学実習 I		6.00	0.20
		統合生理学特論	院	7.50	0.25
		統合生理学特論II	院	7.50	0.25
		授業担当時間の合計		93.00	3.10
薬学科 (兼薬科学科)	助教	生物系薬学実習 II	◎	36.00	1.20
		生物化学 II		4.50	0.15
		授業担当時間の合計		40.50	1.35
薬学科 (兼薬科学科)	講師	物理系薬学実習	◎	58.50	1.95
		医用工学実習	◎	13.50	0.45
		実務事前実習	◎	18.00	0.60
		科学演習	◎	4.50	0.15
		自然科学概論		1.50	0.05
		薬品物理化学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		97.50	3.25
薬学科 (兼薬科学科)	助教	物理系薬学実習	◎	58.50	1.95
		科学演習		4.50	0.15
		医用工学実習	◎	18.00	0.60
		実務事前実習	◎	7.00	0.23
		薬品物理化学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		89.50	2.98
薬学科 (兼薬科学科)	助教	自然科学概論		3.00	0.10
		物理系薬学実習	◎	63.00	2.10
		科学演習	◎	9.00	0.30
		薬品分析学特論	院	1.50	0.05
		授業担当時間の合計		76.50	2.55
薬学科 (兼薬科学科)	准教授	薬学英語		22.50	0.75
		イングリッシュ・リサーチ・プレゼンテーション (Ⅹ)		22.50	0.75
		イングリッシュ・リサーチ・プレゼンテーション (Ⅷ)		22.50	0.75
		科学演習	◎	18.00	0.60
		オーラル・コミュニケーション	院	22.50	0.75
		アカデミック・ライティング	院	22.50	0.75
		アカデミック・プレゼンテーション	院	22.50	0.75
		インディペンデント・リスニング	院	22.50	0.75
		スモール・グループ・ディスカッション	院	22.50	0.75
		科学論文エディティング	院	22.50	0.75
		授業担当時間の合計		220.50	7.35

薬学科 (兼薬科学科)	助教	公衆衛生学		3.00	0.10	
		衛生薬学Ⅰ		4.50	0.15	
		毒性学		4.50	0.15	
		科学演習	◎	4.50	0.15	
		生物系薬学実習Ⅱ	◎	45.00	1.50	
		実務事前実習	◎	9.00	0.30	
		衛生分子毒性学特論	院	4.50	0.15	
		毒性学・薬物代謝学特論	院	4.50	0.15	
		授業担当時間の合計			79.50	2.65
		有機化学Ⅱ			22.50	0.75
薬学科 (兼薬科学科)	教授	化学入門		7.50	0.25	
		薬化学特論	院	10.50	0.35	
		授業担当時間の合計		40.50	1.35	
薬学科 (兼薬科学科)	講師 (実務)	医療とコミュニケーション学		1.50	0.05	
		症候学		3.00	0.10	
		臨床薬学演習(4年生)		91.50	3.05	
		臨床薬学演習(2022年度開始)		15.00	0.50	
		臨床薬学演習(2023年度開始)		15.00	0.50	
		実務事前実習(4年生)	◎	259.50	8.65	
		薬剤系薬学実習	◎	18.00	0.60	
		実務事前実習(3年生)	◎	18.00	0.60	
		授業担当時間の合計			421.50	14.05
		薬学科 (兼薬科学科)	講師	生物化学Ⅲ		6.00
生物化学Ⅳ				6.00	0.20	
生化学特論	院			3.00	0.10	
糖鎖生化学特論	院			3.00	0.10	
生物系薬学実習Ⅰ	◎			27.00	0.90	
医用工学実習	◎			9.00	0.30	
実務事前実習	◎			13.50	0.45	
CBT対策補講				1.50	0.05	
生物学入門				4.50	0.15	
静岡救命連携演習	◎			6.00	0.20	
授業担当時間の合計			79.50	2.65		
薬学科 (兼薬科学科)	准教授 (実務)	病院実務実習	◎	400.00	13.33	
		薬局実務実習	◎	20.00	0.67	
		医療薬学特別演習		45.00	1.00	
		先端薬科学特別演習		45.00	1.00	
		授業担当時間の合計			510.00	16.00
薬学科 (兼薬科学科)	助教	生物系薬学実習Ⅰ・Ⅱ	◎	54.00	1.80	
		科学演習	◎	4.50	0.15	
		統合生理学特論	院	1.50	0.05	
		授業担当時間の合計			60.00	2.00
薬学科 (兼薬科学科)	助教	創薬探索学特論	院	1.50	0.05	
		化学系薬学実習Ⅱ	◎	36.00	1.20	
		授業担当時間の合計			37.50	1.25
薬学科 (兼薬科学科)	教授 (実務)	疾患学Ⅰ		13.50	0.45	
		疾患学Ⅱ		6.00	0.20	
		疾患学Ⅲ		9.00	0.30	
		症候学		13.50	0.45	
		静岡の防災と医療		1.50	0.05	
		静岡の健康長寿を支える仕組みと人々		1.50	0.05	
		薬剤発達史入門		1.50	0.05	
		健康イノベーション教育プログラム		1.50	0.05	
		静岡救命連携演習	◎	67.50	2.25	
		薬学概論		1.50	0.05	
		分子病態学特論	院	4.50	0.15	
		先端医療薬学特論	院	4.50	0.15	
		医療系・生物系薬学実習	◎	45.00	1.50	
		授業担当時間の合計			171.00	5.70
薬学科 (兼薬科学科)	助教	臨床医学総論		12.00	0.40	
		薬学と社会Ⅱ		3.00	0.10	
		静岡の防災と医療		21.00	0.70	
		実務事前実習		24.00	0.80	
		早期体験学習(病院・薬局)		24.00	0.80	
		病院・薬局実務実習		60.00	2.00	
		授業担当時間の合計			144.00	4.80

薬学科 (兼薬科学科)	助教	化学系薬学実習	◎	18.00	0.60
		科学演習	◎	4.50	0.15
		実務事前実習	◎	9.00	0.30
		授業担当時間の合計		31.50	1.05
薬学科 (兼薬科学科)	助教	科学演習	◎	21.00	0.70
		薬学概論		3.00	0.10
		早期体験実習	◎	1.50	0.05
		医療系・生物系薬学実習	◎	18.00	0.60
		総合薬学演習	◎	45.00	1.50
		薬理学特論	院	3.00	0.10
		分子薬理学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		94.50	3.15
薬学科 (兼薬科学科)	助教	基礎化学		1.50	0.05
		化学系薬学実習I	◎	27.00	0.90
		科学演習	◎	4.50	0.15
		授業担当時間の合計		33.00	1.10
薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬剤学		4.5	0.15
		薬物動態学I		1.5	0.05
		薬物動態学II		1.5	0.05
		薬剤系薬学実習	◎	36	1.20
		薬科学特論	院	1.5	0.05
		授業担当時間の合計		45.00	1.50
薬学科 (兼薬科学科)	教授	公衆衛生学		19.50	0.65
		衛生薬学 I		18.00	0.60
		衛生薬学 II		6.00	0.20
		毒性学		18.00	0.60
		生物系薬学実習 II	◎	45.00	1.50
		薬学概論		1.50	0.05
		科学演習	◎	4.50	0.15
		生物学入門		3.00	0.10
		衛生分子毒性学特論	院	3.00	0.10
		毒性学・薬物代謝学特論	院	3.00	0.10
		授業担当時間の合計		121.50	4.05
		薬学科 (兼薬科学科)	准教授	有機化学III	
有機化学IV				22.50	0.75
薬品製造論				7.50	0.13
医薬品製造化学特論	院			10.50	0.35
化学系薬学実習 II	◎			24.00	0.80
授業担当時間の合計				87.00	2.78
薬学科 (兼薬科学科)	講師	生物学入門		1.50	0.05
		臨床検査学		1.50	0.05
		医薬生命化学特論	院	6.00	0.20
		生物化学 II		9.00	0.30
		生物系薬学実習 II	◎	36.00	1.20
		国家試験対策		4.50	0.15
授業担当時間の合計		58.50	1.95		
薬学科 (兼薬科学科)	助教	薬剤系薬学実習	◎	27.00	0.90
		授業担当時間の合計		27.00	0.90
薬学科 (兼薬科学科)	教授	漢方薬学		11.25	0.38
		生薬学		22.5	0.75
		くらしと化学A		4.5	0.15
		くらしと化学B		4.5	0.15
授業担当時間の合計		42.75	1.43		
薬学科 (兼薬科学科)	助教				
		授業担当時間の合計		0.00	0.00

- 1) 2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 6) 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手 (基礎資料5の表2) の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目	授業時間	年間で平均した週当り授業時間
		該当者なし							

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7 (続き 例示) に従って記入してください。)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員 (基礎資料5の表2) が担当する薬学科 (6年制) の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目	授業時間	年間で平均した週当り授業時間
		該当者なし							

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、(基礎資料7 (続き 例示) に従って記入してください。)

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	73名
5年生の在籍学生数	78名
6年生の在籍学生数	86名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	医薬品化学分野	4	6	4	3	13	431.0
2	生体機能分子分析学分野	3	3	4	2	9	509.0
3	生化学分野	4	3	3	4	10	447.0
4	衛生分子毒性学分野	3	3	5	5	13	434.0
5	生薬学分野	4	2	2	4	8	455.0
6	免疫微生物学分野	3	1	4	5	10	442.0
7	生命物理化学分野	4	6	7	4	17	455.0
8	統合生理学分野	4	4	5	3	12	457.0
9	医薬品製造化学分野	4	3	4	4	11	437.0
10	創剤科学分野	2	3	3	4	10	455.0
11	医薬生命化学分野	4	3	4	3	10	449.0
12	医薬品創製化学分野	4	4	1	1	6	441.0
13	創薬探索センター分野	4	2	2	1	5	428.0
14	臨床薬剤学分野	4	6	6	6	18	450.0
15	生体情報分子解析学分野	4	3	3	6	12	369.0
16	分子病態学分野	4	3	4	6	13	404.0
17	薬剤学分野	4	3	2	2	7	444.0
18	薬理学分野	4	3	4	6	13	393.0
19	臨床薬効解析学分野	3	6	5	7	18	198.9
20	医薬品情報解析学分野	1	0	0	3	3	169.0
21	実践薬学分野	4	6	6	7	19	157.0
	合計	75	73	78	86	237	8424.9

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名 講師	氏名 浅井 章良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する創薬関連の科目について教科書以外の最先端の内容をまとめた資料を作成しプリントとして配布。製薬企業での経験から実践的な創薬の考え方や手法の教授を心掛けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年～ 2023年度 2020年	静岡県立大学薬学部 化学系薬学実習I/II 実習書（創薬探索センター実習担当部分担） 図解 腫瘍薬学（南山堂）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Combined therapeutic effect of YHO-1701 with PD-1 blockade is dependent on natural killer cell activity in syngeneic mouse models.	共著	2023年7月	Cancer Immunol Immunother, 72, 2473-2482
（論文） STAT3 inhibition suppresses adaptive survival of ALK-rearranged lung cancer cells through transcriptional modulation of apoptosis.	共著	2022年2月	npj Precis Oncol, 6, 11
（論文） Chemical augmentation of mitochondrial electron transport chains tunes T cell activation threshold in tumors.	共著	2022年2月	J Immunother Cancer, 10, e003958
（論文） Design, synthesis, and evaluation of a novel prodrug, a S-trityl-L-cysteine derivative targeting kinesin spindle protein.	共著	2021年4月	Eur J Med Chem, 215, 113288
（論文） Antitumor activity of a novel oral STAT3 inhibitor YHO-1701.	共著	2020年2月	Cancer Sci, 111, 1774-1784
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）新規 IDO1/TDO 二重阻害剤の創製－イソチオウレア誘導体の合成と構造活性相関－		2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
（演題名）腫瘍微小環境におけるトリプトファン代謝酵素が引き起こす免疫抑制機構の解析		2023年9月	第82回日本癌学会学術総会
（演題名）腫瘍不均一性の克服へ向けた新規化合物のスクリーニング		2023年7月	第27回日本がん免疫学会総会
（演題名）S-trityl-L-cysteine 誘導体と酵素切断リンカーコンジュゲートの合成と評価		2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
（演題名）紡錘体形成時における染色体整列を阻害する低分子化合物の作用機序解析		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会第17回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年4月～現在	日本ケミカルバイオロジー学会 世話人		
2012年4月～現在	日本薬学会 代議員		

2022年10月～現在	創業ベンチャー アドバイザー

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬生命化学分野
職名	教授	氏名	浅井知浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	各担当科目において、教科書の要点や関連情報を記載したスライドを用いて講義を行った。スライドはPDFファイルおよび印刷物として配付した。基礎科目で習得する知識と創薬研究、医薬品開発、あるいは薬剤師国家試験との関連性について触れ、学習の動機付けを行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年3月20日 2020年8月1日 2021年8月5日	レーニンジャーの新生化学 [下] 生化学と分子生物学の基本原則 (第7版) (廣川書店) 分担翻訳 図解 腫瘍薬学 (初版) (南山堂) 分担執筆 新 放射化学・放射性医薬品学 (改訂第5版) (南江堂) 分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) Treatment of PTEN-Null Breast Cancer by a Synthetic Lethal Approach Involving PARP1 Gene Silencing.	共著	2023年7月 J Pharm Sci. 112, 1908-1914
	(論文) Increasing the siRNA knockdown efficiency of lipid nanoparticles by morphological transformation with the use of dihydrospingomyelin as a helper lipid.	共著	2023年5月 Biomater Sci. 11, 3269-3277
	(論文) Cooling-induced, localized release of cytotoxic peptides from engineered polymer nanoparticles in living mice for cancer therapy.	共著	2023年5月 J Control Release. 355, 745-759
	(論文) Easy preparation of a liposome-mediated protein delivery system by freeze-thawing a liposome-protein complex.	共著	2022年9月 J Mater Chem B. 10, 6768-6776
	(論文) Cytosolic protein delivery using pH-responsive, charge-reversible lipid nanoparticles.	共著	2021年10月 Sci Rep. 11, 19896
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月 学会名
	(演題名) 新規電荷反転型脂質を用いた PEG-free mRNA 内封 LNP の開発		2023年11月 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
	(演題名) 免疫細胞を標的とした核酸送達技術とがん免疫療法への応用		2023年10月 第44回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
	(演題名) Development of mRNA-loaded LNPs with novel pH-responsive dipeptide-conjugated lipids		2023年9月 2023 Nanomedicine and Drug Delivery Symposium
	(演題名) pH応答性ジペプチド脂質を含有するmRNA/LNP製剤の開発		2023年7月 日本核酸医薬学会第8回年会
	(演題名) 好中球を用いた炎症部位に対するDDS技術の開発		2023年3月 日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2013年7月－現在	日本DDS学会・評議員
2014年4月－現在	日本薬剤学会・代議員
2018年－2019年	Liposome Research Days 2019・International Organizing Committee
2018年4月－現在	一般財団法人浜松光医学財団・倫理委員
2018年4月－現在	中部原子力懇談会・放射線専門部会委員
2018年6月－現在	静岡エネルギー・環境懇談会・常任理事
2019年4月－現在	日本薬学会・代議員
2019年－現在	日本薬剤学会 核酸・遺伝子医薬フォーカスグループ・リーダー
2021年4月－現在	日本薬学会学術誌・編集委員
2021年7月－現在	日本核酸医薬学会・評議員、デリバリーセッション幹事

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学分野	職名 教授	氏名 石川 智久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019-2023年	(薬理学II、III) 講義で使用するスライドのpdfファイルを予めイントラネットに公開し、学生が予習に活用できるよう配慮している。講義ではスライドにタブレットを使って書き込みを行うことで、学生が理解しやすいように工夫している。	
	2019-2023年	(生物統計学) 統計解析の方法だけでなく、考え方を理解させることに主眼を置いている。Excel関数を利用した統計解析の手順をプロジェクターで映写しながら説明している。各講義後には、統計解析を実践する課題を課し、次回講義で解説している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年	詳解薬理学 (廣川書店) 分担執筆	
	2019年	図解薬理学 (南山堂) 分担執筆	
	2019年	学際的創薬科学論 (京都廣川書店) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) GDP-bound Rab27a regulates clathrin disassembly through HSPA8 after insulin secretion	共著	2023年11月	Arch. Biochem. Biophys. 749: 109789.
(論文) Non-target GC-MS analyses of fecal VOCs in NASH-hepatocellular carcinoma model STAM mice	共著	2023年6月	Sci. Rep. 13: 8924-8924.
(論文) Asymmetric dimethylarginine accumulation under hyperglycemia facilitates β -cell apoptosis via inhibiting nitric oxide production	共著	2022年12月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 637: 108-116.
(論文) Na^+ -dependent inactivation of vascular $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger responsible for reduced peripheral blood flow in neuropathic pain model.	共著	2021年8月	Eur. J. Pharmacol. 910: 174448.
(論文) Diacylglycerol kinase δ functions as a proliferation suppressor in pancreatic β -cells	共著	2021年5月	FASEB J. 35: e21420.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Exploration of signaling molecules involved in the reversion of activated hepatic stellate cells utilizing structural modification of small molecule compounds		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) Involvement of NRF2 transcription activity in prostaglandin E2-induced facilitation of the inhibitory effect of caffeine on hepatic stellate cell activation		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会

(演題名) Insulin secretory and anti-apoptotic effect of apigenin on INS-ID pancreatic β -cell	2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) Treatment of hepatocytes with palmitic acid induces the release of extracellular vesicles with tropism to activated hepatic stellate cells	2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会・第23回シトクロムP450国際会議 国際合同大会
(演題名) Effects of in vivo distribution kinetics and intrapancreatic islet distribution of Lipid nanoparticles by their phospholipid components and particle size	2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会・第23回シトクロムP450国際会議 国際合同大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年4月～現在	医薬品医療機器総合機構専門委員	
2010年7月～現在	薬学共用試験センターシステム検討委員	
2016年4月～現在	日本薬理学会研究推進委員	
2020年4月～2022年3月	日本薬理学会理事	
2020年4月～2022年3月	日本薬理学会研究推進委員長	
2023年4月～現在	静岡県薬事審議会会長	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬効解析学分野	職名 教授	氏名 伊藤 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドは印刷物として配布した。	
	2020-2023年	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfとして配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019-2023年	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)で使用するレジュメを作成し学生に配付した。	
	2023年	図解 薬害・副作用学 第3版(南山堂) 分担執筆	
	2023年	コメディカルの薬理学第4版(朝倉書店) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年8月	2022年度薬学部オープンキャンパス(Web配信)において、模擬講義を担当した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2023年	研究室の指導学生が、日本薬学会第143年会学生優秀発表賞(2名)、第6回フレッシュャーズ・カンファレンス優秀演題発表賞(1名)、第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム優秀発表賞(1名)、日本薬学会東海支部合同学術大会2023ベストプレゼンテーション賞(1名)を受賞した。	
	2021-2023年	FD講演会:2021年「薬学教育の質保証とモデル・コアカリキュラムの在り方」平田収正先生、2022年「コーチング」伊野美幸先生、2023年「授業をやめ臨床現場を経験すれば、学生は自ずから勉強する」泉美貴先生を拝聴した。いずれの講演も自分の教育手法の改善に非常に役立つものであった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Changes in estimated glomerular filtration rate in patients administered proton pump inhibitors: a single-center cohort study.	共著	2023年12月	Naunyn Schmiedebergs Arch. Pharmacol., in press
(論文) A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant, and olanzapine for a cisplatin-containing regimen. - PATROL-I	共著	2023年12月	Invest New Drugs, in press
(論文) Chemotherapy-induced neutropenia as a prognostic factor in patients with extensive-stage small cell lung cancer.	共著	2023年3月	Eur. J. Clin. Pharmacol., 79: 407-414
(論文) Benralizumab restores gene and microRNA expression involved in steroid sensitivity in severe asthma.	共著	2021年8月	Allergy, 76, 2589-2592
(論文) Circulating microRNA-15b-5p as a biomarker for asthma-COPD overlap.	共著	2021年5月	Allergy, 76, 766-774
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 喘息患者の重症度および予後に与えるビタミンD受容体遺伝子多型の影響		2023年3月	日本薬学会第143年会

(演題名) プロトンポンプ阻害薬服用患者における腎機能の長期変動：日本の単施設データベースを用いた縦断研究	2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 重症喘息患者におけるベンラリズマブの有効性に対するIL1RL1シグナルの関与	2023年6月	第6回フレッシュャーズ・カンファランス
(演題名) 喘息患者におけるPI3K経路の活性化はステロイド反応性を低下させ予後悪化に関連する	2023年9月	第17回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
(演題名) 重症喘息患者におけるステロイド反応性の低下機序	2023年10月	第72回日本アレルギー学会学術大会
(演題名) 喘息患者の重症度およびステロイド反応性に対するIL7Rの関与	2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2011年4月～現在	東海薬学教育コンソーシアム 運営委員	
2011年4月～現在	日本薬学会 代議員	
2011年11月～現在	静岡メディシン アドバイザー	
2015年6月～現在	静岡県薬剤師会 常務理事	
2021年1月～現在	静岡県立静岡がんセンター臨床研究倫理審査委員会 技術専門員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬食研究推進センター	職名 講師	氏名 伊藤 由彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する情報科学、科学演習において、ITを活用し双方向性のあるインタラクティブな講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年3月	コメディカルのための薬理学 第4版 (朝倉書店) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Comparative characterization on α -adrenoceptors in the bladder, heart and lung of rats: Alterations in spontaneously hypertensive rats.	共著	2022年1月	J Pharmacol Sci, 148: 51-55
(論文) Direct in vitro and in vivo demonstration of muscarinic receptor binding by the novel radioligand, [3H]5-hydroxymethyltolterodine, in the bladder and other tissues of rats	共著	2020年3月	J Pharmacol Sci, 142: 127-130
(論文) Effects of combined treatment with fesoterodine and mirabegron in a pelvic congestion rat model: Results from in vitro and in vivo functional studies	共著	2020年5月	Lower Urinary Tract Symptoms, 12: 173-179
(論文) Conformational restriction of imstamine with a rigid bicyclo[3.1.0]hexane scaffold provided selective H3 receptor ligands	共著	2020年8月	Molecules, 5;25(16):3562
(論文) Muscarinic receptor binding of resorodine, 5-hydroxymethyl tolterodine, and tolterodine in rat tissues after the oral, intravenous, or intravesical administration	共著	2019年5月	J Pharmacol Sci 140: 73-78
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 褐藻類抽出エキスの低活動膀胱への応用		2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) 治験・臨床試験を担うスタッフ養成のための大学院講座—20年の変遷と現況—		2024年4月	日本薬学会第144年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2009年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人		
2013年～現在	日本薬理学会学術評議委員		
2021年～現在	静岡県災害薬事コーディネーター		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品創製化学分野
職名	准教授	氏名	稲井 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当した有機化学Ⅲ,Ⅳでは、繰り返し復習できるように、資料をHPより閲覧できるようにし宿題・練習問題の解説動画をオンデマンド化した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)
	(論文) Identification of Biosynthetic and Metabolic Genes of 2 - Azahypoxanthine in <i>Lepista sordida</i>	共著	2023年2月
	(論文) Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key	共著	2023年1月
	(論文) Total Synthesis of Isosilybin B	共著	2022年7月
	(論文) Total Synthesis of Sophoraflavanone H and Confirmation of Its Absolute Configuration	共著	2020年4月
	(論文) Synthetic Studies on Pactamycin: A Synthesis of Johnson's Intermediate	共著	2020年4月
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	(演題名) 複合型ポリフェノール類の立体選択的合成法の開発		2023年9月
			第49回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	次世代を担う有機化学シンポジウム 世話人		
2022年9月	第64回 天然有機化合物討論会 実行委員		
2021年10月	第50回 複素環化学討論会 実行委員		
2021年5月	第19回 次世代を担う有機化学シンポジウム 実行委員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	臨床薬効解析学
職名	准教授	氏名	井上 和幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する遺伝子診断学、薬物療法学III、臨床薬物動態学において、教科書に加えて、要点や関連情報（医薬品情報、時事ニュース等）を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfとして電子データを講義前に配布した。病院実務実習では、実習に関する要点をまとめたテキストを作成し配付した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～ 2023年度	静岡県立総合病院における病院実務実習を行なうために、実習に関する要点をまとめたテキストを作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年3月	日本薬学会第139年会において、地（知）の拠点整備事業5年間の静岡県立大学の取り組みに関して、多職連携教育プログラムについて発表した。
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Genetic risk factors for chemotherapy-induced nausea and vomiting in patients with cancer receiving cisplatin-based chemotherapy.	共著	2018年5月	Support Care Cancer. 26(5), 1505-1513 (2018)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
精神疾患におけるQOL状況への酸化ストレスの関連		2023年11月	USフォーラム2023
本学病院・薬局実務実習における学生の経費負担適正化に向けたルール作り		2023年7月	第69回日本薬学会東海支部 総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2007年1月～現在	日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師・医療薬学指導薬剤師		
2009年4月～現在	静岡県立総合病院 客員研究員、実務実習指導薬剤師		
2016年10月～現在	薬学共用試験センターOSCEモニター員		
2018年5月～現在	東海地区調整機構 実務実習システム標準化小委員会（WG3） 委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品化学分野	職名 講師	氏名 岩本 憲人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する無機化学、化学系薬学実習IIにおいて、教科書に加えて、補足事項を印刷物として配布した。配布物はpdf化し、印刷物とともにダウンロードして活用できるようにした。また、すべての講義内容を動画化し、予習・復習に活用できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019～2023年度	無機化学 全15回 動画
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 創薬を志向したFFA3モジュレーターの合成研究		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年～2023年		日本薬学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	職名 教授	氏名 内田信也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年9月	(実務事前実習)教科書及び作成した配布用資料を利用し、ワクチン投与やフィジカルアセスメントを行う実習を実施した。	
	2023年9月	(臨床薬学演習、実務事前実習)VR教材を用いた実習を立ち上げ、教科書や配布資料を利用し、臨床現場をイメージさせながら指導を行った。	
	2023年12月	(臨床薬学演習)臨床症例を教育症例に修正し、アクティブラーニングの手法を用いて、学生の考えを引き出しながら、深い症例検討を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年5月	(臨床薬学演習)症例検討用新規課題及びチューター用資料を作成し、実習の教材とした。	
	2023年9月	(実務事前実習)ガイドライン改定に応じたTDM実習用課題及び実習書を作成した。	
	2023年12月	(臨床薬学演習)低学年用の症例検討課題及びチューター用資料を作成し、演習の教材とした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年9月-10月	令和3年度静岡県立大学公開講座で一般市民へ薬学教育及び薬剤師に関する講演を行った	
	2022年3月23日	静岡県立大学・病院・地域薬局連携「第159回薬物療法研修会で薬学教育に関する講演を行った。	
	2023年11月23日	2023年度 静岡県病院薬剤師会 中堅研修会で薬剤師の博士の学位の取得に関して講演を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年	静岡県薬剤師会の「緩和ケア対応(注射の無菌調製)」や「在宅医療における褥瘡」などの研修会にタスクフォースとして参加した。	
	2023年3月	教育教材として薬局及び病棟における服薬指導、在宅患者との医療面談、医師による呼吸音の聴診、末梢静脈採血、静脈路確保、筋肉内及び皮下注射手技のVR動画を作成し、実習に使用した。	
	2023年7月	第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海(静岡)のチーフタスクフォースとして参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Increased plasma drug concentration and decreased additional insulin secretion following oral administration of glimepiride in Spontaneously Diabetic Torii rats.	共著	2022年1月	Pharmazie, 77: 6-8.
(論文) Efficacy and Safety of Propranolol Cream in Infantile Hemangioma: A Prospective Pilot Study.	共著	2022年6月	J. Pharmacol. Sci, 149: 60-65.

(論文) Tablet characteristics and pharmacokinetics of orally disintegrating tablets containing coenzyme Q10 granules prepared by different methods.	共著	2023年1月	Acta Pharm, 73: 107-119.
(論文) Palatability of Aripiprazole Gummies Prepared from Commercially Available Products: Pharmaceutical Formulation for Improving Patient Adherence.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull: 71, 441-446.
(論文) Improved Palatability of Gummy Drugs of Epinastine Hydrochloride Using Organoleptic Taste-Masking Methods	共著	2023年6月	BPB reports: 6, 184-188.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) テープ製剤におけるアトモキセチンのin vitro皮膚透過性及び経皮吸収促進剤の影響		2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 小児患者を対象とした院内製剤スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤含有グミ製剤の開発		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
(演題名) 調剤上の工夫から生まれる新たな製剤の可能性臨床応用への臨床薬理的アプローチ		2023年6月	第7回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
(演題名) Verification of an approach for quantitative drug-drug interaction assessment and prediction of the area under the curve using limited-point blood sampling in a cocktail study.		2023年7月	19th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology
(演題名) 口腔内崩壊錠服用性評価におけるVisual analogue scalesの群間及び繰返し再現性の検討		2023年12月	第44回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2004年～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2015年～現在	日本臨床薬理学会 評議員		
2020年～現在	日本薬剤学会 代議員		
2022年～現在	日本薬学会東海支部 幹事		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬学分野	職名 講師	氏名 内野 智信
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する薬学英语において、薬局や病院で使用する英会話の要点や関連情報をスライドに示しながらHawke准教授と医療薬学領域の英会話講義を行った。スライドは印刷物として配布した。また、薬学科5年生の実務実習については静岡県立総合病院にて入院患者服薬指導やがん化学療法に関する実習の直接の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Comparative analysis of intercellular lipid organization and composition between psoriatic and healthy stratum corneum.	共著	2023年8月	Chem Phys Lipids, 254: 105305.
(論文) Effect of Equipment Parameters on Amount and Dispersion of Wetting Liquid in Planetary Centrifugal Granulation.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull, 71: 428-434.
(論文) Effect of batch size on the granule properties in planetary centrifugal granulation.	共著	2022年1月	Pharmazie, 70: 103-106.
(論文) Helix 12 stabilization contributes to basal transcriptional activity of PXR.	共著	2021年1月	Int J Pharm, 592: 12004.
(論文) Association of dry skin with intercellular lipid composition of stratum corneum after erlotinib administration.	共著	2020年6月	Cancer Chemother Pharmacol, 86: 233-243.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Study on the drug permeation mechanism from lipid nanoparticles across the skin: Synchrotron X-ray diffraction study		2023年11月	The Joint Symposium of University of Shizuoka, Khon Kaen University and Chiang Mai University on Pharmacology and Pharmacy
(演題名) ナノ粒子はどのようにして薬物の皮膚浸透性を向上させるのか?		2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022

(演題名) 薬物封入ナノ粒子の皮膚浸透性改善のメカニズムについて	2021年9月	日本油化学会第60回年会 S VIIIシンポジウム
(演題名) 分子レベルの解析手法を用いた乾癬患者と健常人の角層細胞間脂質成分および構造の比較	2021年7月	第5回日本臨床薬理学会東 海・北陸地方会
(演題名) エルロチニブ服用による角層中の硫酸コレステロールレベルの変化と皮膚乾燥の関連性の検討	2023年8月	
(演題名) 皮膚貯留性向上を目的したジクロフェナクとフェニレフリンからなるイオンペア複合体含有外用剤の開発	2019年5月	日本薬剤学会第33年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2009年10月～現在	実務実習指導薬剤師・静岡県立総合病院臨床研究部客員研究員	
2011年4月～現在	東海地区実務実習調整機構 ワーキング委員	
2011年4月～現在	静岡県病院薬剤師会 医薬品情報管理センター運営委員会委員	
2012年4月～2022年3月	日本薬剤学会経皮投与製剤フォーカスグループ 執行部	
2017年4月～現在	静岡県病院薬剤師会実務実習委員会 委員	
2017年6月～現在	日本化粧品学会 役員	
2020年4月～2022年3月	日本薬剤学会経皮投与製剤フォーカスグループ グループリーダー	
2019年6月～現在	日本化粧品学会 優秀論文賞選考委員会・委員	
2022年11月～現在	日本臨床薬理学会 社員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学	職名 教授	氏名 梅本 英司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年～ 2023年度	担当する微生物学、免疫学、遺伝子工学において教科書に参考書や関連情報を加えたスライドを用いて講義を行った。スライドはpdfの事前配布および印刷物を当日配布した。国家試験での関連にも触れたり、遺伝子工学では小グループでの議論を取り入れるなどして学習の動機づけを図った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2023年	研究室の指導学生が日本薬学会東海支部合同学術大会2023でベストプレゼンテーション賞を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Pyruvate enhances oral tolerance via GPR31.	共著	2022年7月	Int Immunol. 34:343-352.
(論文) Extracellular ATP Limits Homeostatic T Cell Migration Within Lymph Nodes.	共著	2021年12月	Front Immunol. 12:786595.
(論文) Hv1/VSOP regulates neutrophil directional migration and ERK activity by tuning ROS production	共著	2020年5月	J Leukoc Biol. 107:819-831.
(論文) High-endothelial cell-derived S1P regulates dendritic cell localization and vascular integrity in the lymph node.	共著	2019年10月	eLife. 8:e41239.
(論文) GPR31-dependent dendrite protrusion of intestinal CX3CR1 ⁺ cells by bacterial metabolites.	共著	2019年2月	Nature. 566:110-114.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GPR31 signaling enhances immune responses in Peyer's patches by inducing dendrite protrusion of CX3CR1 ⁺ phagocytes to M cells		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) TRPV1 ⁺ sensory neuron enhances dendritic cell migration to lymph nodes by a CGRP-RAMP1 axis in contact hypersensitivity		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) 接触過敏症の感作相において、神経ペプチド CGRP は RAMP1 を介して樹状細胞のリンパ節への移動を促進する		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
(演題名) TRPV1 ⁺ 感覚神経は接触過敏症において神経ペプチドCGRPを産生することで樹状細胞の移動を促進する		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023
(演題名) GPR35の脂肪組織マクロファージを介した炎症制御の解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023

(演題名) パイエル板貪食細胞におけるGPR31シグナルを介した病原性細菌の取り込みと免疫応答の解析	2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフォーラム2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2022年4月～現在	日本免疫学会 評議員	
2022年4月～現在	日本薬学会生物系薬学部会 世話人	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品創製化学分野	職名	氏名 江上 寛通
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2016年 ~2023年度	有機合成論において、要点をまとめたプリントを中心に講義を展開し、その知識の定着を図るために毎回演習問題を課した。理解度と応用力の向上を目指し、毎週、受講する全学生一人一人にフィードバックを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年3月	化学系薬学実習実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Simple purification of small-molecule-labelled peptides via palladium enolate formation from β -ketoamide tags	共著	2023年7月	Chem. Sci., 14: 8249-8254.
(論文) Asymmetric Fluorofunctionalizations with Carboxylate-Based Phase-Transfer Catalysts	共著	2023年7月	Chem. Rec., 23: e202200285.
(論文) Structure Dependence in Asymmetric Deprotonative Fluorination and Fluorocyclization Reactions of Allylamine Derivatives with Linked Binaphthyl Dicarboxylate Phase-Transfer Catalyst	共著	2021年9月	J. Am. Chem. Soc., 143: 16599-16609.
(論文) Dearomative enantio- and diastereoselective difluorination of resorcinol derivatives	共著	2021年7月	Tetrahedron, 96: 132355.
(論文) Dual-Role Catalysis by Thiobenzoic Acid in $C\alpha$ -H Arylation under Photoirradiation	共著	2021年1月	ACS Catal., 11: 82-87.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 相間移動触媒を用いる脱芳香環化型不斉フッ素化反応		2023年7月	第38回創薬セミナー
(演題名) トリフルオロメチル基形成を伴うジフルオロアルケン類の不斉フルオロアミド環化反応		2023年10月	第46回フッ素化学討論会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学分野
職名	助教	氏名	大内 仁志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2023年8月10日	(生活の化学) 講義内容は出来るだけ身近な例を挙げ、化学に馴染みのない学生にも理解しやすいよう工夫している。また毎回、日常的な出来事を題材としたレポート課題を課すことで、化学的な視点で物事を見る力が得られるよう工夫している。
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年8月10日	(生活の化学) 全15回分の講義スライドを新規に作成し、抜粋を授業資料として学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
ドクササコ有毒成分同時分析法の調理加工品への応用	共著	2023年4月	食品衛生学雑誌 2023, 64, 89-93
Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key Compound in Oceanic Harmful Algal Blooms	共著	2023年1月	Org. Biomol. Chem. 2023, 21, 1653-1656
S-Adenosylhomocysteine Analogue of a Fairy Chemical, Imidazole-4-carboxamide, as its Metabolite in Rice and Yeast and Synthetic Investigations of Related Compounds	共著	2021年1月	J. Nat. Prod. 2021, 84, 453-458
Total synthesis of sophoraflavanone H and confirmation of its absolute configuration	共著	2020年4月	Org. Lett. 2020, 22, 3820-3824
Ribosides and Ribotide of a Fairy Chemical, Imidazole-4-carboxamide, as Its Metabolites in Rice	共著	2019年9月	Org. Lett. 2019, 21, 7841-7845
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
田中 慎、千葉二矢、石田敬士、林 尚毅、角川仁規、大内仁志、吉村文彦、藤間達哉、横島 聡、稲井 誠、滝田 良、福山 透、菅 敏幸：効率的炭素骨格構築を鍵とするモルヒネの合成研究		2023年8月	第57回有機反応若手の会
内田雅哉、新田目かおり、大内仁志、稲井 誠、吉村文彦、滝田 良、菅 敏幸：ハリコニンBの全合成研究		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
石田恵崇、大内仁志、菅 敏幸、長岡由香：ドクササコ有毒成分同時分析法の調理加工品への応用		2023年10月	第119回日本食品衛生学会学術講演会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年5月～現在	日本薬学会会員		
2012年2月～現在	有機合成化学協会会員		
2022年9月	第64回天然有機化合物討論会実行委員		
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022協力委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

- 各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	臨床薬剤学
職名	講師	氏名	大澤 隆志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019-2023年度	担当する実務実習科目の発表会において、口頭発表およびポスター発表をWebと対面併用のハイブリッドで指導薬剤師参加型発表会とし、評価はルーブリックにより行い、さらに優秀発表者を顕彰することで学生のモチベーションアップに努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Impact of Plasma Donepezil Concentration on Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia in Patients with Alzheimer's Disease.	共著	2021年12月	Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2021 Dec 2;11(3):264-272.
(論文) Transfer of vaginal chloramphenicol to circulating blood in pregnant women and its relationship with their maternal background and neonatal health.	共著	2017年7月	J Infect Chemother. 2017 Jul;23(7):446-451.
(論文) Trends in Non-prescription Drug Recalls in Japan.	共著	2016年9月	Yakugaku Zasshi. 2016;136(9):1307-12.
(論文) Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients.	共著	2014年12月	Clin Biochem. 2014 Oct;47(15):54-9.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 静岡県立大学・病院・地域薬局連携による薬物療法研修会の現況		2023年11月	日本医療薬学会年会
(演題名) オシメルチニブとその活性代謝物の高感度血漿中濃度測定法の開発と臨床適用		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学分野	職名 准教授	氏名 大橋 若奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年	担当する免疫学と生物系実習では、教科書に加えて関連する最新情報や要点、補足情報を記載したスライドを作成して講義を進めた。スライドはpdf化してダウンロードできるとともに、印刷物として配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年	担当する講義(薬物療法学Ⅲ、臨床薬物動態学、調剤学、遺伝子診断学)で使用するレジュメを作成し学生に配付した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Sitafloxacin reduces tumor necrosis factor alpha (TNF α) converting enzyme (TACE) phosphorylation and activity to inhibit TNF α release from lipopolysaccharide-stimulated THP-1 cells	共著	2021年12月	Scientific Reports 11, 24154
Symbiotic polyamine metabolism regulates epithelial proliferation and macrophage differentiation in the colon.	共著	2021年4月	Nature Communications 12(1), 2105
Mast cells play role in wound healing through the ZnT2/GPR39/IL-6 axis	共著	2019年6月	Scientific Reports 9(1):10842
Maintenance of intestinal epithelial homeostasis by zinc transporters.	共著	2019年3月	Dig. Dis. Sci. Mar 4.
Regulatory role of GRK2 in the TLR signaling-mediated iNOS induction pathway in microglial cells.	共著	2019年2月	Front. Pharmacol. 4;10:59
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The role of maternal gut microbiome in intrauterine fetal growth and development		2023年12月	第46回日本分子生物学会
(演題名) The physiological role of endoplasmic reticulum-resident Zinc transporter ZIP7 in the gut epithelium and humoral immunity		2023年12月	第46回日本分子生物学会
(演題名) 脂肪組織のマクロファージにおけるGPR35 シグナルの生理作用解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年9月~現在	日本微量元素学会 代議員		
2019年4月~現在	日本薬理学会 学術評議員		
2018年9月-2020年9月	日本生化学会 北陸支部 幹事		

2017年4月～現在	日本亜鉛栄養治療研究会 世話人
2017年4月～現在	トランスポーター研究会 世話人

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名 講師	氏名 小郷 尚久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する創薬科学において、要点や関連論文、企業経験を活かし日本初創薬に関する資料等を記載したスライドを作成し講義を行った。スライドはpdfとして事前配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年～ 2023年度	静岡県立大学薬学部 化学系薬学実習I/II 実習書（創薬探索センター実習担当部分担）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Combined therapeutic effect of YHO-1701 with PD-1 blockade is dependent on natural killer cell activity in syngeneic mouse models.	共著	2023年7月	Cancer Immunol Immunother. 72, 2473–2482
（論文） Crystal structure of the motor domain of centromere-associated protein E in complex with a non-hydrolysable ATP analogue.	共著	2023年2月	FEBS Letters, 597, 1138–1148
（論文） STAT3 inhibition suppresses adaptive survival of ALK-rearranged lung cancer cells through transcriptional modulation of apoptosis.	共著	2022年2月	NPJ Precis Oncol., 6(1), 11
（論文） Chemical augmentation of mitochondrial electron transport chains tunes T cell activation threshold in tumors.	共著	2022年2月	J Immunother Cancer., 10(2), e003958
（論文） Design, synthesis, and evaluation of a novel prodrug, a S-trityl-L-cysteine derivative targeting kinesin spindle protein.	共著	2021年4月	Eur J Med Chem., 215, 113288
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）新規 IDO1/TDO 二重阻害剤の創製 –イソチオウレア誘導体の合成と構造活性相関–		2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
（演題名）腫瘍微小環境におけるトリプトファン代謝酵素が引き起こす免疫抑制機構の解析		2023年9月	第82回日本癌学会学術総会
（演題名）腫瘍不均一性の克服へ向けた新規化合物のスクリーニング		2023年7月	第27回日本がん免疫学会総会
（演題名）S-trityl-L-cysteine 誘導体と酵素切断リンカーコンジュゲートの合成と評価		2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
（演題名）紡錘体形成時における染色体整列を阻害する低分子化合物の作用機序解析		2023年5月	日本ケミカルバイオロジー学会第17回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2012年11月～現在	日本薬学会・医薬科学部会（一般会員）		

2013年4月～現在	日本癌学会（一般会員）
2013年4月～現在	日本ケミカルバイオロジー学会（一般会員）

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 教授	氏名 尾上 誠良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する薬剤学, 薬物動態学 I, 薬物動態学 II において, 教科書に加えて, 要点や関連するトピックスを記載したスライドを用いて講義を行った。講義サイトを別途作成し, スライドは pdf として配布した。講義の冒頭で前回の講義のフォローアップを行い, 理解の深化を試みた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年12月 2022年2月	コンパス生物薬剤学 (改訂第3版増補) (南江堂) 編集/分担執筆 パートナー薬剤学 (改訂第4版) (南江堂) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Recent Advancements in the Development of Nanocarriers for Mucosal Drug Delivery Systems to Control Oral Absorption	共著	2023年11月	Pharmaceutics, 15: 2708
(論文) Quantitative assessment of disintegration rate is important for predicting the oral absorption of solid dosage forms containing poorly soluble weak base drugs	共著	2022年11月	Eur J Pharm Biopharm, 180: 23
(論文) Clofazimine-Loaded Mucoadhesive Nanoparticles Prepared by Flash Nanoprecipitation for Strategic Intestinal Delivery	共著	2021年12月	Pharm Res, 38: 2109
(論文) An approach to evaluate metabolite-related phototoxicity with combined use of photochemical properties and skin deposition	共著	2021年10月	Toxicol Lett, 350: 91
(論文) UniORV, a New Multi-Unit Dosage Form, Improved Biopharmaceutical Properties of Tacrolimus in Rats and Humans	共著	2020年3月	Pharm Res, 37: 64
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 生物薬剤学的特性改善を指向した薬物送達システムの構築		2023年3月	日本薬学会 第 143 年会
(演題名) Clinical question に応える新しい製剤開発		2023年5月	日本薬剤学会 第 38 年会
(演題名) 薬剤科学のチカラ: 基礎・臨床融合によるモノづくり		2023年9月	第 17 回 次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム

(演題名) Development of ROS Assay for Photosafety Evaluation	2023年10月	Webinar Series on In Vitro Phototoxicity Testing (PETA Science Consortium International e.V.)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2014年1月～現在	日本医薬品安全性学会 理事	
2020年4月～現在	Molecules, Editor	
2021年6月～現在	Biopharm Drug Depos, Editorial Board	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬剤学	職名 教授	氏名 賀川 義之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019-2023年度	担当する実務実習科目の発表会において、口頭発表およびポスター発表をWebと対面併用のハイブリッドで指導薬剤師参加型発表会とし、評価はルーブリックにより行い、さらに優秀発表者を顕彰することで学生のモチベーションアップに努めた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年1月 2023年4月 2020年8月	図解薬害・副作用学（改訂3版）（南山堂）（分担編集） 薬物治療学（改訂12版）（南山堂）（分担編集） 図解腫瘍薬学（1版）（南山堂）（分担編集）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2024年1月 2023年8月 2023年7月	薬学教育モデル・コアカリキュラム OBEに対応した参加型実務実習の評価と方略 静岡県立大学薬学部における薬害講演会の実績とアンケート調査結果 ワークショップの歩みと薬学教育改革	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2024年1月 2023年10月 2023年8月	静岡県薬剤師会アドバンスワークショップタスクフォース 第97回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース 第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
〔論文〕 Population Pharmacokinetics of the Novel Adenosine A2A Antagonist/Inverse Agonist KW-6356 and Its Active Metabolite Following Single and Multiple Oral Administration in Healthy Individuals and Patients with Parkinson's Disease.	共著	2024年1月	Clin Pharmacol Drug Dev 2024 Jan in press
〔論文〕 Time-Course Changes in Lamotrigine Concentration after Addition of Valproate and the Safety and Long-Term Tolerability of Lamotrigine-Valproate Combination Therapy.	共著	2024年1月	Biol Pharm Bull 2024 Jan 1:47(1):43-48.
〔論文〕 Safety, Tolerability, and Pharmacokinetics of the Novel Adenosine A2A Antagonist/Inverse Agonist KW-6356 Following Single and Multiple Oral Administration in Healthy Volunteers.	共著	2023年8月	Clin Pharmacol Drug Dev 2023 Aug;12(8):801-809.
〔論文〕 Comprehensive Analyses of the Intracellular and in Vivo Disposition of Fab-Small Interfering RNA Conjugate to Identify Key Issues to Improve Its in Vivo Activity.	共著	2022年12月	Drug Metab Dispos 51(3):338-347.
〔論文〕 Therapeutic Drug Monitoring for Rufinamide in Japanese Patients With Epilepsy: Focus on Drug Interactions, Tolerability, and Clinical Effectiveness.	共著	2022年8月	Ther Drug Monit 2022 Aug 1:44(4):585-591.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
〔演題名〕 Impact of concomitant drugs on cilostazol pharmacokinetics in patients with cerebral infarction		2023年9月	2023 International Joint Meeting of the 23rd International Conference on Cytochrome P450 and the 38th Annual Meeting of the Japanese Society for the Study of Xenobiotics in Shizuoka
〔演題名〕 Influence of CYP2C19 polymorphism on lacosamide pharmacokinetics in Japanese patients with epilepsy.		2023年12月	ASHP Midyear Clinical Meeting 2023
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年4月～2023年3月	静岡県薬事審議会 会長		
2019年4月～2024年3月	静岡がんセンター認定臨床研究倫理審査委員会委員		
2019年4月～2024年3月	日本薬学会代議員		
2019年4月～2024年3月	日本医療薬学会代議員、医療薬学指導薬剤師・認定薬剤師		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	職名 准教授	氏名 柏倉 康治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年5月1日	(臨床薬学演習) 新型コロナウイルス感染症拡大防止による対面実習が制限されたことを受け、ペーパーペイシェントを用いたSGDを対面式からZoom形式に変更し、さらにZoomによる症例発表会ができるよう企画・実行した。	
	2022年6月3日	(症候学) 当研究室が担当する講義(第11回～第15回)において、講義中に学生に対して課題や総合討論を取り入れるなど、参加型の講義形式を取り入れた。記名式授業アンケートでは、非常に多くの学生から講義及び講義資料についてわかりやすく、興味を持てた講義であったとの評価を受けた。	
	2022年9月1日	(実務事前実習) 薬剤師業務の拡大を見据えて、シュミレーターなどを利用した「褥瘡処置」を計画し、実務事前実習に取り入れた。記名式実習アンケートでは非常に多くの学生から充実感を得られる実習であったとの評価を受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年～現在	(臨床薬学演習) ペーパーペイシェントの症例の見直しや、最新EBMを反映させたチューターガイドの更新を実施した。また、新規の症例とチューターガイドを作成した。	
	2021年～現在	(実務事前実習) コロナによる対面実習が制限されたことを受け、実務事前実習に関する動画を作成した。コロナ制限解除後も動画の見直しを行い、運用している。	
	2023年3月30日	実習などで活用できるVRコンテンツとして、6種類(「薬局窓口での医療面談」、「病院のベッドサイドでの医療面談」、「患者宅での医療面談」、「在宅でのフィジカルアセスメント」、「末梢静脈からの採血及び静脈路確保手技」、「筋肉内及び皮下投与手技」)を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年11月3日	第29回日本医療薬学会年会(福岡)のシンポジウムにて、「学生および若手薬剤師の育成に対する“あどばいす”」という演題で発表した。	
	2020年6月27日	第5回 スポーツ医学セミナー(静岡)にて、静岡県のスポーツ指導者、選手などを対象に、アンチドーピングに関する講演を行った。	
	2022年7月17, 18日	2022年度の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(静岡)にて、タスクフォースとして参加した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年～現在	静岡県薬剤師会、緩和ケア対応研修会(無菌調製実習)及び在宅医療に関する上級研修会(褥瘡治療)の講師として、薬局薬剤師を対象とした講義、実技指導を行った。	
	2023年12月26日	静岡県立大学FD講習会の運営側において、「授業をやめ臨床現場を経験すれば、学生は自ずから勉強する」(泉美貴先生)と題した講演を企画した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称

(論文) Tablet characteristics and pharmacokinetics of orally disintegrating tablets containing coenzyme Q10 granules prepared by different methods.	共著	2023年1月	Acta Pharmaceutica, 73: 107-119
(論文) Topical formulations of propranolol for infantile hemangiomas: characteristics of formulations and three cases of infants administered topical propranolol cream.	共著	2022年4月	Chem Pharm Bull, 70: 277-282
(論文) Efficacy and safety of propranolol cream in infantile hemangioma: A prospective pilot study.	共著	2022年3月	J Pharmacol Sci, 149: 60-65
(論文) Evaluation of disappearance time and palatability of foams in the oral cavities of healthy volunteers, and preparation of drug-containing foam formulations for use in the treatment of oral mucositis.	共著	2021年4月	Chem Pharm Bull, 69: 400-406
(論文) In vitro transdermal permeation and in vivo transdermal absorption of domperidone cream formulations compounded from tablets as a hospital formulation.	共著	2021年1月	Pharmazie, 76: 2-5
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 褥瘡治療を目的とした院内製剤ヨウ素含有フォーム製剤の調製		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
(演題名) 褥瘡の創部でゲル化するヨウ素含有フォーム製剤の調製		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年1月～現在	日本薬剤学会 代議員		
2018年1月～現在	日本薬剤学会 学会誌「薬剤学」編集委員会		
2019年6月～現在	日本褥瘡学会 代議員		
2021年9月、2022年5月	新型コロナウイルス用ワクチン調製業務への従事		
2023年9月～現在	日本医療薬学会 将来計画委員会(部会) 委員		
2023年10月～現在	静岡県バスケットボール医科学委員会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学分野	職名 講師	氏名 刀坂 泰史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する疾患学II、疾患学IIIにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（薬剤添付文書等）を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfとして配布した。適宜確認問題を提示した。また担当する生物医療系薬学実習、静岡救命連携演習において、実習書に加えて、要点をまとめたスライドや技術的動画資料を用いて技術指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年2月11日 2019年3月23日	地域貢献を指向した静岡県立大学における防災教育への取り組み、日本災害医療薬剤師学会 第7回学術大会 地（知）の拠点整備事業5年間の静岡県立大学の取り組み4～薬学部での救急救命教育の教育効果について～	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Alpha Mangostin Derived from Garcinia magostana Linn Ameliorates Cardiomyocyte Hypertrophy and Fibroblast Phenotypes in Vitro	共著	2021年7月	44(10): 1465-1472
（論文）Effect of Theaflavin on Oral Bacteria in Japanese Subjects: A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Study.	共著	2021年9月	24:1186-1190
（論文）Zerumbone prevents pressure overload-induced left ventricular systolic dysfunction by inhibiting cardiac hypertrophy and fibrosis.	共著	2021年9月	92:153744
（論文）ANGPTL4 Expression Is Increased in Epicardial Adipose Tissue of Patients with Coronary Artery Disease.	共著	2022年4月	11(9), 2449
（論文）Ameliorating prediabetic subject status via fermented tea supplementation: A randomized, double-blind, parallel-group comparison study.	共著	2022年12月	97:105257
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ハナショウガ成分ゼルンポンは圧負荷応答性の心不全進展を抑制した		2023年6月	第8回日本心臓血管協会(JCVA)学術集会
（演題名）マンゴスチン果皮成分α-mangostin は心筋細胞肥大および線維化反応を抑制する		2023年6月	第8回日本心臓血管協会(JCVA)学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2013年9月～現在	日本循環器学会JCS-ITC BLSインストラクター		

2022年4月～2023年3月	日本薬理学会学術総会プログラム委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学	職名 講師	氏名 金子 雪子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する公衆衛生学、衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、毒性学において、教科書に加えて、要点や関連情報（官公庁資料、時事ニュース等）、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行った。 担当する「薬理学Ⅱ」において、Web学生サポートシステム（Universal Passport）を利用し、講義数日前に講義に使用するスライドを学生に共有し、次の講義への予習がしやすいように支援した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年4月 2019年7月	薬理学実習書：担当の「医療系・生物系薬学実習（薬理学実習）」の実習書作製を行った。 薬理学実習動画：コロナ禍における密を避ける目的や遠隔でも実習をより体感しやすくするために、実習の動画を作製した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Oral ingestion of Shiikuwasha extract suppresses diabetes progression in db/db mice by preserving β -cell mass	共著	2024年1月	Front. Nutr. 10:1336133.
（論文） Development of therapeutic agents with a novel mechanism of action targeting pancreatic β -cells for diabetes.	単著	2023年5月	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 46(5) 640-646
（論文） Apigenin alleviates endoplasmic reticulum stress-mediated apoptosis in INS-1 β -cells.	共著	2023年4月	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 46(4) 630-635
（論文） Asymmetric dimethylarginine accumulation under hyperglycemia facilitates β -cell apoptosis via inhibiting nitric oxide production.	共著	2022年12月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 637, 108-116
（論文） Diacylglycerol kinase δ functions as a proliferation suppressor in pancreatic β -cells.	共著	2021年5月	The FASEB journal 35(5) e21420
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Insulin secretory and anti-apoptotic effect of apigenin on INS-ID pancreatic β -cell		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
（演題名） Involvement of NRF2 transcription activity in prostaglandin E2-induced facilitation of the inhibitory effect of caffeine on hepatic stellate cell activation.		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
（演題名） 植物由来エキソソーム様ナノ粒子が膵 β 細胞アポトーシスに及ぼす影響の検討		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023

(演題名) β 細胞に発現するDGK ζ はインスリン分泌の促進因子である	2023年10月	第96回日本生化学会大会
(演題名) 膵島に集積する脂質ナノ粒子の開発を目指したリン脂質の組成および粒子径の検討	2023年10月	第44回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
(演題名) 膵 β 細胞アポトーシスに対する植物由来エキソソーム様ナノ粒子の効果の検証	2023年8月	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2023
(演題名) Insulin-secretory and anti-apoptotic effects of apigenin in INS-ID pancreatic β -cells	2023年7月	International Diabetes Federation Western Pacific Region Congress 2023 (
(演題名) シークワーサー果皮抽出物の経口摂取はマウス膵 β 細胞量保持による抗糖尿病効果を示す	2023年6月	第148回日本薬理学会関東部会
(演題名) 膵 β 細胞の核内におけるジアシルグリセロールキナーゼ ζ の機能解析	2023年5月	第66回日本糖尿病学会年次学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2013年4月～現在	静岡実験動物研究会 幹事	
2013年6月～現在	日本薬学会薬理系部会 若手世話人	
2017年4月～現在	日本薬理学会 学術評議委員	
2020年4月～2022年3月	静岡実験動物研究会 広報委員長	
2022年7月	第90回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ in 東海 タスクフォース	
2022年8月	次世代を担う若手のための創薬医療薬理シンポジウム2022 大会副委員長	
2023年9月～現在	Frontiers in Endocrinology Reviewer Editor	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	職名 教授	氏名 河本 小百合
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年9月	座学での説明だけよりも実演し手技を見せながら説明を行うことで、学生が理解しやすいように工夫した。(実務事前実習)	
	2023年5月	例示された症例についてSGDを行っている学生に対して、頻回に巡回し不明点や困り事を早期に解決することで議論が円滑に進むように指導した。(臨床薬学演習)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2023年12月	2年生を対象とした臨床薬学演習で用いる新たな症例及び講義資料を作成した。	
	2023年9月	4年生を対象とした臨床薬学演習で用いる新たな症例及び講義資料を作成し、さらに既存の症例及び講義資料をアップデートした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2023年12月	OSCE実施委員として運営を行った。	
	2023年3月	薬剤師業務に関するVR動画撮影に薬剤師役として出演した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Palatability of Aripiprazole Gummies Prepared from Commercially Available Products: Pharmaceutical Formulation for Improving Patient Adherence.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull., 71, 441-446
(論文) Development of a strategy to identify and evaluate direct and indirect activators of constitutive androstane receptor in rats.	共著	2023年11月	BPB reports, 6, 184-188
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 院内製剤アリピプラゾール含有グミ製剤の調製とその服用性評価		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
(演題名) 液体クロマトグラフ質量分析計を用いた血漿中ニンテダニブ濃度分析法の開発とバリデーション		2023年9月	第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム
(演題名) アリピプラゾール口腔内崩壊錠を用いたグミ製剤の開発と服用性評価		2023年9月	第31回DDSカンファランス
(演題名) アリピプラゾール含有グミ製剤の健康成人を対象とした味覚官能試験		2023年6月	第7回日本臨床薬理学会 東海・北陸地方会
(演題名) 小児患者を対象とした院内製剤スルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤含有グミ製剤の開発		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年9月3日	静岡県薬剤師会 令和5年度緩和ケア対応研修会で講義をした。		
2023年8月20日	静岡県薬剤師会 令和5年度臨床対応研修会で講義をした。		

	日本薬学会会員
	日本医療薬学会会員
	日本薬剤学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学	職名 講師	氏名 岸本真治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年～ 2023年度 2019年～ 2023年度	担当する微生物薬品学において講義スライドを配布するとともに講義終了前に内容確認および知識の応用練習を兼ねた小テストを実施した。さらに翌週の講義において小テストの解説を行うことで学生の理解を深めることに努めた。 担当する化学系薬学実習IIにおいては学生のレポートなどから毎年反省点を洗い出し、次年度において反省を生かした内容の調整を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
ヒト病原性アスペルギルスの特異な二次代謝	単著	2023年8月	アグリバイオ, 7, 63-66
Reactive azlactone intermediate drives fungal secondary metabolite cross-pathway generation	共著	2023年1月	J. Am. Chem. Soc., 145, 3221-3228
Isolation of natural prodrug-like metabolite by simulating human prodrug activation in filamentous fungus	共著	2022年4月	Chem. Pharm. Bull., 70, 304-308
Alkaloid biosynthetic enzyme generates diastereomeric pair via two distinct mechanisms	共著	2022年3月	J. Am. Chem. Soc., 144, 5485-5493
Catalytic mechanism and endo-to-exo selectivity reversion of an octalin-forming natural Diels-Alderase	共著	2021年3月	Nat. Catal., 4, 223-232
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
糸状菌 <i>Aspergillus lentulus</i> 由来の新規天然物 lentoclavine の生合成研究		2023年10月	第24回天然薬物の開発と応用シンポジウム
Micro-Tomの毛状根培養を利用したシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A 生合成遺伝子の特定		2023年10月	第24回天然薬物の開発と応用シンポジウム
酵母異種発現系によるシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A 生合成遺伝子の探索		2023年9月	日本生薬学会第69回年会
<i>Aspergillus carbonarius</i> の生産する新規化合物の探索、単離、構造決定		2023年9月	日本生薬学会第69回年会
機械学習を用いたフラビン依存性酸化酵素の機能改変		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2010年～現在	日本薬学会 会員
2016年～現在	日本農芸化学会 会員
2016年～現在	日本生物工学会 会員
2016年～現在	日本生薬学会 会員
2022年9月	第64回天然有機化合物討論会 実行委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬理学分野	職名 准教授	氏名 木村 俊秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する薬理学 I、医療系・生物系薬学実習、科学演習において、教科書に加えて、要点や関係の深い分野(生理学、解剖学等)を網羅したスライドを準備した。スライドはpdfと印刷物として配布した。専門の講義は開始時に試験を行い、翌週その解説を行うことで基礎的な知識レベルを揃えた上で実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) GDP-bound Rab27a regulates clathrin disassembly through HSPA8 after insulin secretion.	共著	2023年11月	Arch. Biochem. Biophys. 749, 109789
(論文) Apigenin Alleviates Endoplasmic Reticulum Stress-Mediated Apoptosis in INS-1 β -Cells.	共著	2023年12月	Biol. Pharm. Bull. 46, 630-635
(論文) Asymmetric dimethylarginine accumulation under hyperglycemia facilitates β -cell apoptosis via inhibiting nitric oxide production.	共著	2024年1月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 637, 108-16
(論文) Harmine suppresses collagen production in hepatic stellate cells by inhibiting DYRK1B.	共著	2024年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun. 600, 136-41
(論文) IRR is involved in glucose-induced endocytosis after insulin secretion.	共著	2024年3月	J. Pharmacol. Sci. 140, 300-4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GDP型Rab27aによるインスリン分泌後のエンドサイトーシス機構の解析		2023年12月	第46回日本分子生物学会年会
(演題名) インスリン分泌後のエンドサイトーシス機構の解析		2023年10月	第96回日本生化学会大会
(演題名) GDP型Gタンパク質シグナリングの解析		2023年10月	第96回日本生化学会大会
(演題名) GDP型Rab27aが制御するエンドサイトーシスメカニズムの解析		2023年10月	第96回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2000年～現在	日本分子生物学会 会員		
2009年～現在	ヨーロッパ糖尿病学会 会員		
2012年～現在	日本生化学会 会員		
2013年～現在	日本薬理学会 新学術評議員		

2013年～現在	日本病態生理学会 評議員
2019年～2023年	日本糖尿病学会 学術評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 身体運動科学分野	職名 准教授	氏名 窪田 辰政
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	身体運動科学の授業では、受講生に各種目における技術習得のみならず、活動を通して、「協力」「信頼」「チームワーク」「人間関係」といった概念を具体的に体験させ、人として生きていく上で必要なライフスキルの獲得、ならびにメンタルヘルスの改善をねらいとした授業展開を心掛けている。ライフスポーツの授業では、学生がこれまでに関わったことのないような学内で経験することのできない複数のスポーツ種目に触れ、それらの基本的技能を習得することを目指すとともに、生涯スポーツへ繋がるきっかけ作りになるよう授業を工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年～ 2023年度	スポーツ指導者・教職員・父兄等を対象に、児童・生徒の自信を育む方法や、メンタルヘルス支援、効果的なリスニング法の仕方について、教育講演を行っている。	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 自己カウンセリングシートの心理的予防効果について - 森田療法式と論理療法式 -	共著	2019年10月	メンタルヘルスの社会学Vol.25
(論文) 授業前10分間リラクゼーション法による身体心理効果について - 体操・自己マッサージ・呼吸法・瞑想法 -	共著	2020年10月	メンタルヘルスの社会学Vol.26
(論文) 中学生における身体運動に伴う負担感に関する研究 - 運動行動の変容ステージ別の検討 -	共著	2022年10月	メンタルヘルスの社会学Vol.28
(論文) 大学体育における未経験者のアーチェリー技術を向上させる心理教育指導	共著	2022年10月	メンタルヘルスの社会学Vol.28
(論文) 大学体育における運動不得手学生のフライングディスク技能を向上させる心理教育指導	共著	2023年10月	メンタルヘルスの社会学Vol.29
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 依存行為と心理特性の関連性について - GMI調査から心理療法の方向性を考える - (共著)		2019年11月	第25回日本精神保健社会学会学術大会
(演題名) いかにして大学体育における未経験者のトランポリン技術を向上させるか - 自己効力理論に基づいた心理教育指導の試み - (共著)		2020年11月	第26回日本精神保健社会学会学術大会

(演題名) 薬学部学生に対する体育実技を通じた健康教育ならびに行動変容理論の学習が運動意図とその背景要因に及ぼす効果 (共著)	2021年9月	日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会
(演題名) 大学生に対する遠隔授業によるストレスマネジメント教育の効果について (共著)	2021年9月	日本体育・スポーツ・健康学会第71回大会
(演題名) TEG II を用いた心理系授業後の心理的变化に関する研究 - オンデマンド方式を通して - (共著)	2021年11月	第27回日本精神保健社会学会学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
1995年9月～現在に至る	日本精神保健社会学会会員 (2003年11月より理事就任)	
1996年9月～現在に至る	日本体育学会会員	
2012年6月～現在に至る	東海学校保健学会会員 (2014年9月より評議員就任)	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 助教	氏名 紅林 佑希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2021年～ 2023年度	担当する糖鎖生物学において、教科書に加えて、要点を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfとして配布した。講義の感想・質問を毎回Webで提出させ、質問に対しては個別でフィードバックを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年2月 2023年11月	微生物学（羊土社）分担執筆 微生物学 改訂第2版（羊土社）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Protein-bound sialic acid in saliva contributes directly to salivary anti-influenza virus activity.	共著	2022年4月	Sci Rep, 12: 6636.
（論文）The antiviral effect of catechins on mumps virus infection.	共著	2021年12月	J Funct Foods, 87: 104817.
（論文）Human parainfluenza virus type 1 regulates cholesterol biosynthesis and establishes quiescent infection in human airway cells.	共著	2021年9月	Plos Pathog, 17: e1009908
（論文）Green tea catechins adsorbed on the murine pharyngeal mucosa reduce influenza A virus infection.	共著	2020年5月	J Funct Foods, 68: 103894.
（論文）Fluorogenic probes for accurate in situ imaging of viral and mammalian sialidases.	共著	2019年5月	ACS Chem Biol, 14: 1195-1204.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）糖鎖生物学を基盤としたノロウイルス感染機構の解明		2023年11月	USフォーラム2023
（演題名）ウイルス特異的蛍光イメージング剤の開発		2023年10月	BioJapan 2023
（演題名）インフルエンザウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年8月	大学見本市2023～イノベーション・ジャパン
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022協力委員		
2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム実行委員		
2023年9月～現在	日本生化学会中部支部幹事		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報分子解析学
職名	教授	氏名	黒川 洵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2016年～ 2023年度	主担当をつとめる薬物療法学1・薬物療法学2・臨床検査学では、ポイントをおさえた学習を促すよう意識したスライドメインの講義を行い、学生の理解度はレポート・小テストで把握し、個別コメントによるフィードバックおよび次の講義での補足説明に結びつけるという、PDCAサイクルを回している。医療系・生物系薬学実習では、動物モデルとシミュレーションを組み合わせ、薬が全身で作用するメカニズムの理解を深めさせた。大学院教育では、海外大学と連携して、COILを実践し、新聞等でも報道された。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017～2023年度 2022年度 2023年度	Quizletアプリを用いた臨床検査用語の学習システム 性差医学・医療研修セミナーe-learning講座資料 神戸薬科大学エクステンションセンター卒後研修講座 e-learning講義資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年12月2日 2021年8月 2020年6月	「品質保証と薬理学教育」JPW2022/日本学術会議 共催公開シンポジウム 「医薬品・食品の品質保証に関する薬学教育の現状と課題」生体機能と創薬シンポジウム2021 「医薬品・食品の品質保証に関する薬学教育の現状と課題」第142回日本薬理学会関東部会
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月28日 2017～2023年度 2019～2023年度 2021年度	日本学術会議（報告）「品質保証に係わるモノからの健康・医療へのアプローチ」 高校大学連携事業 高校出張講義「iPS細胞を用いたクスリづくり」 カリフォルニア大学デービス校とのCOILによるDX教育の実践 日本性差医学・医療学会 認定制度設立のためのクラウドファンディング
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Determination of single-molecule transport activity of OATP2B1 by measuring the number of	共著	2023年11月	J Pharmacol Sci, 153: 153-160
（論文）The effect of a synthetic estrogen, ethinylestradiol, on the hERG block by E-4031.	共著	2021年7月	Biomolecules, 11, 1-12
（論文）A deep learning algorithm to translate and classify cardiac electrophysiology.	共著	2021年1月	Elife 10, e68335
（論文）A computational model of induced pluripotent stem-cell derived cardiomyocytes for high throughput	共著	2020年2月	PLoS Comput Biol, 16, e1008109
（総説）検査値・薬物動態での性差	共著	2024年1月	月刊薬事. 66: 297-301
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Pathophysiological roles of a macromolecular complex of cardiac KCNQ1 channel		2023年10月	ACT NOW symposium (Busan, South Korea)
（演題名）iPS細胞を用いた薬物誘発性不整脈の病態解析		2023年6月	第8回日本心血管協会 (JCVA) 学術集会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年～現在	日本学術会議 連携会員 医療系薬学分科会 第25-26期幹事		

2023年～現在	日本学術会議 連携会員 基礎医学委員会IUPHAR分科会 第25-26期幹事
2022年～現在	日本薬理学会 理事
2017年～現在	日本循環薬理学会 幹事
2022年～現在	日本性差医学・医療学会 理事 広報委員長

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬生命化学分野	職名 准教授	氏名 小出 裕之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2014年～ 2023年度	担当する生物化学Ⅰ、生物学入門、放射科学において、教科書に加えて、要点や関連情報（時事ニュース等）、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Increasing the siRNA knockdown efficiency of lipid nanoparticles by morphological transformation with the use of dihydrosphingomyelin as a helper lipid	共著	2023年5月	Biomater Sci, 11, 3269-3277
（論文）Cooling-induced, localized release of cytotoxic peptides from engineered polymer nanoparticles in living mice for cancer therapy.	共著	2023年3月	J Control Release, 355,745-759
（論文）Easy preparation of a liposome-mediated protein delivery system by freeze-thawing a liposome-	共著	2022年9月	J Mater Chem B, 10, 6768-6776
（論文）Synthetic hydrogel nanoparticles for sepsis therapy.	共著	2021年9月	Nature Communications, 12, 5552
（論文）Influence of purification process on the function of synthetic polymer nanoparticles.	共著	2021年3月	Chem Pharm Bull, 69, 773-780
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）消化管で標的分子を吸着するナノ掃除機の開発		2022年3月	第2回BVAバイオインターフェース
（演題名）生体内で標的分子を吸着する多官能性ナノ粒子製剤の開発と疾患治療への応用		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
（演題名）凍結融解技術を駆使した核酸・タンパク質送達方法の開発		2022年6月	第38回日本DDS学会学術集会
（演題名）血液中で標的分子を中和するポリマーリガンド修飾リポソームの開発		2022年9月	第71回高分子討論会
（演題名）敗血症治療を可能とする合成高分子ナノ粒子開発		2022年11月	第17回ナノ・バイオメディカル学会大会
（演題名）温度に応答して標的ペプチドを吸着・放出する合成高分子ナノ粒子の開発とがん治療応用		2021年9月	第70回高分子討論会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年9月～現在	日本DDS学会 代議員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生体情報分子解析学	職名 助教	氏名 児玉 昌美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年度	医療系・生物系薬学実習、事前実務実習では、実験操作のみならず、学術的な背景や原理についても説明し、実習内容をより深く理解できるよう努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A potent and selective cis-amide inhibitor of ryanodine receptor 2 as a candidate for cardiac	共著	2023年12月	Eur J Med Chem.15:262:115910
(論文) Screening for novel RyR2 inhibitors by ER Ca ²⁺ monitoring.	共著	2023年12月	Mol Pharmacol.104(6):275-286.
(論文) Molecular basis for gating of cardiac ryanodine receptor explains the mechanisms for gain-	共著	2022年5月	Nat Commun. 20;13(1):2821.
(論文) Systematic expression analysis of genes related to generation of action potentials in human iPS	共著	2019年8月	J Pharmacol Sci. 140(4):325-330.
(総説) 検査値・薬物動態での性差	共著	2024年1月	月間薬事, 66(2), 297-301
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カテコラミン誘発性多型性心室頻拍(CPVT)モデルマウスの不整脈に対する新規RyR2特異的阻害薬の効果		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
(演題名) Cryo-EMIによる立体構造から明らかになったGCa6受容体の基質識別機構		2023年10月	第96回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年～現在	日本薬理学会会員		
2016年～現在	日本生理学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品化学分野	職名 准教授	氏名 小西 英之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年	主任担当の有機化学Ⅴ（2019年度）および医薬化学（2020年度以降）では穴埋め式の独自のプリント教材を事前に配布し、講義を聞いて書き込むとノートとして使えるように工夫した。また、学修事項の定着を目的に講義ごとに小テストと質問収集のためのコメントシートに記入してもらい、次回講義の冒頭で質問に対する回答を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月 2020年12月	独自のプリント教材 遠隔講義用のオンデマンド動画教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年9月	薬学教育協議会主催の第15回有機化学系教科担当教員会議において、第8回次世代シンポジウム運営委員会で議論された化学系若手教員による意見や提言をまとめ、「薬学の若手研究者の今後、あるべき姿と将来、薬学部の教育・研究・危機管理について」という演題で講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2022年3月	化学ポータルサイト「Chem-Station」内の「有機化学実験基礎講座」動画コンテンツとして、研究室内で作成・利用していた実験教育動画を15本提供した。 (https://www.chem-station.com/blog/2022/04/ocl.html)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）気体分子等価体を用いる触媒的有機合成反応の開発	単著	2022年10月	有機合成化学協会誌, 80, 911-921.
（論文）Synthesis of Symmetrical Sulfides Enabled by a Sulfur Dioxide Surrogate Acting as a Divalent Sulfur Source	共著	2022年5月	Org. Lett. 24, 3663-3667.
（論文）Palladium-catalyzed external-CO-free reductive carbonylation of aryl sulfonates	共著	2020年10月	Tetrahedron, 76, 131639.
（論文）Discussion Addendum for: Pd-Catalyzed External-CO-Free Carbonylation: Preparation of 2,4,6-Trichlorophenyl 3,4-Dihydronaphthalene-2-Carboxylate	共著	2020年7月	Org. Synth. 97, 125-138.
（論文）Palladium-catalyzed One-step Synthesis of Symmetrical Diaryl Sulfones from Aryl Halides and a Sulfur Dioxide Surrogate	共著	2019年5月	Chem. Lett. 48, 760-763.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）二酸化硫黄等価体を用いるスルフィド合成（依頼講演）		2023年11月	第54回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
（演題名）二酸化硫黄等価体とブロモアレーンを用いるスルフィド合成法の開発		2023年11月	第54回中部化学関係学協会支部連合秋季大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年3月～2023年5月		次世代を担う有機化学シンポジウム世話人	

2020年5月～2021年5月	第19回次世代を担う有機化学シンポジウム実行委員長
2021年4月～2022年3月	日本薬学会化学系薬学部会シンポジウム委員
2021年9月～2022年5月	新型コロナウイルスワクチン職域接種薬剤師
2021年12月～2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022実行委員 (庶務)

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創剤科学分野	職名 教授	氏名 近藤 啓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する物理化学III、製剤学、創剤工学、医薬品製造開発論において、講義内容に関する教科書の該当箇所を明らかにすることに加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfおよび印刷物として配布した。毎回演習問題を課し、翌週その解答例を開示することで講義内容の理解を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年3月30日	臨床製剤学（改訂第5版）（南江堂）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Drug extended-release system utilizing micelle formation of highly water-soluble drugs and a counter polymer.	共著	2023年11月13日	Mol Pharm. 20: 6056-6065.
（論文）Effect of liquid paraffin on the characteristics of pressure-sensitive adhesives applied to medical tape formulations.	共著	2023年8月	J Pharm Inno. 18: 2110-2119.
（論文）A new approach for characterizing the thixotropic properties of gel formulations as sprayable agents based on rheological analysis.	共著	2022年4月	AAPS PharmSciTech. 23: 119.
（論文）Testosterone sustained release microspheres for the treatment of fecal incontinence.	共著	2022年3月	J Pharm Sci. 111: 2322-2329.
（論文）Characterization of the viscoelasticity of disintegrants by dynamic rheological analysis.	共著	2021年7月	Powder Technol. 392: 150-156.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）クルクミンとHPCからなる固体分散体の溶出性に及ぼすシヨ糖脂肪酸エステルの影響		2023年12月	第21回日本機能性食品医薬用学会総会
（演題名）HPMCASがナノファイバーシートからの非晶質薬物の放出制御と非晶質安定性におよぼす影響		2023年11月	日本薬学会東海支部合同学術大会2023
（演題名）Effects of in vivo distribution kinetics and intrapancreatic islet distribution of lipid nanoparticles by their phospholipid components and particle size		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
（演題名）マイクロ流体デバイス法により調製したDOPCナノ粒子の形態に及ぼすコレステロール含量・PEG修飾の影響		2023年7月	第39回日本DDS学会学術集会
（演題名）粉体物性評価における動的粘弾性測定の実用		2023年7月	第69回日本薬学会東海支部総会・大会
（演題名）消化管粘膜付着性ナノファイバーシートによるBCS Class III化合物の吸収性改善		2023年5月	日本製剤学会第38年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			

2018年5月～現在	静岡DDS研究会幹事
2019年4月～現在	日本医薬品添加剤協会 医薬品添加剤セミナー実行委員
2020年5月～現在	日本薬剤学会 代議員
2021年3月～現在	日本薬学会 代議員（東海支部）
2021年8月～現在	薬学共用試験センター 総務委員会委員
2022年4月～現在	常葉大学利益相反委員会外部有識者
2022年4月～現在	日本薬剤学会 製剤技術伝承委員会委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学分野
職名	助教	氏名	近藤 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2023年～ 2023年度	担当する化学系薬学実習において、詳細な実験操作や試薬の説明を行い、安全かつ円滑に実験が進められるように実験補助を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
	(論文) Light-controlled pKa value of chiral Brønsted acid catalysts in enantioselective aza-Friedel-Crafts reaction	共著	2023年7月
	(論文) Bayesian optimization-assisted screening to identify improved reaction conditions for spiro-dithiolane synthesis	共著	2023年7月
	(論文) Electrochemical synthesis of hetero[7]helicenes containing pyrrole and furan rings via an oxidative heterocoupling and dehydrative cyclization sequence	共著	2022年7月
	(論文) Catalysis of surface dispersed Cu ²⁺ species on t-ZrO ₂ : square-planar Cu catalyzed cross-coupling of arylboronic acid and imidazole	共著	2021年3月
2.	学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月
	(演題名) アゾカップリング/分子内環化反応による5-ヒドロキシ-2H-インダゾールのワンポット合成		2023年8月
	(演題名) キラルな光応答型スチルベン-クラウンエーテル触媒の開発		2023年6月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			Chem. Commun., 59, 9956-9959
			Molecules, 28, 5180
			Adv. Synth. Catal., 365, 373-380.
			Catal. Sci. Technol., 13, 2247-2254
			学会名
			日本プロセス化学会2023サマーシンポジウム
			第20回 ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2012年～現在	日本化学会 正会員		
2016年～現在	有機合成化学協会 正会員		
2020年10月	第10回GSJ化学フェスタ2022 ポスター審査員		
2021年10月	第11回GSJ化学フェスタ2022 ポスター審査員		
2022年10月	第12回GSJ化学フェスタ2022 ポスター審査員		
2023年～現在	日本薬学会 正会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報分子解析学
職名	准教授	氏名	坂本 多穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～ 2023年度	担当する臨床検査学、薬物療法学I、II講義では、教科書に加えて、要点や関連情報を記載した講義資料をpdfととして配布した。講義動画を作成し、繰り返し講義内容を予習復習できるようにした。医療系・生物系薬学実習、医用工学実習、事前実務実習において、詳細な実験操作や背景・原理の説明を行い、安全かつ円滑に実験が進められるように指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2024年3月	コメディカルのための薬理学(朝倉書店)分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年8月	「薬理学シミュレーター教育の導入とオンライン教育への融合」生体機能と創薬シンポジウム2022
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年12月	「いのちの本質を理解するために」大学への数学 巻頭言(東京出版)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Determination of single-molecule transport activity of OATP2B1 by measuring the number of transporter molecules using electrophysiological approach	共著	2023年11月	J Pharmacol Sci. 153(3):153-160.
(論文) C188-9, a specific inhibitor of STAT3 signaling, prevents thermal burn-induced skeletal muscle wasting in mice	共著	2022年12月	Front Pharmacol. 13:1031906.
(論文) A deep learning algorithm to translate and classify cardiac electrophysiology	共著	2021年7月	eLife. 10:e68335.
(論文) Opening of Intermediate Conductance Ca ²⁺ -Activated K ⁺ Channels in C2C12 Skeletal Muscle Cells Increases the Myotube Diameter via the Akt/Mammalian Target of Rapamycin Pathway	共著	2021年3月	J Pharmacol Exp Ther. 376(3):454-462.
(論文) TAK-242, a specific inhibitor of Toll-like receptor 4 signalling, prevents endotoxemia-induced skeletal muscle wasting in mice	共著	2020年1月	Sci Rep.10(1):694.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 「薬物腎排泄における性差の分子基盤」シンポジウム発表		2023年6月	第50回日本毒性学会年会
(演題名) 「敗血症骨格筋障害解析を通じた全身性炎症性差の解明」シンポジウム発表		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2009年1月～現在	日本薬理学会評議員
2018年1月～現在	トランスポーター研究会世話人
2018年3月～現在	日本薬学会薬理系部会 若手世話人
2020年1月～現在	日本性差医学医療学会 評議員・広報委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 准教授	氏名 佐藤 秀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、授業で概要を解説する。また教科書や配布資料中で重要なポイントを再度確認し、演習問題等を通じて学生の理解と知識の定着を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Stabilized Astaxanthin Nanoparticles Developed Using Flash Nanoprecipitation to Improve Oral Bioavailability and Hepatoprotective Effects.	共著	2023年10月	Pharmaceutics, 31;15(11):2562
(論文) Recent Advancements in the Development of Nanocarriers for Mucosal Drug Delivery Systems to Control Oral Absorption.	共著	2023年11月	Pharmaceutics, 30;15(12):2708
(論文) Development of stabilized fuzapladib solution for injection: forced degradation study and pharmacokinetic evaluation.	共著	2022年6月	Pharm Dev Technol, 27(5):565-571
(論文) Development of Poly(lipoic acid) Nanoparticles with Improved Oral Bioavailability and Hepatoprotective Effects of Quercetin.	共著	2022年5月	Mol Pharm, 2;19(5):1468- 1476.
(論文) Design and Characterizations of Inhalable Poly(lactic- co-glycolic acid) Microspheres Prepared by the Fine Droplet Drying Process for a Sustained Effect of Salmon Calcitonin.	共著	2020年3月	Molecules, 13;25(6):1311
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		2023年10月	学会名
(演題名) Dexamethasone-loaded colon-targeting UniORV® with improved anti-inflammatory effects and reduced risks of systemic side effects		2023年11月	AAPS PharmSci 360 2023
(演題名) Development of poly(lipoic acid)-based nanoparticles to improve oral bioavailability and hepatoprotective effects of quercetin		2022年6月	Asian Federation for Pharmaceutical Sciences 2023
(演題名) ナノ粒子設計を基盤とした吸入製剤開発		2022年5月	第14回 粉末吸入製剤研究会 シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース		
2019年4月～現在	静岡 DDS 研究会 事務局		

2022年4月～現在	日本薬剤学会 経口吸収フォーカスグループ 広報
2022年4月～現在	日本薬剤学会 代議員
2022年4月～現在	日本薬剤学会 英語セミナー委員
2023年10月～現在	第39年会 日本薬剤学会 組織委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学分野	職名 教授	氏名 佐藤 道大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する微生物薬品学、生薬学において、教科書だけでなく、適宜学術雑誌からの最新情報を記載したスライドを作成し、講義を行った。すべての担当講義について、学生による授業評価を受けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年2月	Comprehensive Natural Products III: Chemistry and Biology, Wiley, 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Uncommon arrangement of self-resistance allows biosynthesis of de novo purine biosynthesis inhibitor that acts as immunosuppressor.	共著	2023年12月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 2023, 145, 26883–26889.
（論文）Association between physical activity and the prevalence of tumorigenic bacteria in the gut microbiota of Japanese adults: a cross-sectional study.	共著	2023年11月	<i>Sci. Rep.</i> , 13: 20841.
（論文）Biosynthesis of polycyclic natural products from conjugated polyenes via tandem isomerization and pericyclic reactions.	共著	2023年6月	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 2023, 145, 13520–13525.
（著書）抗生物質生産菌が持つ自己耐性酵素の機能解明	共著	2023年8月	酵素工学会誌, 89, 27-30
（論文）Non-target GC-MS analyses of fecal VOCs in NASH- hepatocellular carcinoma model STAM mice.	共著	2023年6月	<i>Sci. Rep.</i> , 13: 8924.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Cytochrome P450 for creation of dimerized diketopiperazines		2023年1月	International Conference on NATURAL PRODUCT DISCOVERY and DEVELOPMENT in the Genomic Era
（演題名）Biosynthetic study on natural products from actinomycetes through an OSMAC method		2023年3月	日本農芸化学会2023年度大会
（演題名）Furocoumarin系化合物1とDHODHの相互作用に関する研究		2023年3月	日本薬学会 第143年会
（演題名）糸状菌由来oxaleimide類生合成経路の解明		2023年10月	第24回天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）含窒素三環性化合物 FR901483 の生合成および生産菌における自己耐性機構		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
（演題名）シトクロムP450による二量化ジケトピペラジンの創製研究		2023年9月	日本農芸化学会 中部・関西合同大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2022年1月～現在	南アルプス学会運営委員
2022年9月	第64回天然有機化合物討論会実行委員
2008年4月～現在	日本農芸化学会
2011年12月～現在	日本薬学会
2017年6月～現在	日本生薬学会
2021年4月～現在	日本生物工学会

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	創薬探索センター
職名	准教授	氏名	澤田潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当科目（創薬探索学特論）において、独自作成したスライドを用いて講義を行った。スライドはPDFファイルとしてイントラネットで事前配付した。創薬研究と生命倫理の関連性について触れ、学習の動機付けを行った。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年～ 2023年度	創薬探索学特論で使用する、抗がん剤創薬の歴史および最新の創薬手法についてまとめた講義資料を作成し、毎年更新している。化学系薬学実習I/IIで使用する実習書（創薬探索センター実習担当部分担）を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）
	（論文）Crystal structure of the motor domain of centromere-associated protein E in complex with a non-hydrolysable ATP analogue.	共著	発行所、発表雑誌（巻・ 号数）等の名称
	（論文）Various effects of two types of kinesin-5 inhibitors on mitosis and cell proliferation.	共著	2023年2月
	（論文）Design, synthesis, and evaluation of a novel prodrug, a S-trityl-L-cysteine derivative targeting kinesin spindle protein.	共著	FEBS Letters, 597, 1138–1148
	（論文）Structure and comparison of the motor domain of centromere-associated protein E.	共著	2021年11月
	（論文）Selective inhibition of spindle microtubules by a tubulin-binding quinazoline derivative.	共著	Biochem Pharmacol., 193, 114789
	2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月
	（演題名）紡錘体形成時における染色体整列を阻害する低分子化合物の作用機序解析		学会名
	（演題名）紡錘体形成における染色体整列を阻害する低分子化合物の同定		2023年5月
			日本ケミカルバイオロジー学会第17回年会
			2023年3月
			日本薬学会第143回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
22年5月～22年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022実行委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 衛生分子毒性学分野	職名 講師	氏名 志津 怜太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年度	担当する衛生薬学Ⅱ、生物学入門において、教科書に加えて、要点や関連情報（官公庁資料、時事ニュース等）を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。スライドだけでなく、官公庁や米国NIH等が公開する動画を講義に使用した。毎回確認問題を提示、解説を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Interaction with YAP underlies the species differences between humans and rodents in CAR-	共著	2024年1月	Toxicol Sci, in press
（論文）Phosphorylation of Nuclear Receptors: Novelty and Therapeutic Implications	共著	2023年7月	Pharm Ther, 248: 108477
（論文）Development of a strategy to identify and evaluate direct and indirect activators of constitutive	共著	2022年12月	Food Chem Toxicol. 170: 113510.
（論文）Helix 12 stabilization contributes to basal transcriptional activity of PXR	共著	2021年9月	J Biol Chem, 297: 100978.
（論文）Nuclear receptor CAR-mediated liver cancer and its species differences	共著	2020年4月	Expert Opin Drug Metab Toxicol, 16: 343-351.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Phosphorylation of Nuclear Receptor; Common Molecular Basis for Activation		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会 第23回シトクロムP450国際会議国際合同大会
Understanding the molecular mechanisms that cause species differences in CAR-dependent liver cancer promotion		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会 第23回シトクロムP450国際会議国際合同大会
核内受容体に注目した化学物質による毒性発現機構の理解と評価系の構		2023年9月	フォーラム2023衛生薬学環境トキシコロジー
核内受容体CARのYAP結合部位に変異を導入したマウスを用いたCAR依存肝細胞増殖誘導機構の解析		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2022年11月	日本動物実験代替法学会第35回大会 大会事務局		
2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会第23回シトクロムP450国際会議国際合同大会 実行委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生体情報分子解析学
職名	助教	氏名	清水 聡史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2022年～ 2023年度	担当する医療系・生物系薬学実習・医用工学実習・事前実務実習において、詳細な実験操作や背景・原理の説明を行い、安全かつ円滑に実験が進められるように実験補助を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 6-Shogaol, an Active Component of Ginger, Inhibits p300 Histone Acetyltransferase Activity and	共著	2023年5月	Nutrients. 15: 2232.
(論文) Auraptene, a Citrus Peel-derived Natural Product, Prevents Myocardial Infarction-Induced Heart	共著	2022年12月	Phytomedicine. 107:154457.
(論文) ANGPTL4 Expression Is Increased in Epicardial Adipose Tissue of Patients with Coronary	共著	2022年4月	J Clin Med. 2022 : 11:2449.
(論文) <i>Ecklonia stolonifera</i> Okamura Extract Suppresses Myocardial Infarction-Induced Left	共著	2022年1月	Nutrients. 2022 :14:580.
(論文) Multimerization of the GATA4 transcription factor regulates transcriptional activity and	共著	2022年1月	Int J Biol Sci. 2022 :18:1079-1095.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 腎臓膜輸送体の性染色体・性ホルモンの影響を区別した網羅的性差解析		2023年10月	生理研研究会「炎症・免疫系と心血管系の相互作用から切り拓く循環生理機能の解析」
(演題名) 薬物動態に関わる腎機能の詳細な性差形成メカニズムの解明		2024年1月	第33回日本循環薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年～現在	日本薬学会 会員		
2016年～現在	日本薬理学会 会員		
2017年～現在	日本循環薬理学会 会員		
2022年～現在	日本生化学会 会員		
2022年～現在	日本バイオインフォマティクス学会 会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生体機能分子分析学	職名 助教	氏名 杉山 栄二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する薬品分析学、医薬品製造開発論、自然科学概論において、教科書に加えて、関連する時事ニュース等を記載したスライドや関連動画を用いて講義を行った。スライドはpdfとして講義前日まで配布した。毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年～ 2023年度	左記期間において、所属講座で直接指導した学生が関連学会より24件の優秀論文賞(2件)および優秀発表賞(22件)を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Charged chiral derivatization for enantioselective imaging of D-,L-2-hydroxyglutaric acid using ion mobility spectrometry/mass spectrometry.	共著	2023年9月	Chem Commun (Camb), 59:10916-10919.
(論文) Simultaneous determination of all aminobutyric acids by chiral derivatization and liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2023年4月	Anal Sci, 39: 463-472.
(論文) Precolumn derivatization LC/MS method for observation of efficient hydrogen sulfide supply to the kidney via D-cysteine degradation pathway.	共著	2023年1月	J Pharm Biomed Anal, 222: 115088.
(論文) Rapid chiral discrimination of oncometabolite dl-2-hydroxyglutaric acid using derivatization and field asymmetric waveform ion mobility spectrometry/mass spectrometry	共著	2021年9月	J Sep Sci, 44: 3489-3496.
(論文) Detection of a High-Turnover Serotonin Circuit in the Mouse Brain Using Mass Spectrometry Imaging	共著	2019年10月	iScience, 20: 359-372.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 細胞や組織における局所代謝解析に有用な質量分析イメージング関連技術の開発		2023年7月	第35回バイオメディカル分析化学シンポジウム
(演題名) キラル誘導体化イオン移動度質量分析によるD-, L-セリンのエナンチオ選択的イメージング法の開発		2023年7月	第35回バイオメディカル分析化学シンポジウム
(演題名) イオン移動度質量分析によるD-, L-セリンのエナンチオ選択的イメージングに適した新規キラル誘導体化法の開発		2023年7月	第69回日本薬学会東海支部総会・大会
(演題名) アミノ酪酸全異性体の定量とイメージングに有用な高効率分離法の開発		2023年5月	第83回分析化学討論会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年12月～2022年12月	新アミノ酸分析研究会 事務局		
2022年3月～現在	日本分析化学会 英文誌 (Analytical Sciences) Associate Editor		

2023年4月～現在	新アミノ酸分析研究会監事
2019年10月	2019年度日本分析化学会中部支部静岡地区講演会 実行委員
2020年11月	第31回クロマトグラフィー科学会議 実行委員
2021年12月	新アミノ酸分析研究会第11回学術講演会 実行委員
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022実行委員
2022年11月	分析中部・ゆめ21 若手交流会・第22回高山フォーラム 実行委員
2022年12月	新アミノ酸分析研究会第12回学術講演会 実行委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 統合生理学分野	職名 助教	氏名 鈴木 美希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する生物系薬学実習Iにおいて、学生1人1人が実験を行った上でデータを解析し考察できるよう内容を編成した。また、学生が実験手技を細部まで何度も確認できるように、実習書に加えて実験手技や原理の説明動画をウェブ上に配信し、実習を実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.	共著	2022年12月	Life science alliance, 6 (2): e202201783.
(論文) Metallothionein synthesis increased by Ninjinyoei-to, a Kampo medicine protects neuronal death and memory loss after exposure to amyloid β_{1-42} .	共著	2022年12月	J Pharm Health Care Sci., 8 (1): 26.
(論文) Corticosteroid receptor-mediated synaptic Zn^{2+} dynamics in the hippocampus and its significance.	共著	2021年10月	Metallomics Research, 1: 22-30.
(論文) CA1 LTP attenuated by corticosterone is canceled by effusol via rescuing intracellular Zn^{2+} dysregulation.	共著	2019年10月	Cellular And Molecular Neurobiology 39: 975-983.
(論文) Rapid intracellular Zn^{2+} dysregulation via membrane corticosteroid receptor activation affects in vivo CA1 LTP.	共著	2019年2月	Molecular Neurobiology 56: 1356-1365.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 6-OHDAによるドパミン神経細胞死に対する機械受容イオンチャネル群の関与		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
(演題名) 筋衛星細胞における機械受容イオンチャネルTRPP2の役割解明		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
(演題名) 海馬LTP誘導に対するノルアドレナリンおよびグルココルチコイドの協調作用と亜鉛イオンの関与		2023年10月	第70回中部日本生理学会
(演題名) リン脂質フリップ・フロップによる冷温感受性イオンチャネルTRPM8の活性制御		2023年6月	第65回日本脂質生化学会
(演題名) AMPA誘発黒質ドパミン作動性神経細胞死に対するミトコンドリア由来活性酸素種の関与		2023年3月	日本生理学会第100回記念大会

(演題名) ノルアドレナリンおよびグルココルチコイド共存下での海馬亜鉛イオンによるLTPの促進	2023年3月	日本生理学会第100回記念大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2015年1月～現在	日本薬学会 会員	
2018年2月～現在	Society for Neuroscience, member	
2019年4月～現在	静岡県立大学短期大学部 非常勤講師（生理学）	
2021年10月～2022年5月	静岡県 健康福祉部感染症対策局 薬剤師（ワクチン充填）	
2022年11月～現在	日本生理学会 会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学分野	職名 講師	氏名 砂川 陽一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年～ 2023年度	担当する疾患学Iでは、教科書に加え、要点をまとめたスライドを用いて講義を行った。スライドはキーワードを書き込む形式とし、PDFにて配布した。毎回確認問題を課すことで授業理解度を確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Myogenetic Oligodeoxynucleotide Induces Myocardial Differentiation of Murine Pluripotent Stem Cells	共著	2023年9月	Internal Journal of Molecular Sciences. 24(18): 14380.
(論文) MEF2C/p300-mediated epigenetic remodeling promotes the maturation of induced cardiomyocytes	共著	2023年7月	Stem Cell Reports, 18(6): 1274-1283.
(論文) Monodemethylated Metabolites of Orally Administered Nobiletin: Identification and Quantitation in Rat Plasma and Tissues	共著	2023年7月	J Agric Food Chem, 71(26): 10028-10036.
(論文) 6-Shogaol, an Active Component of Ginger, Inhibits p300 Histone Acetyltransferase Activity and Attenuates the Development of Pressure-Overload-Induced Heart Failure	共著	2023年5月	Nutrients. 15(9): 2232.
(論文) Auraptene, a Citrus Peel-derived Natural Product, Prevents Myocardial Infarction-Induced Heart Failure by Activating PPAR α in Rats	共著	2023年12月	Phytomedicine. 107:154457.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) シソエキスが有する心保護効果		2023年12月	第27回日本統合医療学会学術大会
(演題名) 高吸収性製剤を用いたNobiletin及び代謝物の血中・組織分布量解析		2023年11月	ノビレチン研究会第7回学術研究会
(演題名) 心筋特異的 p300BP1 ノックアウトマウスは圧負荷による心筋肥大・左室心機能の低下を抑制した		2023年6月	第8回日本心血管協会(JCVA)学術集会
(演題名) p300-HAT 活性及び心筋肥大に対するイミダゾールペプチドアンセリン的作用		2023年6月	第8回日本心血管協会(JCVA)学術集会
(演題名) Anserine, an Imidazole Dipeptide, Suppressed Pressure-overload Induced Cardiac Hypertrophy through the Regulation of p300-HAT Activity		2023年3月	第87回日本循環器学会学術集会

(演題名) Novel p300 Binding Protein 1 is Required for Hypertrophic and Fibrotic Responses in Cardiomyocytes and Cardiofibroblasts	2023年3月	第87回日本循環器学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2007年～現在	日本循環器学会 会員	
2015年～現在	日本心血管協会 会員	
2011年～現在	日本薬学会 会員	
2016年～現在	日本薬理学会 会員	
2019年～現在	日本栄養・食糧学会 会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生化学分野
職名	准教授	氏名	高橋 忠伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年4月～ 2023年4月	担当する生物化学III、生物化学IV、微生物学、薬理学IVにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（新薬の紹介、時事ニュース等）、を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回、自作の確認問題を提示し、翌週にその正答・解説を配布した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年 2021年	糖鎖生物学 生命現象と糖鎖情報（名古屋大学出版会）、分担執筆 微生物学 病原微生物と治療薬改定 第8版（南江堂）、分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年7月 2020年7月 2020年7月 2021年5月 2021年6月 2021年11月	私の一冊の本「科研費獲得の方法とコツ」についての紹介および考えたことを静岡県立大学広報誌「はばたき」No. 139に掲載した。 コロナ後の世界 大学SDGs企画として、「コロナウイルスの理解と新型コロナウイルスの治療薬、取るべき対策について」のウェブエッセイを静岡県立大学ホームページに掲載した。 コロナ後の世界 大学SDGs企画として、「コロナウイルスの理解と新型コロナウイルスの治療薬、取るべき対策について」の公開講義を静岡県立大学公式Youtubeチャンネルに掲載した。 静岡県内高齢者の生涯学習学級として、「ウイルスのお話 インフルエンザウイルスと新型コロナウイルス」のテーマで静岡市西奈生涯学習センターで講演した。 こんな研究をして世界を変えよう「インフルエンザの新しい感染メカニズムを見つける！ 簡単ウイルス検出法を開発」を学校法人河合塾 みらいぶプラス・みらいぶつくホームページに掲載した。 日本医療研究開発機構（AMED）の創薬シーズ実用化支援基盤整備事業 感染症の創薬に関する勉強会にて、インフルエンザウイルス酵素の蛍光イメージング剤の開発と応用、感染症分野の創薬支援等について講演した。
4	その他教育活動上特記すべき事項	2019年4月～ 2023年4月	毎年1回、4月開催の本学全学部向む「バイオハザード実験センター利用者講習会」で、感染症（病原微生物）の関連法規と本学で使用可能な病原微生物について、講習会参加者（毎年100名程度）に講義した。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文） Visualizing intracellular sialidase activity of influenza A virus neuraminidase using a fluorescence imaging probe.	共著	2023年10月	J Virol Methods 323, 114838
（論文） Assay of Functional analysis of sulphatide in influenza A virus infection and replication.	共著	2022年5月	Methods Mol Biol 2556, 97-122
（論文） Live imaging of virus-infected cells by using a sialidase fluorogenic probe.	共著	2021年12月	Methods Mol Biol 2274, 141-154
（論文） The antiviral effect of catechins on mumps virus infection.	共著	2021年10月	J Funct Foods 87, 104817
（論文） Fluorogenic probes for accurate in situ imaging of viral and mammalian sialidases.	共著	2019年6月	ACS Chem Biol 14 (6), 1195-1204
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） ウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年5月	木原記念横浜生命科学振興財団 バイオベンチャーアライアンス（BVA）創薬研究会
（演題名） ウイルス特異的シアリダーゼ蛍光イメージング剤の開発		2023年7月	三大学合同ミーティング
（演題名） インフルエンザウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年8月	JST イノベーションジャパン 大学見本市2023
（演題名） 新規おたふくかぜ予防・治療剤		2023年8月	JST イノベーションジャパン 大学見本市2023
（演題名） 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の原因ウイルスに直接作用する抗ウイルス剤の研究開発 -ウイルス種の異なるシアリダーゼを特異的に蛍光イメージングできるプローブ技術を用いた感染阻害／増殖阻害薬の創製		2023年8月	12th DSANJ Digital Bio Conference 2023
（演題名） ウイルス特異的蛍光イメージング剤		2023年10月	BioJapan2023
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年4月～現在	静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会） 代議員		
2019年8月	第38回日本糖質学会年会 Advisory Borad		
2019年8月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2019年9月	第18回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム2019 実行委員		
2019年12月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2020年12月	The Dutch Research Council (NWO) The Vidi grant 審査員		
2021年6月	日本薬学会誌Biol Pharm Bull 論文審査員		
2022年1月	日本糖質学会誌Trends Glycosci Glycotechnol 論文審査員		
2022年1月	学術誌Talanta 論文審査員		
2022年5月	学術誌Talanta 論文審査員		
2022年7月	学術誌Glycobiology 論文審査員		

2022年9月	Sialoglyco2022 Domestic organizer, Session chair
2022年11月	薬学会東海支部 合同学術大会2022 実行委員
2022年11月	学術誌Glycobiology 論文審査員
2023年1月	学術誌Glycobiology 論文審査員
2023年1月	学術誌Glycobiology 論文審査員
2023年1月	学術誌Glycoconj J 論文審査員
2023年6月	学術誌Virol J 論文審査員
2023年6月	学術誌Glycoconj J 論文審査員
2023年8月	学術誌Glycobiology 論文審査員
2023年8月	学術誌Virus Res 論文審査員
2023年9月	糖鎖科学東海拠点 若手のカフォーラム 実行委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品製造化学分野	職名 教授	氏名 滝田 良
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022年度～2023	担当している化学系薬学実習IIにおいて、保護メガネ・保護手袋の着用など、特に安全面において一層の対策を行なった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年6月	マクマリー有機化学 生体反応へのアプローチ第3版 (東京化学同人) 分担翻訳
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key Compound in Oceanic Harmful Algal Blooms	共著	2023年2月	Organic Biomolecular Chemistry 21: 1653-1656.
(論文) Base-induced dehydrogenative and dearomative transformation of 1-naphthylmethylamines to 1,4-dihydronaphthalene-1-carbonitriles	共著	2022年12月	JACS Au 2: 2758-2764.
(論文) Controlled Tetradeuteration of Straight-Chain Fatty Acids: Synthesis, Application, and Insight into the Metabolism of Oxidized Linoleic Acid	共著	2022年5月	Angewandte Chemie International Edition, 61: e202202779.
(論文) Mechanistic Details of Asymmetric Bromocyclization with BINAP Monoxide: Identification of Chiral Proton-Bridged Bisphosphine Oxide Complex and Its Application to Parallel Kinetic Resolution	共著	2022年2月	Journal of the American Chemical Society, 144: 3913-3924.
(論文) Hydromagnesiation of 1,3-enynes by magnesium hydride for synthesis of tri- and tetra-substituted allenes	共著	2021年1月	Angewandte Chemie International Edition, 60: 217-221.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 元素・結合・反応場の特性を活用する反応開発と分子機能		2023年8月	第57回有機反応若手の会
(演題名) トリオキサトリアンギュレン誘導体への可視光照射によるヘテロ元素ラジカル種の生成		2023年9月	第39回有機合成化学セミナー
(演題名) ヘテロ芳香族化合物の位置選択的 direct 官能基化反応		2023年11月	第43回反応と合成の進歩シンポジウム

(演題名) 脂肪酸の選択的重水素化プロセスの開発と脂質・脂肪酸の代謝解析への応用	2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
(演題名)		
(演題名)		
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2015年4月～現在	文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター専門調査員	
	日本薬学会 正会員	
	日本化学会 正会員 (2018年度日本化学会代議員)	
	有機合成化学協会 正会員	
	高分子学会 正会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 教授	氏名 竹内英之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年～ 2023年度	担当する生物化学III、生物化学IVにおいて、教科書に加えて、要点をまとめたpdfファイルを作成して配布し講義を行った。講義に対する感想を毎回Webで提出させ、個別にフィードバックするだけでなく、次回の講義で全体で共有することにより、履修者の自発的な学修意欲向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年	糖鎖生物学 生命現象と糖鎖情報（名古屋大学出版会）、分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			2022年度の生物化学IVの授業評価アンケート結果における優秀な成績が認められ、2023年度教育研究活動奨励研究費を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Characterization of galactosyltransferase and sialyltransferase genes mediating the elongation	共著	2024年2月	Biochem Biophys Res Commun (<i>in press</i>)
（論文）Visualizing intracellular sialidase activity of influenza A virus neuraminidase using a fluorescence	共著	2023年10月	J Virol Methods 323, 114838
（論文）Ameliorating effect of the edible mushroom hericium erinaceus on depressive-like behavior in	共著	2022年10月	Biol Pharm Bull 45 (10), 1438-1443
（論文）Glycoproteomics of NOTCH1 EGF repeat fragments overexpressed with different	共著	2022年7月	Glycobiology 37(7), 616-628
（論文）Significant roles of Notch O-glycosylation in cancer.	共著	2022年3月	Molecules 27(6), 1783
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）O-グルコース糖鎖修飾によるEGFリピートタンパク質の品質管理		2023年12月	第46回日本分子生物学会年会
（演題名）骨格筋系列の細胞におけるキシロース含有糖鎖の生合成調節機構に関する研究		2023年11月	USフォーラム2023
（演題名）Quality control of NOTCH and CRB2 proteins containing epidermal growth factor-like (EGF) repeats by xylosyl elongation of O-glucose glycans		2023年11月	米国糖鎖生物学会年会2023
（演題名）Notchシグナルに必須のO-グルコース糖鎖修飾の構造多様性と機能に関する新知見		2023年11月	第96回日本生化学会大会
（演題名）Notch O-グルコース糖鎖修飾に関する生物化学的研究～構造から疾患まで		2023年1月	糖鎖科学中部拠点第18回若手のカフォーラム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年9月	糖鎖科学中部拠点第18回若手のカフォーラム世話人		
2023年7月～現在	米国生化学分子生物学会 J Biol Chem誌 Editorial Board member		
2022年7月～現在	日本薬学会学術誌編集委員		

2022年1月	Notchシグナル研究会世話人
2021年4月～現在	日本生化学会学評議員
2021年4月～現在	Frontiers in Molecular Biosciences誌 Editorial Board member
2021年1月～現在	米国糖鎖生物学会 Glycobiology誌 Editorial Board member
2021年4月～現在	日本糖質学会評議員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬効解析学分野	職名 講師	氏名 辻 大樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する病院実務実習において、実習開始前に要点をまとめた資料を毎回配布し、短時間の講義を取り入れることで基礎知識が身に付くように工夫した。また、各実習の前後でプレテストおよびポストテストを実施し、実習を通しての学生自身が理解度を把握するようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月 2021年10月 2022年9月 2023年4月	がん薬物療法のひきだし（医学書院）分担執筆 がん薬物療法の支持療法マニュアル 改訂第2版（南山堂）分担執筆 臨床腫瘍薬学 第2版（じほう）分担執筆 図解 薬害・副作用学 改訂第3版（南山堂）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2019年6月15日 2020年3月21日 2021年2月23日 2022年11月6日	「医薬品添付文書とPGx情報：がん薬物療法における個別化医療の実際」慶応義塾大学薬学部公開講座 第1回がんプロフェッショナル研修会 「シームレスな人材育成（薬学教育⇒レジデント教育⇒新人教育）」日本臨床腫瘍薬学会 学術大会2020 「全国の都道府県がん診療連携拠点病院の薬剤師ネットワーク構築について（ファシリテーター）」都道府県指導者養成研修および同フォローアップ研修 「薬学の臨床教育と臨床研究について考える - 学生・若手薬剤師に伝えたい10のメッセージ -（教育講演）」日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant, and olanzapine for a cisplatin-containing regimen. - PATROL-I.	共著	2023年12月	Invest New Drugs, in press
（論文）Influence of menopause on chemotherapy-induced nausea and vomiting in highly emetogenic chemotherapy for breast cancer: A retrospective observational study	共著	2023年9月	Cancer Med., 12: 18745-18754.
（論文）Chemotherapy-induced neutropenia as a prognostic factor in patients with extensive-stage small cell lung cancer	共著	2023年5月	Eur J Clin Pharmacol., 79: 407-414.
（論文）Relevance of pharmacogenetic polymorphisms with response to docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy in esophageal cancer.	共著	2022年4月	Invest New Drugs, 40:420-429.
（論文）Results of a nationwide survey of Japanese pharmacists regarding the application of pharmacogenomic testing in precision medicine.	共著	2021年6月	J Clin Pharm Ther., 46: 649-657.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）実臨床でのファーマコゲノミクス検査の普及状況と臨床実装に向けた課題	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
（演題名）A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant and olanzapine for highly emetogenic chemotherapy in breast cancer.	2023年10月	European Society for Medical Oncology (ESMO) 2023 Congress
（演題名）A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant and olanzapine for cisplatin-containing regimen	2023年6月	Multinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC) 2023 Annual Meeting
（演題名）多機関共同研究とキャリアパス：薬学部臨床系教員としての活動	2023年3月	日本薬学会第143年会
（演題名）遠隔転移肺癌患者のゲムシタピン薬効発現に関する遺伝子多型解析研究（GENESECT 試験）	2023年3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2023
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2010年6月～現在	静岡県病院薬剤師会 学術部 がん専門薬剤師部門 委員	
2018年4月～現在	日本医療薬学会学術小委員会（学術第1小委員会、学術第2小委員会）委員	
2020年7月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 臨床研究委員会 委員	
2021年3月～現在	日本医療薬学会 代議員	
2022年1月～現在	日本災害医療薬剤師学会 学術委員会 委員	
2022年12月～現在	日本臨床薬理学会 評議員	
2023年12月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 代議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 統合生理学分野	職名 准教授	氏名 土谷 正樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年～ 2023年度	担当する事前実務実習において、学生1人1人が実習を行った上で各操作を評価し、フィードバックを行い、重要なポイントなどを理解して実践できるように指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Flow cytometric analysis of phosphatidylcholine metabolism using organelle-selective click labeling.	共著	2023年9月	STAR Protocols, 4 (3): 102525.
(論文) Organelle-selective click labeling coupled with flow cytometry allows pooled CRISPR screening of genes involved in phosphatidylcholine metabolism.	共著	2023年6月	Cell Metabolism, 35 (6): 1072-1083.e9.
(論文) The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.	共著	2022年12月	Life science alliance, 6 (2): e202201783.
(論文) Extreme deformability of insect cell membranes is governed by phospholipid scrambling.	共著	2021年6月	Cell Reports 35 (10): 109219.
(論文) Organelle-Selective Labeling of Choline-Containing Phospholipids (CPLs) and Real-Time Imaging in Living Cells.	共著	2021年4月	Current Protocols 1(4): e105.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 1細胞分解能を有するPC合成量とタンパク質合成量の同時解析技術の開発		2023年9月	第17回バイオ関連化学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年～現在	日本生化学会 会員		
2015年～現在	日本脂質生化学会 会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創剤科学分野	職名 講師	氏名 照喜名 孝之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	(講義) 担当する学部講義の物理化学Ⅲ、製剤学、創剤工学において、COVID-19により教科書に加えて、要点や関連情報(日本薬局方、時事ニュース等)を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。国家試験過去問などを練習問題として回答してもらい、授業内容の確認を行っている。	
	2019年～ 2023年度	(実習) 物理系薬剤実習をはじめとして、実習内容の説明時にデモを行うことで、学生が直感的に実習内容を把握できるように指導した。その際に原理や実験の目的の説明に気を配り、実習がただの作業とならないように注意して指導を行った。実験中は頻回に見て回り、声かけ等により質問を受けやすい雰囲気づくりを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年～現在	担当した学部と大学院講義では、毎年学生からの要望をもとに、講義資料を更新した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effect of Manufacturing Conditions on Particle Characteristics in the Drug-Layering Process of a Novel Melt Granulation Technology, MALCORE®, Using a Design of Experiments.	共著	2023年10月	J Pharm Innov, 18: 2158-2169.
(論文) Effect of Liquid Paraffin on the Characteristics of Pressure-Sensitive Adhesives Applied to Medical Tape Formulations.	共著	2023年8月	J Pharm Innov, 18: 2110-2119.
(論文) Sangelose-based gels and films: effects of glycerol and α -cyclodextrin and their pharmaceutical application.	共著	2023年3月	Drug Dev Ind Pharm, 49: 75-83.
(論文) 3D-Printed Fast-Dissolving Oral Dosage Forms via Fused Deposition Modeling Based on Sugar Alcohol and Poly (Vinyl Alcohol)—Preparation, Drug Release Studies and In Vivo Oral Absorption.	共著	2023年1月	Pharmaceutics, 15((2): 395.
(論文) Impact of Properties of Hydrated Silicon Dioxide as Core Material on the Characteristics of Drug containing Particles Prepared by the 2 step Process Melt Granulation Technology, MALCORE®.	共著	2022年12月	AAPS PharmSciTech, 24: 28.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）HPMCASがナノファイバーシートからの非晶質薬物の放出制御と非晶質安定性におよぼす影響	2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
（演題名）Effect of Sucrose esters of fatty acid on the solubility of curcumin and hydroxypropyl cellulose solid dispersion	2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会
（演題名）マイクロ流体デバイス法により調製したDOPCナノ粒子の形態に及ぼすコレステロール含量・PEG修飾の影響	2023年7月	第39回日本DDS学会学術集会
（演題名）動的粘弾性測定に基づく医薬品用賦形剤中に混合した崩壊剤の機能評価	2023年7月	第69回日本薬学会東海支部総会・大会
（演題名）遠心転動造粒における粒子径・水分率・粘弾性の関係	2023年5月	日本薬剤学会第38年会
（演題名）高い過飽和維持能を示すクルクミン固体分散体の調製	2023年3月	日本薬学会第143年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2023年4月～現在	日本薬剤学会英語セミナー委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
	生体機能分子分析	教授	轟木堅一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019-2023年	必修科目である「分析化学I」「分析化学II」、「薬品分析化学」において、教科書に加えて、要点や発展的内容を記載した書き込み型スライドにより講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。実験動画の上映や演示実験、ゲストによるミニ講義、製薬業界や最先端研究に関する紹介やレポート調査など様々なトピックを取り入れた。選択科目である「自然科学概論」「医薬品製造開発論」を分担した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年4月 2021年4月 2020年3月	「分析化学実技シリーズ 機器分析編・8 液体クロマトグラフィー」編集・分担執筆 「パートナー分析化学II」改訂第4版分担執筆 「アップデート薬学機器分析学」編集・分担執筆
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Efficient screening of anti-idiotypic DNA aptamers that bind specifically to trastuzumab for bioanalytical applications	共著	2023年6月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis Open, 1:100006
(論文) Development of a DNA aptamer that binds to the complementarity-determining region of therapeutic monoclonal antibody and affinity improvement induced by pH-change for sensitive detection	共著	2022年5月	Biosensors and Bioelectronics, 203:114027
(論文) Isotope Corrected Chiral and Achiral Nontargeted Metabolomics: An Approach for High Accuracy and Precision Metabolomics Based on Derivatization and Its Application to Cerebrospinal Fluid of Patients with Alzheimer's Disease	共著	2019年7月	Analytical Chemistry, 91:4396
(論文) High-Throughput Bioanalysis of Bevacizumab in Human Plasma Based on Enzyme-Linked Aptamer Assay Using Anti-Idiotypic DNA Aptamer	共著	2019年4月	Analytical Chemistry, 91:3125
(論文) Anti-Idiotypic DNA Aptamer Affinity Purification-High-Temperature Reversed-Phase Liquid Chromatography: A Simple, Accurate, and Selective Bioanalysis of Bevacizumab	共著	2019年2月	Molecules, 24:857

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）液体クロマトグラフィーを基盤とした光学活性物質および抗体医薬の新規分離分析法の開発【学会賞受賞講演】	2023年10月	第34回クロマトグラフィー科学会議
（演題名）抗体医薬のバイオアナリシス法の開発研究【招待講演】	2023年9月	第27回薬物動態談話会夏季セミナー
（演題名）抗体医薬の新規バイオアナリシス法の開発【依頼講演】	2021年11月	第61回 日本臨床化学会年次学術大会
（演題名）Bioanalysis of therapeutic monoclonal antibodies using DNA aptamers as new affinity ligands【依頼講演】	2021年9月	The 31st International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA2021)
（演題名）誘導体化技術を駆使した高感度かつ高精度なキラルメタボロミクス【依頼講演】	2019年5月	第79回分析化学討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2021年4月～	静岡県中央図書館協議会会長	
2020年1月～	クロマトグラフィー科学会理事	
2021年4月～2023年3月	新アミノ酸分析研究会会長	
2020年11月	第34回クロマトグラフィー科学会議実行委員長	
2023年1月～	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis Open Editor	
2022年1月～	Separations Editor	
2022年1月～	Chromatography誌副編集長	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 免疫微生物学分野	職名 助教	氏名 中西 勝宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年度～ 2023年度	担当する生物系薬学実習IIにおいて、実験手技のデモの実施、カメラ付き顕微鏡や実験結果の画像を示すなど、言葉や文字のみではなく視覚的にも理解しやすいように講義を行った。また、実習中は随時巡回し、手技に不安のある学生には個別に指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Prevention of Shiga toxin 1-caused colon injury by plant-derived recombinant IgA.	共著	2022年10月	Sci Rep, 12: 17999
(論文) Plant-derived secretory component gives protease-resistance to Shiga toxin 1-specific dimeric IgA	共著	2021年6月	Plant Mol Biol. 106: 297-308.
(論文) Lettuce-derived secretory IgA specifically neutralizes the Shiga toxin 1 activity.	共著	2019年6月	Planta, 250: 1255-1264.
(論文) Plant-derived secretory component forms secretory IgA with shiga toxin 1-specific dimeric IgA produced by mouse cells and whole plants.	共著	2019年2月	Plant Cell Rep, 38: 161-172.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) GPR31 signaling enhances immune responses in Peyer's patches by inducing dendrite protrusion of CX3CR1+ phagocytes to M cells		2024年1月	第52回日本免疫学会学術集会
(演題名) 腸内細菌代謝産物によるパイエル板食細胞の抗原取り込み促進作用の解析		2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) GPR35の脂肪組織マクロファージを介した炎症制御の解析		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術集会2023
(演題名) 病原性細菌感染におけるGPR31シグナルを介したパイエル板食細胞の抗原取り込みと免疫応答の解析		2023年9月	第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフィォーラム2023
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年12月～現在	日本薬学会 会員		
2012年9月～現在	日本免疫学会 会員		
2015年6月～現在	日本植物バイオテクノロジー学会 会員		
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2022 協力委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生命物理化学分野	職名 教授	氏名 橋本 博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する物理化学Ⅰ、物理化学Ⅱにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。各章ごとに確認問題を提示し、その解説を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年3月 2020年3月	学際的創薬科学論（京都廣川書店）分担執筆 アップデート薬学機器分析学（廣川書店）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）The 9-1-1 DNA clamp subunit RAD1 forms specific interactions with clamp loader RAD17, revealing functional implications for binding-protein RHINO.	共著	2023年4月	J Biol Chem, 299: 103061.
（論文）Crystal structure of the sliding DNA clamp from the Gram-positive anaerobic bacterium Clostridioides difficile.	共著	2023年1月	J Biochemistry, 173: 13.
（論文）Structural basis for molecular interactions on the eukaryotic DNA sliding clamps PCNA and RAD9-RAD1-HUS1.	共著	2022年10月	J Biochemistry, 172: 189.
（論文）Structure of HIRAN domain of human HLTFF bound to duplex DNA provides structural basis for DNA unwinding to initiate replication fork regression.	共著	2020年6月	J Biochemistry, 167: 597.
（論文）Structure of the RAD9-RAD1-HUS1 checkpoint clamp bound to RHINO sheds light on the other side of the DNA clamp.	共著	2020年1月	J Biol Chem, 295: 899.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）チェックポイントクランプ9-1-1のRAD1サブユニットとクランプローダーのRAD17サブユニットとの相互作用に関する構造生物学的研究		2023年5月	第87回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム
（演題名）9-1-1クランプとそのローダーであるRAD17との相互作用に関する構造研究		2023年11月	令和5年(2023年)度日本結晶学会年会および会員総会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2019年4月～2020年3月	日本薬学会東海支部会計幹事	
2019年9月～2021年8月	日本生化学会中部支部副支部長	
2020年4月～2022年3月	日本結晶学会評議員	
2020年1月～現在	Journal of Biochemistry, Associate Editor	
2017年4月～現在	放射光共同利用実験審査委員会委員（PF-PAC委員）	
2022年4月～現在	日本結晶学会情報委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品創製化学分野	職名 教授	氏名 濱島義隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	必修科目である「基礎化学」「有機化学I」において、教科書に加えて、要点や発展的内容を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回、演習問題を提示し、解説・自己採点を行っている。また、選択科目である「有機合成論」「医薬化学」を分担して講義した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年3月	学際的創薬科学論 一有機化学・薬理・構造生物学・薬物動態・安全性から創薬を考察する一(京都廣川書店) 分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会 「静岡県立大学薬学部における薬害後援会の実績とアンケート調査結果」□ 賀川義之、濱島義隆、谷澤康玄、原雄二、石川智久	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Amide-Ligand-Promoted Silver-Catalyzed C-H Fluorination via Radical/Polar Crossover	共著	2023年2月	J. Org. Chem., 88, 1865-1874 (2023)
(論文) Enantioselective Synthesis of Bromodifluoromethyl-containing Oxazolines by Concerted Lewis/ Brønsted Base Catalysis with Chiral Bisphosphine Oxide	共著	2023年2月	Chem. Asian J., 18, e202300141 (2023)
(論文) Mechanistic Details of Asymmetric Bromocyclization with BINAP Monoxide: Identification of Chiral Proton-Bridged Bisphosphine Oxide Complex and Its Application to Parallel Kinetic Resolution	共著	2022年2月	J. Am. Chem. Soc., 144, 3913-3924 (2022)
(論文) Structure Dependence in Asymmetric Deprotonative Fluorination and Fluorocyclization Reactions of Allylamine Derivatives with Linked Binaphthyl Dicarboxylate Phase-Transfer Catalyst	共著	2021年9月	J. Am. Chem. Soc., 143, 16599-16609 (2021)
(論文) Dual-Role Catalysis by Thiobenzoic Acid in C α -H Arylation under Photoirradiation	共著	2021年1月	ACS Catal., 11, 82-87 (2021)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 有機触媒による精密分子変換の開発研究 -不斉ハロゲン化の化学について-		2023年5月	有機合成化学協会東北支部 仙台地区春の講演会
(演題名) 触媒設計で拓く新反応開発 -キラル含フッ素化合物合成法-		2023年8月	有機合成化学協会東海支部 若手研究者のためのセミナー
(演題名) 触媒設計で拓くフッ素含有化合物の合成法		2023年9月	第39回有機合成化学セミナー
(演題名) 新規チオウレア光触媒によるラジカル反応		2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム

(演題名) チオ安息香酸の二重触媒作用を利用した可視光駆動型アリルアミン類の位置選択的官能基化反応の開発	2023年11月	第123回有機合成シンポジウム
(演題名) ジフルオロアルケン類のトリフルオロメチル基形成を介した不斉フルオロアミド環化反応	2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2012年4月～現在	モレキュラーキラリティーシンポジウム世話人	
2018年4月～現在	ケミカルバイオロジー学会 世話人	
2018年4月～現在	静岡県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員 (委員長)	
2021年4月～現在	高度先導的薬剤師養成プログラム運営委員会委員	
2021年2月～2023年2月	公益社団法人有機合成化学協会「協会誌」編集委員	
2022年4月～2024年3月	公益社団法人 日本薬学会 創薬セミナー委員	
2022年4月～現在	静岡市スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員(副委員長)	
2023年4月～2024年3月	大学評価委員会 大学評価 分科会 委員	
2023年4月～2024年3月	薬剤師国家試験委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学	職名 助教	氏名 浜辺 俊秀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年～ 2023年度	2023年度より医療系・生物系薬学実習の一部を担当している。前年度より該当する内容を引き継ぐ形であったが、実習書の記載内容や実習前の導入講義にて、当日行う実験に関する科学的な原理・原則を丁寧に説明することにした。必要な部分については、教科書とは別に図を作成し、学生の理解を促すことを心掛けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）6-Shogaol, an Active Component of Ginger, Inhibits p300 Histone Acetyltransferase Activity and Attenuates the Development of Pressure-Overload-Induced Heart Failure.	共著	2023年5月	Nutrients, 15: 2232
（論文）Adipocytes contribute to tumor progression and invasion of peritoneal metastasis by interacting with gastric cancer cells as cancer associated fibroblasts	共著	2023年1月	Cancer Rep., 6: e1647
（論文）Auraptene, a citrus peel-derived natural product, prevents myocardial infarction-induced heart failure by activating PPAR α in rats.	共著	2022年12月	Phytomedicine, 107: 154457
（論文）Localized astrogenesis regulates gyrification of the cerebral cortex.	共著	2022年3月	Sci. Adv., 8: eabi5209
（論文）Glial cell type-specific gene expression in the mouse cerebrum using the piggyBac system and in utero electroporation.	共著	2021年3月	Sci. Rep., 11: 4864
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）High throughput screening assay により同定した RFN-409 は圧負荷による心肥大と左室収縮能低下を抑制した		2023年6月	第8回日本心血管協会学術集会
（演題名）セロトニン 2A 選択的拮抗薬であるサルボグレラートは圧負荷による心肥大および心機能の低下を抑制した		2023年6月	第8回日本心血管協会学術集会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2023年2月	第289回全国禁煙アドバイザー育成講習会 in 静岡、委員	
2023年8月、9月、11月	静岡市主催健康イベント、健康測定コーナー出展	
2022年9月、11月	みらい共育センターCOC主催健康イベント、健康測定コーナー出展	
2022年4月～現在	日本薬学会 所属	
2022年4月～現在	日本循環器学会 所属	
2022年8月～現在	日本神経科学会 所属	
2017年3月～現在	日本がん転移学会 所属	
2022年10月～現在	日本脳腫瘍学会 所属	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	生命物理化学分野
職名	准教授	氏名	原 幸大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する生物物理化学、自然科学概論において、教科書に加えて、講義資料をタブレットを用いて要点を書き込む形で講義した。資料はpdfと印刷物を配布した。講義内容に関連する数式で導出や証明が必要なものは、解法をタブレットを用いて板書しながら説明した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(著書) Unusual arrangement of self-resistance allows biosynthesis of de novo purine biosynthesis inhibitor that acts as an immunosuppressor.	共著	2023年12月	J Am Chem Soc, 145: 26883-26889.
(著書) The 9-1-1 DNA clamp subunit RAD1 forms specific interactions with clamp loader RAD17, revealing functional implications for binding-protein RHINO.	共著	2023年4月	J Biol Chem, 299: 103061.
(論文) Catalytic mechanism and endo-to-exo selectivity reversion of an octalin-forming natural Diels-Alderase.	共著	2021年3月	Nature Catal, 4: 223-232.
(論文) Specialized flavoprotein promotes sulfur migration and spiroaminal formation in aspirochlorine biosynthesis.	共著	2021年1月	J Am Chem Soc, 143: 206-213.
(論文) Structural basis of HEAT-kleisin interactions in the human condensin I subcomplex.	共著	2019年5月	EMBO Rep, 20: e47183.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) チェックポイントクランプのRAD1サブユニットを介したクランプローダーとの相互作用の構造生物学的解明		2023年6月	第27回DNA複製・組換え・修復ワークショップ
(演題名) DNA clamp構造生物学研究の新展開		2023年1月	東京農業大学大学院講義
(演題名) Structural basis for genome modality of DNA mismatch		2022年11月	学術変革領域研究A DNAの物性から理解するゲノムモダリティ領域会議
(演題名) シミ・そばかすの原因タンパク質のX線結晶構造解析		2021年11月	東京農業大学大学院講義

(演題名) ATR-Chk1経路を担うcheckpoint clamp複合体の構造解析	2019年11月	第25回DNA複製・組換え・修復ワークショップ
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2014年1月～現在	日本薬学会正会員	
2014年8月～現在	日本分子生物学会正会員	
2014年9月～現在	日本結晶学会正会員	
2015年5月～現在	日本蛋白質科学会正会員	
2019年4月～2021年3月	日本薬学会ファルマシアトピックス小委員	
2023年10月～現在	静岡県立大学生涯健康科学ジャーナル編集委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	統合生理学分野
職名	教授	氏名	原 雄二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫		担当する機能形態生理学I、II、IIIにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（生理学に関する時事ニュース等）を記載したスライドを作成し講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。要点となる回ごとに演習問題を提示し、その解説を行うことで学生の理解向上を図った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） N-terminal domain on dystroglycan enables LARGE1 to extend matriglycan on α -dystroglycan and prevents muscular dystrophy.	共著	2023年2月	Elife.12:e82811.
（論文） The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.	共著	2022年11月	Life Sci Alliance. 6(2):e202201783
（論文） A Piezo1-KLF15-IL-6 axis mediates immobilization-induced muscle atrophy.	共著	同 年3月	J. Clin. Invest. e154611 (2022).
（論文） Cell-autonomous control of intracellular temperature by unsaturation of phospholipid acyl chains.	共著	同 年5月	Cell Rep., 38, 110487
（論文） Extreme deformability of insect cell membranes is governed by phospholipid scrambling.	共著	2021年6月	Cell Rep., 35, 109219
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Role of the mechanosensing machinery in skeletal muscle h		2023年3月	第100回日本生理学会年会
（演題名） The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration		2023年3月	International Symposium on Mechanobiology for Human Health
（演題名） The mechanosensitive ion channel PIEZO1 promotes satellite cell function in muscle regeneration.		2023年9月	MBI Conference 2023: Mechanobiology in Health and Disease
（演題名） 骨格筋再生における機械受容イオンチャネルの役割		2023年12月	第97回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年8月～現在	日本筋学会 理事		
2021年6月～現在	日本脂質生化学会 幹事		

2023年11月～現在	日本生化学会 代議員
2022年9月	公立大学連携薬剤師生涯学習講座

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬生命化学	職名 助教	氏名 疋田 智也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年度	担当する生物化学Ⅱにおいて、教科書に加えて、要点や関連情報（関連論文、時事ニュース等）、動画を用いたスライドを作成し講義を行った。毎回前に行った授業の要点を再確認し、重要な点を何度も確認するとともに、興味深い関連トピックを入れることで授業への関心を深めてもらうよう取り組んだ。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Quantification and imaging of Exosome via Luciferase-Fused Exosome Marker Proteins: ExoLuc System.	共著	2022年7月	Methods Mol Biol. 2524:281-290.
（著書）MEK/ERK-mediated oncogenic signals promote secretion of extracellular vesicles by controlling lysosome function.	共著	2022年4月	Cancer Sci. 113:1264-1276.
（論文）A mass spectrometric method for in-depth profiling of phosphoinositide regioisomers and their disease-associated regulation.	共著	2022年1月	Nat Commun. 13:83.
（論文）In vivo imaging of long-term accumulation of cancer-derived exosomes using a BRET-based reporter.	共著	2020年10月	Sci Rep. 10:16616.
（論文）Sensitive and rapid quantification of exosomes by fusing luciferase to exosome marker proteins.	共著	2018年9月	Sci Rep. 8:14035.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2023年 - 現在		日本薬学会会員	
2008年 - 現在		日本癌学会会員	

2016年 - 現在	日本細胞外小胞学会会員
2010年 - 現在	日本細胞生物学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生命物理化学分野	職名 講師	氏名 菱木 麻美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する物理系薬学実習、医用工学実習において、要点や実験手法を指導した。科学演習においては、ディベートのためのスライド作成技術や発表の仕方について指導した。自然科学概論の講義においては、スライドを印刷物として配布し、身近な現象を科学的アプローチから解説した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月	物理系薬学実習テキスト（初版）新項目執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）X線構造解析に向けたタンパク質結晶の凍結保存	単著	2023年7月	技術情報協会、タンパク質の構造解析手法とIn silicoスクリーニングへの応用事例 第一版：196-203
（論文）The 9-1-1 DNA clamp subunit RAD1 forms specific interactions with clamp loader RAD17, revealing functional implications for binding-protein RHINO	共著	2023年4月	J Biol Chem, 299: 103061
（論文）Crystal structure of the sliding DNA clamp from the Gram-positive anaerobic bacterium Clostridioides difficile.	共著	2023年1月	J Biochem, 173: 13-20
（論文）Structural basis for molecular interactions on the eukaryotic DNA sliding clamps PCNA and RAD9-RAD1-HUS1.	共著	2022年9月	J Biochem, 172: 189-196
（論文）Development of a DNA aptamer that binds to the complementarity-determining region of therapeutic monoclonal antibody and affinity improvement induced by pH-change for sensitive detection.	共著	2022年5月	Biosens Bioelectron, 203: 114027
（論文）Structure of the HLTF HIRAN domain and its functional implications in regression of a stalled replication fork.	共著	2020年8月	Acta Crystallogr D Struct Biol, 76: 729-735
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ディフィシル菌由来スライディングクランプによるDNAポリメラーゼの認識機構		2023年11月	第96回日本生化学会大会

(演題名) Clostridioides difficile由来スライディングクランプとDNA ポリメラーゼとの相互作用に関する構造基盤	2023年10月	令和5年(2023年)度日本結 晶学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2019年9月～2021年8月	日本生化学会中部支部幹事	
2022年4月～現在	日本薬学会物理系薬学部会若手世話人	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生命物理化学分野	職名 助教	氏名 瀧上 壮太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2023年度	薬品物理化学特論の担当回において、基礎知識から最先端の研究成果までをスライドを用いて講義を行った。スライドのPDFファイルはあらかじめダウンロードできるようにした。履修学生に自分の研究について考えさせる課題に取り組ませた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Particle Smoother to Assimilate Asynchronous Movie Data of High-Speed AFM with MD Simulations	共著	2023年4月	J. Chem. Theory Comput., 19, 4678
(論文) Evaluation for Ion Heating of H2A-H2B Dimer in Ion Mobility Spectrometry-Mass Spectrometry	共著	2023年10月	Mass Spectrom. (Tokyo), 12, A0131
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 静電および疎水性相互作用を考慮した気相粗視化分子シミュレーション法の開発		2023年5月	第71回質量分析総合討論会
(演題名) 静電および疎水性相互作用を考慮した粗視化分子動力学シミュレーションによる気相構造解析		2023年7月	第23回日本蛋白質科学会年会
(演題名) 高速原子間力顕微鏡データと分子シミュレーションのデータ同化: ミオシンVの歩行運動への適用		2023年9月	第17回分子科学討論会
(演題名) Data assimilation analysis of myosin V walking: High-speed atomic force microscopy data and molecular simulations		2023年11月	第61回日本生物物理学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2001年1月～現在	日本物理学会 会員		
2003年4月～現在	日本蛋白質科学会 会員		

2003年6月～現在	日本生物物理学会 会員
2008年6月～現在	分子科学会 会員
2012年1月～現在	Biophysical Society 会員
2023年4月～現在	日本薬学会 会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生体機能分子分析分野	職名 助教	氏名 古庄仰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年度～ 2023年度	担当した講義である自然科学概論は、他学部の学生を含めた1年生向けの講義であるため、専門的な用語を可能な限り排除した平易な授業を心がけた。また、講義内容に関連する時事問題を多く取り上げ、講義時間外でも学生の興味関心を引き出すような講義とした。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年度～ 2023年度	担当する講義についてレジュメを作成し、学生に配布した。物理系薬学実習で使用する実習書について、他の教員と共に作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年8月25日 2023年3月1日 2023年10月28日	<p>大学主催のFD講演会「多様な性・生き方を尊重する社会の中で」(犬塚協太先生)に参加し、多様な性のあり方とセクシュアルマイノリティーの学生に対する接し方について学んだ。</p> <p>一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター主催の講演会「大学ができる自殺対策～ヘルシーキャンパスを目指して～」(太刀川弘和先生)に参加し、精神的な問題を抱えた学生に対する配慮の仕方や対応について学んだ。</p> <p>第34回クロマトグラフィー科学会議において指導学生がBest Presentation Award for Young Scientistsを受賞した。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Soluble organic molecules in samples of the carbonaceous asteroid (162173) Ryugu.	共著	2023年2月	Science, 379: eabn9033.
(論文) Simultaneous Determination of All Aminobutyric Acids by Chiral Derivatization and Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry.	共著	2023年2月	Anal. Sci., 39: 463-472.
(論文) Efficient screening of anti-idiotypic DNA aptamers that bind specifically to trastuzumab for bioanalytical applications.	共著	2023年6月	J. Pharm. Biomed. Anal. Open, 1: 100006
(論文) Current bioanalysis of molecularly targeted drugs using liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2023年6月	Chromatography, 44: 45-54
(論文) Polycyclic aromatic hydrocarbons in samples of Ryugu formed in the interstellar medium.	共著	2023年12月	Science, 382: 1411-1416
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) キラルLC/MS/MSを用いたカルニチン鏡像異性体の分離分析法の開発		2023年5月	第83回分析化学討論会
(演題名) Three-Dimensional HPLC Determination of Chiral Amino Acids in the Hayabusa2 Return Sample from Ryugu		2023年6月	51th international symposium on high-performance liquid phase separations and related techniques

(演題名) 1細胞内アミノ酸の誘導体化による高感度質量分析法の開発	2023年9月	日本分析化学会第72年会
(演題名) 誘導体化による一細胞内アミノ酸の高感度質量分析法の開発と種々の細胞試料への適用	2023年10月	第34回クロマトグラフィー科学会議
(演題名) キャピラリー内誘導体化による単一細胞内アミノ酸の高感度質量分析法の開発と一細胞分析への適用	2023年12月	新アミノ酸分析研究会第13回学術講演会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2022年11月	「分析中部・ゆめ21」若手交流会第22回高山フォーラム 実行委員	
2022年12月	新アミノ酸分析研究会第12回学術講演会 実行委員	
2018年10月～現在	日本薬学会会員	
2019年1月～現在	日本分析化学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 科学英語分野	職名 準教授	氏名 ホーク フィリップ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する薬学英語において、薬学専門の教員と一緒に教材を開発して講義を行った。教材はpdfと印刷物として配布した。学生が2人組でロールプレイ・リーディング・翻訳・等した。毎回確認テストを行った。 担当するイングリッシュ リサーチ プレゼンテーションにおいて、教科書を執筆して講義を行った。英語で研究発表をする学生のビデオを撮って、フィードバックした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Can ChatGPT be considered an author of a medical article?	共著	2023年4月	J Epidemiology, 33: 381.
（論文）Chrysanthemum morifolium extract ameliorates doxorubicin-induced cardiotoxicity by decreasing apoptosis.	共著	2022年1月	Cancers, 14: 683.
（論文）The impact of the American Society of Anesthesiology-Physical Status classification system on the treatment and prognosis of patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy.	共著	2022年6月	Int J Clin Oncol, 27: 1289.
（論文）Serum carnitine as a biomarker of sarcopenia and nutritional status in preoperative gastrointestinal cancer patients.	共著	2021年12月	J Cachexia Sarcopenia Muscle, 13: 287
（論文）Guidelines are urgently needed for the use of preprints as a source of information.	共著	2020年11月	J Epidemiology, 31: 97.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Basic academic communication: Oral presentations and research discussion		2023年5月	鳥取大学大学院連合農学研究科 Academic Science Communication Meeting 1 2023
（演題名）Creating a clear research story: Narrative, slide design, and grammar		2023年2月	日本薬剤学会 Global Education Seminar West 2022 - 2nd

(演題名) Advanced academic communication: Journal article writing and research ethics	2022年10月	鳥取大学大学院連合農学研究科 Academic Science Communication Meeting 2 2022
(演題名) Telling a clear research story	2021年8月	日本生化学会 生化学若い研究者の会 Summer School 2021
(演題名) From basic to advanced: Six ways to improve your English presentation	2019年9月	Liposome Research Days 2019 Satellite Lecture
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2013年4月～現在	静岡県立総合病院 医学英語研修プログラム 指導講師	
2013年2月～現在	科学技術振興機構 スーパーサイエンスハイスクール事業推進 指導講師	
2014年7月～現在	徳島大学 薬学部 薬学英語研修プログラム 指導講師	
2016年11月～現在	中部大学 生命健康科学研究所 科学英語研修プログラム 指導講師	
2018年6月～現在	徳島文理大学 香川薬学部 薬学英語研修プログラム 指導講師	
2020年12月～現在	東京大学 医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点 英語セミナーシリーズ 指導講師	
2021年10月～2022年10月	東京女子医科大学 英語セミナー 指導講師	
2021年11月～現在	静岡社会健康医学大学院大学 English Seminar Series 指導講師	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	衛生分子毒性学分野
職名	助教	氏名	保坂 卓臣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する公衆衛生学、衛生薬学Ⅰ、毒性学において、教科書や関連情報を基にスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。また、確認問題を作成して配布し、解答させた後に解説を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Interaction with YAP underlies the species differences between humans and rodents in CAR-dependent hepatocyte proliferation.	共著	2023年12月	Toxicol Sci, in press
(論文) Development of a strategy to identify and evaluate direct and indirect activators of constitutive androstane receptor in rats.	共著	2022年12月	Food Chem Toxicol. 170: 113510.
(論文) Possible involvement of the upregulation of Δ Np63 expression mediated by HER2-activated aryl hydrocarbon receptor in mammosphere maintenance	共著	2022年10月	Int J Mol Sci. 23: 12095.
(論文) Differential DNA-binding and cofactor recruitment are possible determinants of the synthetic steroid YK11-dependent gene expression by androgen receptor in breast cancer MDA-MB 453 cells.	共著	2022年10月	Exp Cell Res. 419: 113333.
(論文) Involvement of the CYP1A1 inhibition-mediated activation of aryl hydrocarbon receptor in drug-induced hepatotoxicity.	共著	2022年9月	J Toxicol Sci. 47: 359-373.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Rosiglitazone synergistically induces CYP3A4 in human intestine-derived LS180 cells through activation of nuclear receptors PPAR γ and PXR.		2023年9月	2023 ICCP450/JSSX International Joint meeting
(演題名) ER α 陽性乳がん細胞の核内受容体PXR依存的な増殖抑制		2023年9月	フォーラム2023衛生薬学・環境トキシコロジー
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年9月～現在	日本動物実験代替法学会 広報委員		
2023年4月～現在	日本動物実験代替法学会 代議員		
2023年9月	2023 ICCP450/JSSX International Joint meeting 実行委員		
2021年9月～2022年11月	日本動物実験代替法学会第35回大会 事務局担当、実行委委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品化学分野
職名	教授	氏名	眞鍋 敬
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する有機化学Ⅱにおいて、教科書に加えて、独自の問題集を作成し、PDFとして配布した。また予習復習用に毎回の要点をまとめた動画を作成し公開した。化学入門においては、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと配布した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年4月	予習復習用動画 (https://www.youtube.com/watch?v=IcT5QQJiT8A&list=PLWJajq3cbzBs2bv90k3wfHafwHU3EIEyX)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月	化学ポータルサイト「Chem-Station」内の「有機化学実験基礎講座」動画コンテンツとして、研究室内で作成・利用していた実験教育動画を15本提供した。 (https://www.chem-station.com/blog/2022/04/ocl.html)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所・発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Pyrroloindoline/Pyridoindoline Synthesis via C3-Dearylative Arylation/Cyclization of Tryptamine/Homotryptamine Derivatives Using Palladium-Dihydroxyterphenylphosphine Catalyst	共著	2023年6月	Org. Lett. 2023, 25, 4913-4917.
(論文) Palladium-Catalyzed C-H Arylation of [1,1'-Biphenyl]-2-ols with Chloroarenes	共著	2023年2月	Chem. Pharm. Bull. 2023, 71, 175-182.
(論文) Synthesis of multisubstituted Pyrroles by Ligand-Controlled Site-Selective Arylation and Their Transformation into Multiarylated Pyrrolines and Pyridolines	共著	2022年8月	Tetrahedron 2022, 123, 132962.
(論文) Synthesis of Symmetrical Sulfides Enabled by a Sulfur Dioxide Surrogate Acting as a Divalent Sulfur Source	共著	2022年5月	Org. Lett. 24, 3663-3667.
(論文) Discussion Addendum for: Pd-Catalyzed External-CO-Free Carbonylation: Preparation of 2,4,6-Trichlorophenyl 3,4-Dihydronaphthalene-2-Carboxylate	共著	2020年7月	Org. Synth. 97, 125-138.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)パラジウム触媒を用いる無置換1H-ピロールの位置選択的アリール化による非対称な2,5-二置換1H-ピロールの合成		2023年11月	第49回 反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名)Pd触媒を用いるインドールのC3位アリール化/環化による含窒素多環式化合物の合成		2023年11月	第49回 反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名)二酸化硫黄等価体とプロモアレールを用いるスルフィド合成法の開発		2023年11月	第54回中部化学関連学協会支部連合秋季大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2019年4月～2020年3月	日本薬学会東海支部長
2019年～2020年	静岡県薬事審議会委員
2020年～2022年	大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員
2020年～現在	有機合成化学協会代議員
2020年～2022年	薬学共用試験センター財務委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 実践薬学分野	職名 講師	氏名 三浦基靖
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2022年9月 2023年7月 2023年9月	(臨床薬学演習) 低学年でも実施できるよう調査資料やチューター用資料を整備し演習を行った。 (医療とコミュニケーション、症候学) 教科書に加えて、症例を用いた薬学的介入や方法に関してアクティブラーニングの手法を用いて、講義を行った。 (臨床薬学演習、実務事前実習) 実症例を教育症例へ落とし込み、より臨床現場に近い症例検討を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年5月 2023年7月 2023年9月	(臨床薬学演習) 症例検討用新規課題及びチューター用資料を作成した。 (症候学) 症例検討用課題作成し、講義資料とした。 (実務事前実習) ガイドライン改定に応じたTDM実習用課題及び実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年9月30日	令和5年度第一回国公立大学人材育成ワークショップで発表を実施した	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年 2023年1月 2023年7月	静岡県薬剤師会の「緩和ケア対応(注射の無菌調製)」や「在宅医療における褥瘡」などの研修会にタスクフォースとして参加した。 薬局及び病棟における服薬指導、在宅患者との医療面談、医師による呼吸音の聴診、末梢静脈採血、静脈路確保、筋肉内及び皮下注射手技のVR動画を作成し、実習に使用した。 第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海(静岡)のタスクフォースとして準備を実施した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The prediction of the area under the curve and clearance of midazolam from single-point plasma concentration and urinary excretion in healthy volunteers.	共著	2019年9月	Biol Pharm Bull, 42: 1590-1595
(論文) Verification of a cocktail approach for quantitative drug-drug interaction assessment: a comparative analysis between the results of a single drug and a cocktail drug.	共著	2021年4月	Xenobiotica, 51: 404-412
(論文) Prediction of the Area under the Curve Using Limited-Point Blood Sampling in a Cocktail Study to Assess Multiple CYP Activities.	共著	2021年6月	Biol Pharm Bull, 44: 762-770
(論文) Increased plasma drug concentration and decreased additional insulin secretion following oral administration of glimepiride in Spontaneously Diabetic Torii rats.	共著	2022年1月	Pharmazie, 77, 6-8

(論文) Palatability of Aripiprazole Gummies Prepared from Commercially Available Products: Pharmaceutical Formulation for Improving Patient Adherence.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull, 71, 441-446
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 小児及び成人肺高血圧症患者におけるtadalafil及びambrisentanの母集団薬物動態解析		2023年5月	日本薬剤学会第38年会
(演題名) 直接経口抗凝固薬の薬物治療モニタリングへの応用を目的とした血漿中濃度のLC/MS同時定量法の確立		2023年6月	第39回日本TDM学会・学術大会
(演題名) 色差値による錠剤着色評価の開発		2023年9月	第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム
(演題名) Verification of a cocktail approach for quantitative drug-drug interaction assessment by a comparative analysis between the results of a single drug and cocktail drug		2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
(演題名) 口腔内崩壊錠服用性評価におけるVisual analogue scalesの群間及び繰返し再現性の検討		2023年12月	第44回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2010年～現在	日本薬学会会員		
2012年～現在	日本医療薬学会会員		
2022年～現在	日本臨床薬理学会会員		
2022年～現在	日本薬剤学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生化学分野	職名 講師	氏名 南 彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年4月～ 2023年4月	担当する生物化学III、生物化学IV、生物学入門において、教科書に加えて最新の論文の情報等を提供することにより、学問への興味を持たせるように工夫をした。スライドはpdfと印刷物として配布した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年4月～ 2023年4月	毎年1回、4月開催の本学全学部向む「アイソトープ利用者講習会」で、放射線の関連法規と本学の規定について、講習会参加者（毎年100名程度）に講義した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) The Function of Sialidase Revealed by Sialidase Activity Imaging Probe	共著	2021年3月	Int. J. Mol. Sci., 22 (6), 3187
(論文) Ameliorating effect of the edible mushroom hericium erinaceus on depressive-like behavior in ovariectomized rats	共著	2022年10月	Biol. Pharm. Bull., 45 (10), 1438-1443
(論文) Enhancement of elastin expression by transdermal administration of sialidase isozyme Neu2	共著	2021年2月	Sci. Rep., 11, 3302
(論文) The sialidase inhibitor 2,3-dehydro-2-deoxy-N-acetylneuraminic acid is a glucose-dependent potentiator of insulin secretion.	共著	2020年3月	Scientific Reports, 10(1), 5198
(論文) Mitigation of memory impairment in ovariectomized rats using garlic powder treated with subcritical water.	共著	2020年1月	Clin. Exp. Obstet. Gynecol., 47 (4), 546-551
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) ドパミン作動性神経におけるシアリダーゼアイソザイム NEU2の機能解明		2023年1月	糖鎖科学中部拠点第18回若手のカフォーラム
(演題名) 天然素材由来シアリダーゼは皮膚におけるエラスチン量を増加させる		2023年3月	日本薬学会第143年会

(演題名) 線条体に高い発現を示すシアリダーゼアイソザイムNEU2のドパミン作動性神経における機能解析	2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 認知症発症リスク因子となるシアル酸分子種のラット腸管における吸収過程の検討	2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) Impaired blood-brain barrier integrity during postmenopause induced neuropathic sialic acid accumulation	2023年3月	日本薬学会第143年会
(演題名) 脳におけるシアリダーゼアイソザイムNEU2の機能解明	2023年5月	第87回 日本生化学会 中部支部例会・シンポジウム
(演題名) 線条体神経伝達におけるシアリダーゼアイソザイム NEU2の役割	2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
(演題名) 食餌に由来する認知症発症リスク因子の腸管における吸収機構の解明	2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
(演題名) 線条体に高い発現を示すシアリダーゼアイソザイム NEU2のドパミン作動性神経における機能解析	2023年7月	三大学合同ミーティング
(演題名) 食餌に由来する認知症発症リスク因子の腸管における吸収機構の解明	2023年7月	三大学合同ミーティング
(演題名) Neu5Gc 含有糖鎖の消化と吸収機構の解明	2023年7月	三大学合同ミーティング
(演題名) 老化脳に蓄積する非ヒト型シアル酸は認知機能を減弱させる	2023年7月	三大学合同ミーティング
(演題名) 線条体に高い発現を示すシアリダーゼアイソザイムNEU2の老化に伴う減少と機能解明	2023年8月	第38回老化促進モデルマウス (SAM) 学会学術大会
(演題名) 認知症発症リスク因子となるシアル酸分子種の体内動態の検討	2023年8月	第38回老化促進モデルマウス (SAM) 学会学術大会
(演題名) 線条体に高い発現を示すシアリダーゼアイソザイム NEU2はドパミン神経伝達の制御に関与する	2023年9月	第42回日本糖質学会年会
(演題名) シアリダーゼアイソザイム NEU2 はドパミン神経伝達の制御に関与する	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) アルツハイマー病リスク疾患である生活習慣病は非ヒト型シアル酸の脳内蓄積を促進する	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) 非ヒト型シアル酸の腸管における消化・吸収機構の解析	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) 微生物由来シアリダーゼは皮膚においてエラスチン量の増加に寄与する	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) 骨格筋におけるシアリダーゼ活性の発現分布解析	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) アルツハイマー病の患者脳に含まれる Neu5Gc 含有糖脂質の構造解析	2023年9月	糖鎖科学中部拠点第19回若手のカフォーラム
(演題名) 老化脳に蓄積する非ヒト型糖分子の発見に基づく認知症対策	2023年10月	順天堂大学第67回環境医学研究所、第58回研究推進委員会合同セミナー
(演題名) Digestion of N-glycolylneuraminic acid-containing glycans in the diet by sialidase	2023年11月	Society for Glycobiology (SfG) 2023 Annual Meeting

(演題名) Functions of sialidase revealed by sialidase activity imaging probe	2023年11月	Society for Glycobiology (SfG) 2023 Annual Meeting
(演題名) 食餌に含まれる神経障害性のある非ヒト型シアル酸分子種の消化機構の解析	2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
(演題名) 視覚臨界期の脳皮質視覚野におけるシアリダーゼ活性の変化とその機能解析	2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
(演題名) 糖鎖科学に基づいた皮膚のエラスチン産生を促進する技術の開発	2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) タイスラナリー工科大学との大学間協定を基盤とした研究交流の活性化と機能性食品の開発	2023年11月	USフォーラム2023
(演題名) 次世代型経皮DDSを活用したエラスチン産生促進技術の開発	2023年11月	第7回エラスチン・関連分子研究会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
平成20年1月－現在	糖鎖科学名古屋拠点 運営委員	
令和元年7月－現在	老化促進モデルマウス (SAM) 学会 評議員	
令和元年10月－令和4年9月	The Sialoglyco 2020 symposium (International Glycoconjugate Organization), Board Member	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 臨床薬剤学	職名 准教授	氏名 宮崎 靖則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019-2023年度	担当する実務実習科目の発表会において、口頭発表およびポスター発表をWebと対面併用のハイブリッドで指導薬剤師参加型発表会とし、評価はルーブリックにより行い、さらに優秀発表者を顕彰することで学生のモチベーションアップに努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effect of Equipment Parameters on Amount and Dispersion of Wetting Liquid in Planetary Centrifugal Granulation.	共著	2023年6月	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2023;71(6):428-434.
(論文) Comparative analysis of intercellular lipid organization and composition between psoriatic and healthy stratum corneum.	共著	2023年8月	Chem Phys Lipids. 2023;254:105305.
(論文) Extemporaneous preparation of rifampicin granules from capsules to improve usability.	共著	2023年3月	Eur J Hosp Pharm. 2023 Mar;30(e1):e10-e13.
(論文) 多目的調剤ミキサーを用いたカプセル除去調剤法—アブリンジン塩酸塩カプセルを用いた検討—	共著	2023年3月	薬剤学 83(3) 3, 171-178 (2023)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 自転公転式ミキサーによる五苓散の糖衣コーティング顆粒の調製		2023年7月	第69回日本薬学会東海支部大会
(演題名) ペプチド医薬品の非侵襲的投与を目的とした坐剤の調製		2023年7月	第69回日本薬学会東海支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～	日本薬剤学会 臨床製剤フォーカスグループ グループリーダー		
2021年4月～	日本薬剤学会 代議員		
2022年4月～	日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師認定委員会		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I 教育活動	統合生理学	助教	村上 光
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2022-2023年度	(生物系薬学実習I) 生化学的な実験結果を定性的のみならず定量的に解釈することは科学的・論理的思考を養う上で重要である。そこで、imageJ Fijiを用いて画像データを数値化・考察する実習を導入した。 (統合生理学特論) ミトコンドリアは真核生物の生命活動に必須の細胞小器官であり、その機能異常は様々な疾患の原因となる。そこで、ミトコンドリア生物学を概説するに留まらず、医学・薬学的背景を有する学生が興味を持てるよう、最新の知見を提供した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 生細胞内の熱クロストークが見えた	単著	2023年5月	月刊化学, 78巻
(論文) 膜脂質を介する低温適応の新規メカニズムの解明: 細胞自律的な細胞内温度制御	共著	2023年3月	低温科学, 81巻
(論文) リン脂質の不飽和化を介した細胞自律的な細胞内温度制御	単著	2023年4月	生化学, 95巻
(論文) Cell-autonomous control of intracellular temperature by unsaturation of phospholipid acyl chains	共著	2022年3月	Cell Rep., 38, 110487, 2022
(論文) A Cell-autonomous Control of Intracellular Temperature by Mitochondrial Thermogenesis	単著	2021年10月	Seibutsu Butsuri, 61, 332-333, 2021
(論文) 細胞自律的な細胞内温度の制御機構	共著	2020年12月	細胞, 52巻
(論文) Structure and Function of D9-Fatty Acid Desaturase	共著	2020年	Chem. Pharm. Bull., 67, 327-332, 2019
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
骨格筋幹細胞の分裂に寄与する細胞膜物性の解析.		2023年6月	第65回日本脂質生化学会
1細胞の温度を司る細胞熱特性とその意義の解明.		2023年10月	第5回冬眠休眠研究会
1細胞内における膜脂質依存的な熱散逸抑制機構の発見.		2023年10月	第96回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年-現在	日本生化学会	学会会員	
2016年-現在	日本脂質生化学会	学会会員	
2020年-現在	日本生物物理学会	学会会員	

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 創薬探索センター	職名 助教	氏名 村上 央
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年度	担当する創薬探索学特論では、製薬会社における経験に基づいた実践的な内容で講義した。要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドは予習・復習に活用できるようにpdfとして事前配布して、教育効果の向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Combined therapeutic effect of YHO-1701 with PD-1 blockade is dependent on natural killer cell activity in syngeneic mouse models.	共著	2023年7月	Cancer Immunol Immunother., 72(7), 2473-2482
(論文) Identification and Characterization of a Novel Dual Inhibitor of Indoleamine 2,3-dioxygenase 1 and Tryptophan 2,3-dioxygenase	共著	2022年11月	Int J Tryptophan Res., 30:15:11786469221138456
(論文) Identification of serum and glucocorticoid-regulated kinase 1 as a regulator of signal transducer and activator of transcription 3 signaling	共著	2022年4月	Exp Cell Res., 15;413(2):113079
(論文) Design, synthesis, and evaluation of a novel prodrug, a S-trityl-L-cysteine derivative targeting kinesin spindle protein	共著	2021年4月	Eur J Med Chem., 5:215:113288
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) SARS-CoV-2阻害薬探索のためのアモルファスカーボンプレートを用いた小分子マイクロアレイプラットフォームの構築		2023年12月	第46回日本分子生物学会年会
(演題名) 腫瘍微小環境におけるトリプトファン代謝酵素が引き起こす免疫抑制機構の解析		2023年9月	第82回 日本癌学会学術総会
(演題名) S-trityl-L-cysteine 誘導体と酵素切断リンカーコンジュゲートの合成と評価		2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
(演題名) キヌレニン経路の亢進による腫瘍微小環境の免疫学的変化		2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
(演題名) BTLA-HVEM 結合阻害化合物スクリーニング系の構築		2023年7月	第69回 日本薬学会東海支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年10月～現在		日本癌学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 分子病態学分野	職名 教授	氏名 森本 達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する疾患学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、症候学において、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			第55回東海薬剤師学術大会 「チーム医療における薬剤師の役割 ～静岡県立大学での取り組み～」
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Myogenetic Oligodeoxynucleotide Induces Myocardial Differentiation of Murine Pluripotent Stem Cells.	共著	2023年9月	Int J Mol Sci. 2023;24(18):14380
（論文）MEF2C/p300-mediated epigenetic remodeling promotes the maturation of induced cardiomyocytes.	共著	2023年6月	Stem Cell Reports . 2023;18(6):1274-1283.
（論文）Monodemethylated Metabolites of Orally Administered Nobiletin: Identification and Quantitation in Rat Plasma and Tissues.	共著	2023年6月	J Agric Food Chem . 2023;71(26):10028-10036
（論文）6-Shogaol, an Active Component of Ginger, Inhibits p300 Histone Acetyltransferase Activity and Attenuates the Development of Pressure-Overload-Induced Heart Failure.	共著	2023年5月	Nutrients . 2023;15(9):2232
（論文）Auraptene, a citrus peel-derived natural product, prevents myocardial infarction-induced heart failure by activating PPAR α in rats.	共著	2022年12月	Phytomedicine . 2022;107:154457.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）クルクミンの展開医療研究		2023年12月	第27回日本統合医療学会学術大会
（演題名）The Citrus Flavonoid Nobiletin Prevents Doxorubicin-induced Systolic Dysfunction by Inhibiting Cardiac Apoptosis		2023年7月	19th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology

(演題名) Noble Heart Failure Therapy Using Natural Compound, Curcumin	2023年2月	The First International Conference of CMARS (Cardiovascular, Metabolic, and Aging Research Symposium)
(演題名) HFpEFの新薬の臨床展開から基礎的心不全研究のアップデートまで	2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2022
(演題名) クルクミンの展開医療研究	2022年8月	生体機能と創薬シンポジウム2022静岡
(演題名) GATA4による心不全制御メカニズム	2021年11月	第94回日本生化学学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
1995年4月～現在	日本内科学会 認定医	
2005年4月～現在	日本心不全学会 評議員	
2005年12月～現在	国際心臓研究会 (ISHR) 日本部会 評議員	
2006年4月～現在	日本循環器学会 専門医	
2006年12月～現在	日本内科学会 総合内科専門医	
2009年12月～現在	日本抗加齢医学会 評議員	
2013年4月～現在	日本心血管協会 監事	
2022年5月～現在	日本医師会産業医	
2022年9月～現在	Asian Herat Society (AHS) 理事	

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の「I 教育活動」は、各項目ごとに年

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	臨床薬剤学
職名	助教	氏名	谷澤 康玄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019~2023年度	1年生の早期体験学習では、SGD形式による口頭発表を行った。また5年生の実務実習では口頭およびポスターによる成果発表を対面とWebを併用することにより、指導薬剤師も評価に参加できるようにした。ルーブリックに基き評価した最優秀発表を表彰したことも、学生のモチベーションアップにつながったと考える。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年7月	本学病院・薬局実務実習における学生の経費負担適正化に向けたルール作り
4	その他教育活動上特記すべき事項	2023年4月 2023年7月 2022年7月	令和5年度静岡県立大学薬学系就職説明会事務局 第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ事務局 第90回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ事務局
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanistic analysis of bladder cancer suppression by brassicasterol in a rat model of N-butyl-N-(4-hydroxybutyl)nitrosamine-induced bladder cancer	共著	2021年4月	Traditional & Kampo Medicine, 8, 163-169 (2021)
(論文) A mechanism by which ergosterol inhibits the promotion of bladder carcinogenesis in rats	共著	2020年6月	Biomedicines, 8(7), 180
(論文) Inhibitory effect of ergosterol on bladder carcinogenesis is due to androgen signaling inhibition by brassicasterol, a metabolite of ergosterol	共著	2020年5月	J. Nat. Med., 74(4), 680-688
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
静岡県立大学薬学部学生の「薬害」に対する意識調査～平成29年度薬学講座 “薬害を知り、薬害を考え、薬害を防ぐ” より～		2019年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年6月～2023年9月	公立大学連携薬剤師生涯学習支援講座事務局		
2023年10月	令和5年度薬草講座講師		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品化学分野
職名	助教	氏名	山口 深雪
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する学部2年生の化学系薬学実習において、実験の様子や説明を動画にしたオンデマンド教材を用意し、学生が実習前にいつでも予習できるようにした。実習中はテキストを用いるとともに実演を交えて指導を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Pyrroloindoline/Pyridoindoline Synthesis via C3-Dearomatic Arylation/Cyclization of Tryptamine/Homotryptamine Derivatives Using Palladium-Dihydroxyterphenylphosphine Catalyst	共著	2023年6月	Org. Lett. 2023, 25, 4913-4917.
(論文) Palladium-Catalyzed C-H Arylation of [1,1'-Biphenyl]-2-ols with Chloroarenes	共著	2023年2月	Chem. Pharm. Bull. 2023, 71, 175-182.
(論文) Synthesis of Multisubstituted Pyrroles by Ligand-Controlled Site-Selective Arylation and Their Transformation into Multiarylated Pyrrolines and Pyrrolidines	共著	2022年8月	Tetrahedron 2022, 123, 132962.
(論文) Direct C3-Selective Arylation of N-Unsubstituted Indoles with Aryl Chlorides, Triflates, and Nonaflates Using Palladium-Dihydroxyterphenylphosphine Catalyst	共著	2020年7月	J. Org. Chem. 2020, 85, 10902-10912.
(論文) Synthesis of 2,3-disubstituted indoles from alkynylanilines and 2-chlorophenols using palladium-dihydroxyterphenylphosphine catalyst	共著	2020年4月	Tetrahedron 2020, 61, 151896.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名)パラジウム触媒を用いる無置換1H-ピロールの位置選択的アリール化による非対称な2,5-二置換1H-ピロールの合成		2023年11月	第49回 反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名)Pd触媒を用いるインドールのC3位アリール化/環化による含窒素多環式化合物の合成		2023年11月	第49回 反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名)配位子により位置選択性を制御する1H-ピロールのアリール化と多置換誘導体への変換		2023年11月	第49回 反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年～2021年	日本薬学会ファルマシア トピックス小委員		
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022協力委員		

--	--

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	薬理学分野
職名	助教	氏名	山口 桃生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2023年5月～6月	科学演習の講義スライドを事前に配布した。学生の理解の補助のために、練習問題を作成し、演習中に課題として取り組んでもらった。随時、質問等を受付けて対応した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2019年度 ～2023年度	生物学実習（薬理実習）で使用するテキストを作成し、学生に配布した。2020年度はオンデマンド講義および実習対応の動画教材を作成した。
		2023年5月～6月	科学演習で使用する講義スライドおよび練習問題を作成し、学生に配布した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Non-target GC-MS analyses of fecal VOCs in NASH-hepatocellular carcinoma model STAM mice	共著	2023年6月	Scientific Reports 13, 8924
（論文）Increased tropism of extracellular vesicles derived from palmitic acid-treated hepatocytes to activated hepatic stellate cells	共著	2022年10月	Membranes, 12(10), 1023
（論文）Harmine suppresses collagen production in hepatic stellate cells by inhibiting DYRK1B	共著	2022年2月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 600
（論文）Caffeine-induced inversion of prostaglandin E2 effects on hepatic stellate cell activation	共著	2021年10月	Biomedicine & Pharmacotherapy. 142, 111989
（論文）Quantitative real-time measurement of endothelin-1-induced contraction in single non-activated hepatic stellate cells	共著	2021年8月	PLOS ONE, 16(8) :e0255656. (2021)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Involvement of NRF2 transcription activity in prostaglandin E2-induced facilitation of the inhibitory effect of caffeine on hepatic stellate cell activation		2023年12月	第97回日本薬理学会年会・第44回日本臨床薬理学会学術総会
（演題名）植物由来エキソソーム様ナノ粒子が肝星細胞の活性化制御および細胞への取り込みに及ぼす影響		2023年10月	第44回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム
（演題名）Treatment of hepatocytes with palmitic acid induces the release of extracellular vesicles with tropism to activated hepatic stellate cells		2023年9月	日本薬物動態学会第38回年会・第23回シトクロムP450国際会議 国際合同大会

(演題名) 細胞性粘菌由来低分子化合物をリード化合物とした肝線維化治療標的の探索	2023年8月	静岡県大学研究連携シンポジウム (UniCreSS) 2023
(演題名) 膵 β 細胞由来因子の変化が NASH 進展に与える影響	2023年8月	生体機能と創薬シンポジウム 2023
(演題名) Inhibition of adenosine receptors induces the inversion of prostaglandin E2 effects on hepatic stellate cell activation	2023年7月	the 19th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2023)
(演題名) 構造活性相関をベースとした肝線維化治療標的分子の探索	2023年3月	日本薬学会第143回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2016年～現在	日本薬理学会 会員	
2017年～現在	日本薬学会 会員	
2018年～現在	肝細胞研究会 会員	
2021年9月～現在	静岡実験動物研究会 会員	
2021年10月	第145回薬理学会関東部会 事務局	
2022年4月～現在	静岡県災害薬事コーディネーター	
2022年8月	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022 事務局総務	
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2022 協力委員	
2023年6月～7月	静岡県指導薬剤師養成WS タスクフォース	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬品創製化学分野	職名 助教	氏名 山下 賢二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当した化学系薬学実習Iでは、有機合成に用いる基礎的な手法(化合物の取り扱いや精製方法)を実際に体験させ、得られた結果について議論を行った。実習内容の習得度を向上させるために、学生各個人に対してディスカッションの時間を設けた。基礎化学の担当講義においては、教科書に加えて、要点や関連情報を記載したスライドを作成して講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Chiral Macrocyclic Catalysts for the Enantioselective Addition of Lithium Acetylides to Ketones.	共著	2023年11月	J. Am. Chem. Soc. 145 (48), 26238-26248.
(論文) Switching Regioselectivity in the Asymmetric Bromocyclization of Difluoroalkenes Catalyzed by a Chiral Bisphosphine Oxide.	共著	2023年8月	Synlett 34 (20), 2476-2480.
(論文) Enantioselective Synthesis of Bromodifluoromethyl-containing Oxazolines by Concerted Lewis/Brønsted Base Catalysis with Chiral Bisphosphine Oxide.	共著	2023年4月	Chem. Asian J. 18, e202300141.
(論文) Amide-Ligand-Promoted Silver-Catalyzed C-H Fluorination via Radical/Polar Crossover.	共著	2023年1月	J. Org. Chem. 88 (3), 1865-1874.
(論文) Mechanistic Details of Asymmetric Bromocyclization with BINAP Monoxide: Identification of Chiral Proton-Bridged Bisphosphine Oxide Complex and Its Application to Parallel Kinetic Resolution.	共著	2022年2月	J. Am. Chem. Soc. 144 (9), 3913-3924.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) キラルビスホスフィンオキシド触媒を用いた不斉プロモ環化反応による光学活性含フッ素ヘテロ環化合物の効率的合成		2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年11月～現在	日本化学会会員		
2014年5月～現在	有機合成化学協会会員		
2019年4月～現在	日本薬学会会員		
2023年12月～現在	アメリカ化学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 助教	氏名 山田 幸平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年～ 2023年度	担当する薬剤学、薬物動態学Ⅰ、薬物動態学Ⅱ、薬剤系薬学実習において、教科書内容に加えて臨床・研究を行う上での要点、関連情報を記したスライドを用いて講義を行った。実習の資料は印刷物として、薬物動態学Ⅰ・Ⅱの資料は授業サイト上で PDF として配布した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Recent Advancements in the Development of Nanocarriers for Mucosal Drug Delivery Systems to Control Oral Absorption	共著	2023年11月	Pharmaceutics 15(12): 2708
（論文）Stabilized Astaxanthin Nanoparticles Developed Using Flash Nanoprecipitation to Improve Oral Bioavailability and Hepatoprotective Effects	共著	2023年10月	Pharmaceutics 15(11): 2562
（論文）Solid lipid nanoparticles of lutein with improved dissolution behavior and oral absorption	共著	2023年10月	Pharm. Dev. Technol. 28(9): 877-883
（論文）Self-emulsifying solid dispersion of tacrolimus: Physicochemical and pharmacokinetic characterization	共著	2023年8月	Biopharm. Drug Dispos. 44(6): 387-395
（論文）Polylysine-Containing Hydrogel Formulation of Fuzapladib, Inhibitor of Leukocyte-Function Associated Antigen-1 (LFA-1) Activation, for Sustained Release	共著	2023年7月	Molecules 28(14): 5325
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Nanocarriers with retention in respiratory system for long-lasting effects of drugs		2023年11月	AFPS Conference 2023
（演題名）せん妄の予防・管理を念頭に置いた mianserin 含有点鼻粉末剤:pH-modifier 添加による吸収性改善		2023年9月	第 17 回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム
（演題名）Mucosal drug delivery system による cyclosporine A の経口吸収制御		2023年9月	第 31 回 DDS カンファレンス
（演題名）製品開発における動物を使わない動物実験の実現を目指して: <i>in silico</i> modeling & simulation による吸入剤の体内動態予測		2023年8月	超異分野学会大阪大会

(演題名) 経口ステロイドを用いた大腸炎治療の副作用リスク低減： 腸溶性微粒子によるデキサメタゾンの戦略的大腸送達	2023年7月	第 9 回日本医薬品安全性学会
(演題名) 新規腸溶性 UniORV® による Dexamethasone の戦略的大腸 送達：組織保護作用向上と全身性副作用のリスク低減	2023年5月	第 38 回日本薬剤学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年2月～現在	日本薬学会（2020年まで学生会員，その後は正会員）	
2018年4月～現在	日本薬剤学会（2020年まで学生会員，その後は正会員）	
2019年4月～2020年3月	日本薬剤学会 SNPEE 実行委員	
2018年5月～現在	日本 DDS 学会（2020年まで学生会員，その後は正会員）	
2018年6月～現在	創剤フォーラム（2020年まで学生会員，その後は正会員）	
2022年7月～現在	動物実験代替法学会 正会員	
2022年7月～現在	日本医薬品安全性学会 正会員	
2022年4月～2023年3月	DDS カンファレンス実行委員	
2023年4月～2024年3月	DDS カンファレンス実行委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 衛生分子毒性学分野	職名 教授	氏名 吉成 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年～ 2023年度	担当する公衆衛生学、衛生薬学Ⅰ、衛生薬学Ⅱ、毒性学において、教科書に加えて、要点や関連情報（官公庁資料、時事ニュース等）、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年2月 2020年9月 2020年11月 2021年3月	コンパス衛生薬学-健康と環境-（改訂第3版）（南江堂）分担執筆 衛生化学詳解 第3版（上）（下）（京都廣川書店）分担執筆 薬学演習Ⅲ薬学総論・衛生薬学 スタンダード薬学シリーズⅡ-9（東京化学同人）分担執筆 必携・衛生試験法 第3版（金原出版）分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Interaction with YAP underlies the species differences between humans and rodents in CAR-dependent hepatocyte proliferation.	共著	2023年12月	Toxicol Sci, in press
（論文）Development of a strategy to identify and evaluate direct and indirect activators of constitutive androstane receptor in rats.	共著	2022年12月	Food Chem Toxicol. 170: 113510.
（論文）Distinct roles of the sister nuclear receptors PXR and CAR in liver cancer development.	共著	2022年7月	Drug Metab Dispos, 50: 1019-1026.
（論文）Helix 12 stabilization contributes to basal transcriptional activity of PXR.	共著	2021年9月	J Biol Chem, 297: 100978.
（論文）The influence of the long-term chemical activation of the nuclear receptor pregnane X receptor (PXR) on liver carcinogenesis in mice.	共著	2021年3月	Arch Toxicol, 95: 1089-1110.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）反復投与毒性・発がん性予測のための客観的なリードアクロス手法の開発に向けて		2023年11月	日本動物実験代替法学会第36回大会
（演題名）Read-across-based prediction for the non-genotoxic carcinogenicity of chemicals using molecular descriptors and in vitro assays		2023年8月	12th World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences
（演題名）The association between cytochrome P450 inhibition and hepatotoxicity of chemical compounds		2023年7月	2023 Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology Conference
（演題名）全身毒性評価のための客観的リードアクロス手法の開発		2023年6月	第50回日本毒性学会学術年会

(演題名) 薬剤性肝障害評価におけるシトクロムP450阻害試験の有用性	2023年5月	第30回HAB研究機構学術年会
(演題名) 薬剤性肝障害評価におけるシトクロムP450反応性情報の活用	2023年4月	薬物動態学会談話会4月例会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2011年1月～2021年1月	厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員	
2013年10月～2023年9月	内閣府食品安全委員会専門委員	
2015年6月～現在	HAB研究機構理事	
2016年10月～現在	厚生労働省化学物質のリスク評価検討会委員	
2017年12月～現在	日本薬物動態学会理事	
2017年12月～現在	Drug Metabolism and Pharmacokinetics, Editor-in-Chief	
2018年7月～2022年6月	日本毒性学会理事	
2021年1月～2022年12月	International Society for the Study of Xenobiotics, Council member	
2023年11月～現在	日本動物実験代替法学会理事	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	静岡県立大学	講座名	医薬品製造化学分野
職名	准教授	氏名	吉村 文彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2021年～2023年度	担当する有機化学ⅢおよびⅣ、薬品製造論、医薬品製造化学特論において、理解や知識の整理を助けるため、有機反応の電子の流れを丁寧に記載した独自の講義プリントを作成し、PDFファイルとして配布した。また、大学のポータルサイトを用いて学生からの質問を共有し、学生全員に回答することで、理解を深めるよう努めた。さらに、毎回確認問題を提示し、翌週その解説を行い、学生の理解度を確認した。
2	作成した教科書、教材、参考書	2021年～2023年度	担当する有機化学ⅢおよびⅣ、薬品製造論、医薬品製造化学特論において、独自の講義プリント、演習問題およびその解答プリントを作成し、大学のポータルサイトで公開した。これらの教材は毎年更新し、アップデートしている。また、コロナ禍の2021年度は、講義動画を作成してオンデマンド配信した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Total Synthesis of (-)-Domoic Acid, A Potent Ionotropic Glutamate Receptor Agonist and the Key Compound in Oceanic Harmful Algal Blooms.	共著	2023年2月	Org. Biomol. Chem. 2023, 21, 1653-1656.
(論文) Lipid Droplet Formation is Regulated by Ser/Thr Phosphatase PPM1D via Dephosphorylation of Perilipin 1.	共著	2022年10月	Int. J. Mol. Sci. 2022, 23, 12046.
(論文) Total Synthesis of Isosilybin.	共著	2022年6月	Eur. J. Org. Chem. 2022, e202200653.
(論文) Chemical Synthesis of Brasilicardins.	共著	2020年11月	有機合成化学協会誌 2020, 78, 1085-1093.
(論文) Total Synthesis of Sophoraflavanone H and Confirmation of Its Absolute Configuration.	共著	2020年5月	Org. Lett. 2020, 22, 3820-3824.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) グロボステレン A の合成研究		2023年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2023
(演題名) ハリコニン B の全合成研究		2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年11月	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2022 実行委員		
2022年9月7日～8日	第64回天然有機化合物討論会 実行委員		
2022年7月	菅敏幸教授追悼記念シンポジウム 開催世話人		
2021年10月7日～9日	第50回複素環化学討論会 実行委員		

- [注]
- 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 医薬生命化学分野	職名 講師	氏名 米澤 正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する生物学入門、生物化学Ⅱ、放射化学、臨床検査学において、教科書に加えて、要点や関連情報（官公庁資料、時事ニュース等）、を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。確認問題を提示し、その解説を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Engineering Temperature-Responsive Polymer Nanoparticles that Load and Release Paclitaxel, a Low-Molecular-Weight Anticancer Drug	共著	2023年12月	ACS Omega. 9(1):1011-1019.
（論文）Improvement of LXR-mediated lipid metabolism in nephrotic model kidney accompanied by suppression of inflammation and fibrosis.	共著	2023年7月	Biochem Biophys Res Commun. 666, 122-127
（論文）Increasing the siRNA knockdown efficiency of lipid nanoparticles by morphological transformation with the use of dihydrosphingomyelin as a helper lipid.	共著	2023年5月	Biomater Sci 11, 3269-3277
（論文）Cooling-induced, localized release of cytotoxic peptides from engineered polymer nanoparticles in living mice for cancer therapy	共著	2023年3月	J Control Release. 355:745-759.
（論文）Easy preparation of a liposome-mediated protein delivery system by freeze-thawing a liposome-protein complex.	共著	2022年9月	J Mater Chem B. 10(35):6768-6776.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）糖尿病性腎症尿管への薬物送達の実現による新規腎保護戦略の開発		2023年11月	USフォーラム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年8月～現在		消費者庁・セカンドオピニオン事業	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 薬剤学分野	職名 助教	氏名 渡邊 桂佑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2023年	(薬剤系薬学実習) 実験前に基本知識を復習することで、実験内容をより理解できるように実習を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2023年7月16, 17日	第96回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin東海(静岡) 修了
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Comparative observation and analysis of preference behavior based on three types of taxes and locomotor activity in the goldfish, <i>Carassius auratus</i> .	共著	2023年2月	Zool. Sci. 40: e1-6.
(論文)Distribution of neuromedin U (NMU) like immunoreactivity in the goldfish brain, and effect of intracerebroventricular administration of NMU on emotional behavior in goldfish	共著	2022年10月	Peptides. 156: 170846
(論文)Intracerebroventricular administration of α -melanocyte-stimulating hormone (α -MSH) enhances thigmotaxis and induces anxiety like behavior in the goldfish <i>Carassius auratus</i>	共著	2021年8月	Peptides. 145: 170623
(論文)Intracerebroventricular administration of arginine vasotocin (AVT) induces anorexigenesis and anxiety like behavior in goldfish	共著	2019年9月	Peptides. 119: 170118
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2023年4月～現在	日本薬剤学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学分野	職名 教授	氏名 渡辺賢二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019年～ 2023年度	担当する生薬学、漢方薬学Ⅰ、くらしと化学において、多くの教科書で説明されている要点や関連情報に加えて、最新の技術および知見を記載したスライドをして講義を行った。スライドはpdfと印刷物として配布した。毎回の講義の最後に小テストを行い重要な箇所を再認識させ、試験勉強に役立つ工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月	遺伝子・細胞からみた応用微生物学 第3章（朝倉書店）分担執筆
		2020年4月	天然物の化学Ⅱ-第8章 大腸がんバイオマーカーのコリバクチン（東京化学同人）分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Uncommon arrangement of self-resistance allows biosynthesis of de novo purine biosynthesis inhibitor that acts as immunosuppressor.	共著	2023年12月	J. Am. Chem. Soc., 145: 26883-26889.
（論文）Biosynthesis of polycyclic natural products from conjugated polyenes via tandem isomerization and pericyclic reactions.	共著	2023年10月	J. Am. Chem. Soc., 145: 13520-13525.
（論文）Reactive azlactone intermediate drives fungal secondary metabolite cross-pathway generation.	共著	2023年4月	J. Am. Chem. Soc., 145: 3221-3228.
（論文）Alkaloid biosynthetic enzyme generates diastereomeric pair via two distinct mechanisms.	共著	2022年9月	J. Am. Chem. Soc., 144: 5485-5493.
（論文）Catalytic mechanism and endo-to-exo selectivity reversion of an octalin-forming natural Diels-Alderase.	共著	2021年9月	Nature Catalysis, 4: 223-232.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Structural elucidation of natural product colibactin isolated from Escherichia coli in tumor tissues of clinical samples		2023年8月	4th Bandung Shizuoka Food and Pharma Conference
（演題名）Cross-pathway metabolite generation in fungal secondary metabolism driven by reactive azlactone intermediate		2023年4月	2nd Japanese-German Symposium Biosynthesis and Function of Natural Products
（演題名）天然物生合成研究と新展開		2023年10月	第24回天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）特異な骨格構造を持つ植物由来ステロイドの生合成メカニズム解明		2023年1月	学術変革領域研究（A）予知生合成科学 第1回公開シンポジウム

(演題名) 有機／生物合成によるジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A および類縁体の実用供給法の構築	2023年9月	日本生薬学会第69回年会
(演題名) 含窒素三環性化合物 FR901483 の生合成および生産菌における自己耐性機構	2023年9月	第65回天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2025年	PACIFICHEM 2025 オーガナイザー	
2021年～2023年	日本薬学会 生薬天然物部会 部会長	
2021年～現在	日本生薬学会 理事	
2017年～現在	静岡大学 客員教授	
2016年～現在	日本生薬学会 関西支部 委員	
2016年～現在	日本東洋医学会 東海支部 静岡県部会 幹事	
2015年～現在	英国王立化学会 RSC Advances Associate Editor	
2017年～現在	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員 iotics, Council member	
2015年～2017年	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 静岡県立大学	講座名 生薬学分野	職名 助教	氏名 渡邊 正悟
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫		なし	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Reactive azlactone intermediate drives fungal secondary metabolite cross-pathway generation.	共著	2023年1月	J. Am. Chem. Soc. 145, 3221–3228.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 有機/生物合成によるジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A および類縁体の実用供給法の構築		2023・9	生薬学会
(演題名) ジャガイモシストセンチュウ孵化誘因物質 solanoeclepin A および類縁体の実用的供給法の構築		203・10	天然薬物の開発と応用シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表 1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1年	82	82	100
2年	94	88	93.6
3年	90	84	93.3
4年	73	73	100
5年	78	72	92.3
6年	86	86	100

表 2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分のためワクチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	42	12
麻疹	62	5
水痘	65	8
ムンプス	21	48
B型肝炎	0	73

[注] 1) 4年次12月末までにワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状態

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・ 演習室 ²⁾	講義室	135～137	3	409	固定席
	小グループ演習室	20	2	40	可変席
	コンピュータ室	42	1	42	固定席
実習室	実習室	80	6	480	
	模擬薬局	10～40	5	120	TDM室、DI室を含む
自習室等 ³⁾	カレッジホール（開放スペース）	35	1	35	無線LAN設置、可変席
薬用植物園	別紙参照				

- [注] 1) 総合大学では薬学部で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に記入してください。コンピュータ演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものを除く）。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

静岡県立大学薬草園

1 設置場所

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
静岡県立大学 草薙キャンパス (薬学部と同キャンパス)

2 施設の構成と規模

- ・ 標本園 3,300m²
- ・ 栽培圃場 2,000m²
- ・ 温室
 - 展示温室 90m²
 - 栽培温室 20m²
 - 研究温室 20m²

3 栽培している植物種の数

栽培植物数：約800種

羊歯植物 10科14種

裸子植物 8科13種

被子植物双子葉植物 114科620種

被子植物単子葉植物 16科146種

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1),2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数	備 考
教員室 (個室)	32 m ²	1~4 人	25	各研究室の教授室、県立総合病院の教員室
教員室	34 m ²	1~9 人	9	各研究室の教授以外の教員室
セミナー室	36 m ²	0~19 人	19	各研究室の学生も共有するスペース
実験室	59 m ²	0~30 人	88	各研究室の実験室、県立総合病院の実験室
共同利用機器室	42 m ²	0~8 人	16	各研究室が管理する共同利用研究室
恒温室	27 m ²	0~3 人	11	各研究室の恒温室
動物実験室	17 m ²	0~2 人	4	各研究室の動物実験室
物品・試薬保管室	23 m ²	0 人	6	各研究室の物品保管室
学生用居室	33 m ²	12 人	1	研究室の学生用居室

- 1) 施設名は例示です。これらに対応する貴学の施設名でご作成ください。
- 2) 同じ施設に面積が大きく異なるものがある場合は、施設名を「〇〇室(大)」、「〇〇室(小)」のように分けてください。また、複数の講座・研究室で共用する施設には、備考欄にその旨を記載してください。
- 3) 同じ区分とする部屋の面積に幅がある場合は、平均値を整数で記入してください。
- 4) 1室当たりの基準となる収容人数を記入してください。基準人数に幅がある場合は「〇~△人」と記入してください。

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1),2)}	室数	施設の内容
総合研究センター	5	X線分析室、分光分析室、NMR室、元素分析室、電子顕微鏡室
動物実験施設	41	管理室、動物飼育室(22室)、実験室・解剖室(4室)、倉庫、洗浄室、飼料室、フリーザー室、更衣室、マウス飼育室(遺伝子組み換えを含む)(4室)、SPF飼育室、SPF飼育室前室、実験室、洗浄室、飼料室
アイントープセンター	16	配分室、合成実験室(2室)、暗室、測定機器室、動物実験室、低温室、実験室(4室)、無菌室(3室)、滅菌室、実習室
その他の施設	12	実習室(6室)、実習準備室(3室)、天秤室、標本室、滅菌室

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。面積などは不要です。
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備考 ³⁾
中央図書館 ⁴⁾							
附属図書館 (草雄図書館)	655	3,243	20.2	LCフロア セミナールーム グループワークルーム キャレール	LCフロア1室 85 セミナールーム1室 20 グループワークルーム A2室×9 18 B2室×8 16 キャレール6室 6	LCフロア ・プロジェクトター 1 ・スクリーン1 ・ホワイトボード 5 ・蔵書検索端末 1 セミナールーム ・プロジェクトター 1 ・スクリーン1 グループワークルーム ・ホワイトボード 各ルーム 1 キャレール 0 *各室にて貸出用ノートPC利 用可 20	【学部】2,903 薬学部 682 食品栄養科学部 324 国際関係学部 877 経営情報学部 540 看護学部 480 【大学院】340 薬食生命科学総合学府 251 国際関係学研究所 21 経営イノベーション研究科 34 看護学研究科 34
計	655	3,243	20.2		145		

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には、情報処理端末をいくつ設置しているかを記入してください。

3) 「備考」欄には、「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2020年度	2021年度	2022年度	
中央図書館										
附属図書館 (草薙図書館)	420,211	419,633	3,861	1,387	6,623	7,562	図書 4,188 定期刊行物 417 視聴覚資料 46 電子ジャーナ ル 7,583	図書 4,376 定期刊行物 421 視聴覚資料 7 電子ジャーナ ル 7,562	2023年3月31日現在	
計	420,211	419,633	3,861	1,387	6,623	7,562				

[注] 雑誌等すでに製本済みものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフロッピー、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。